

4 貿易協定をめぐる交渉

(1) 日独貿易協定

398

昭和12年9月6日

在独国武者小路大使より
広田外務大臣宛(電報)

日独貿易比率の改訂につき独国側へ打診について

別電

昭和十二年九月六日発在独国武者小路大使より

り広田外務大臣宛第三六四号

貿易比率の改訂試案

ベルリン 9月6日後発

本省 9月7日前着

第三六三號

獨逸ノ對日輸出ハ今後益々増加ヲ豫想セラルル折柄我對獨輸出ハ現行貿易比率ニ關スル了解ニ依リ常ニ一對四ニ釘付セラレ居ル關係上我買付増加ト同額丈ケノ輸出増加ヲ爲スコト不可能ナル一方現行比率ノ改訂ニ付獨逸側ハ日、滿、

獨三國間貿易關係ヲ楯トシ容易ニ應諾セス依テ差當リ現行比率ハ其ノ儘トシ之ト全然別個ニ兩國間ニ一對一ノ新規物々交換取引ノ了解ヲ取付ケ以テ彼我双方ノ外貨爲替支拂ヲ節約スル一方兩國間貿易ノ増進ヲ計ルコトヲ得ハ面白カルヘシト認メ過日首藤商務官ヲシテ同官限リノ私見トシテ獨逸外務省關係當局ニ對シ別電第三六四號ノ趣旨ニ付先方ノ意嚮ヲ「サウンド」セシメタル處先方ハ現行比率ニ關スル了解ニ觸レサル限リ本件實現ノ可能性アルヲ以テ充分考究スヘキニ付此ノ際本案ヲ日本ニ傳達シ交換シ得ヘキ物資其ノ他ニ付詳細ノ具體案ヲ得タル上更ニ意見交換シ度シト述ヘ居タリシ趣ナリ就テハ右篤ト御研究ノ上何分ノ儀具體案ト共ニ御回示請フ

(別電)

ベルリン 9月6日後発

本省 9月7日前着

第三六四號

一、過去一定年度ノ實績ヲ基準トシテ我方ノ獨逸品買付額ニ一定ノ限度ヲ設ケ右ニ順應シテ現行比率ニ依リ我對獨逸出額ヲ定ム、而シテ右以上ノ我方買付ハ之ヲ新規物々交換取引ニ依ル買付額トシ右ニ對シ一對一ノ比率ニ依リ我方ニ於テモ之ト同額ヲ輸出スルコト

二、右ニ依ル我方ノ輸出品ハ獨逸ノ必要トシ他國トノ通商協定ニ障礙トナラサル鯨油其ノ他ノ油脂類ノ如ク原料及食料品ニ限ルコト

三、獨逸側ハ軍需品、機械其ノ他ノ重工業品等ヲ供給ス之カ爲我方ハ成ルヘク英米等ヨリノ買付ヲ獨逸ニ轉換スルコト

四、獨逸カ必要トシ我方ニ於テ供給シ得ル物資ト我方ノ必要トスル獨逸製品需要ノ見込ニ依リ金額ハ五千萬乃至一億圓トスルモ

五、新規物々交換取引ニ關スル限り更ニ商社ヲシテ「シンヂケート」ヲ組織セシメ之ヲ一手ニ取扱ハシムルコト

~~~~~

399

昭和12年10月30日

広田外務大臣より  
在独国武者小路大使宛(電報)

日滿と独国間に貿易協定を締結すること

内閣関係当局の意見一致について

第二六六號

本省 10月30日午後0時5分発

貴電第三六三號ニ關シ

御來示ノ案ニ付關係者(陸海軍、大藏、商工、對滿事務局、資源局等)トモ協議セルカ同案ハ此ノ際ノ「アイデア」トシテハ甚タ面白キモノト認メラルルモ事實問題トシテハ(一)獨逸側カ本邦ヨリ買付ケ得ル物品少キ爲貴電四ノ金額ハ少額トナル惧アルコト(二)一々ノ場合一應爲替ノ手當ヲ要スルコト(三)本邦カ獨逸國ヨリ購入シ得ル品目ニ付制限アルコト及右品目ヲ多數ナラシムレハ「シンヂケート」組織ハ困難トナルコト(四)一對一ノ部分ト四對一ノ部分トノ調整カ困難ナルコト等ノ點ニ付更ニ考慮ノ余地アリトノ意見多ク他面滿洲國ニ於テモ茲當分ハ本邦ト同シク多額ノ獨逸品購入ノ要アル事情ヲモ考慮シ此ノ際更ニ一歩ヲ進メテ日滿對獨ノ間ニ或種ノ貿易協定ノ締結ヲ計ルコト最モ機宜ニ適ストノ

コトニ意見ノ一致ヲ見タリ

右ニ對シテハ滿洲國側モ同意ヲ表シ來レルヲ以テ更ニ協議ヲ重ネタル結果最近成案ヲ得右案ニ付目下滿洲側ノ意嚮問合セ中ニ付右判明次第同案電報スヘシ不取敢

~~~~~

400

昭和12年11月9日 広田外務大臣より
在独国武者小路大使宛(電報)

対独貿易協定締結方針に基づき独国と交渉開始方訓令

別電一 昭和十二年十一月九日發広田外務大臣より在

独国武者小路大使宛第二七九号

右方針

二 昭和十二年十一月九日發広田外務大臣より在

独国武者小路大使宛第二八〇号

右方針に関する説明

本省 11月9日後2時30分發

第二七八號(至急)

往電第二六六號ニ關シ

關係省會議ニ於テ協議ヲ重ネタル結果決定ヲ見タル對獨貿

易協定締結方針別電第二七九號ノ通ニシテ其後滿洲國側ノ同意ヲモ得タルニ付別電第二八〇號ノ説明御參照ノ上右方針ヲ獨逸當局ニ提示シ之ヲ基礎トシテ交渉ヲ開始シ右方針ニ關シ先方ノ承諾ヲ取付ケラルル様御盡力相成度本件協定細目ノ點ハ右方針ニ付原則的妥結成立ノ上更ニ申進スヘシ尙目下渡獨ノ途中ナル國民使節伍堂前商相ニハ既ニ右方針ヲ内示シ渡獨ノ上ハ本件協定成立方側面ヨリ援助アリ度旨依頼シ置キタルニ付同使節トモ御聯絡相成様致度

(別電一)

本省 11月9日後2時30分發

第二七九號(至急)

一、日滿兩國ノ獨逸國ヨリノ輸入量増大豫想セラルルヲ以テ日滿兩國ノ對獨輸出増進ヲ圖リ同時ニ相互ノ決濟關係ヲ容易ナラシメ且「クレヂット」ヲ設定スル目的ヲ以テ日滿對獨間ニ貿易協定ヲ締結ス尙右締結ニ伴ヒ現行ノ滿獨貿易協定ハ廢止セラレ又滿洲國側ト「オットー・ウォルフ」財團間ノ「クレヂット」取極ハ本協定内ニ吸收セラ

ルル如ク措置ス

三、本協定ハ年額二億圓ニ達スル迄ハ一對一ノ求償の取極ト
ス從テ右金額ノ範圍内ニ於テハ日滿兩國及獨逸國ハ互ニ
相手側カ其ノ生産品ヲ輸入セル額ト同額迄相手國ノ生産
品ヲ輸入スルモノトス

三、本協定ハ清算協定トシ一年毎ニ決済スルモノトス

四、前記三ノ求償限度ヲ超エテ決済尻力殘リタル場合ハ之ヲ
次期ニ繰越シ得ルモノトス但シ右繰越シ得ル限度ハ本協
定ノ期間内ヲ通シ總額三億圓トス

右繰越サレタル部分ニハ適當ノ利子ヲ附ス又本協定期限
滿了ノ際決済未了ノ分アルトキハ其ノ後三箇年以内ニ之
ヲ支拂フモノトス

五、本協定ノ期間ハ三箇年トス但シ更新シ得ルモノトス

(別電二)

第二八〇號(至急)

本省 11月9日後2時30分發

一、方針一、ニ關シ滿洲國側ト「オットー・ウォルフ」財團間
ノ「クレヂット」設定取極ヲ本協定内ニ吸收セシムルコ
トハ必要條件ニ非ス

三、方針三、ニ於テ求償額ヲ二億圓トセルハ最近ニ於ケル本邦
ノ對獨最高輸出額(一九三六年度)三千五百萬圓及ヒ獨逸
國ノ滿洲物產最高輸入額(即チ一九三〇年度ニ於テ獨逸
ハ第三國經由ヲモ含メ滿洲大豆約百十九萬噸ヲ輸入セル
カ右ハ昨年度輸入數量ノ約五割増ナリ)約一億四、五千
萬圓ノ合計ヲ約一割増加セルモノナリ

三、尙獨逸側ノ日滿兩國物產購入ニ當リ本邦品ノ購入額ヲ減
少セシメサラシムル目的ヲ以テ如何ナル場合ニモ日獨貿
易比率ヲ四對一以下ニ下ケサルコトヲ獨逸側ニ約セシメ
ントノ意見アリタルモ右ハ滿洲國側ヨリ反對アリ結局商
工省側等モ求償額二億圓カ甚タシク低下セシメラレサル
以上右比率設定ノ要ナカルヘシトノコトニテ折合ヲ見タ
リ

四、方針四、ハ「クレヂット」設定ノ原則ヲ示セルモノニシテ
方針三ノ求償限度内ニ於テ決済尻力殘リタル場合ニ於テ
ハ極力相手國生産品ノ買付ヲナサシメ爲替ニ依ル決済ハ
爲サザルモノトス

五、尤モ日滿側ハ獨逸側ニ對シ年額一千五百萬圓乃至二千萬
圓ヲ限度トシテ金又ハ外國爲替ノ支拂ヲ爲スモ差支ナキ

意嚮ナルモ表面上ハ二億圓迄ハ一對一ノ原則ニ依ル求償
取引トナス建前ニテ交渉ヲ進メルコトト致度

轉電先 在滿大使

~~~~~

401 昭和12年11月25日 在独国武者小路大使より  
広田外務大臣宛(電報)

貿易協定締結に関するわが方方針は原則的に  
受諾しえないとの独国側立場につき独外務省  
係官内話について

ベルリン 11月25日後発  
本省 11月26日後着

第五二七號

貴電第二七八號及第二七九號ニ關シ(對獨貿易協定締結ニ  
關スル件)

二十日獨逸外務省係官カ首藤ニ内話スル所ニ依レハ右貴電  
御來示ノ案ハ在滿邦字新聞ニ依リ詳細ニ報道セラレタル爲  
獨逸政府側ニ於テハ在滿獨逸通商代表及在日獨逸大使ヨリ  
ノ報告ニ依リ殆ト其ノ内容ヲ承知シ得タルニ依リ直ニ關係  
省間ニ協議ヲ行ヒ其ノ結果獨逸側トシテハ本件日本側ノ新

案ハ原則的ニ受諾シ得ストノ結論ニ到達セル由ナルカ右ノ  
如ク獨逸側カ反對スル根本理由ハ

一、清算協定ハ現在獨逸通商政策ニ反スルコト即チ獨逸ハ清  
算協定ノ缺陷ヲ認メ之カ廢止ニ努力シツツアル際(例ヘ  
ハ獨蘭間ノ如キ)新ニ之ヲ締結スルコトハ不可能ノ事情  
ニアルノミナラス假ニ之ヲ結フトシテモ日獨ノ距離遠隔  
ナルコト等困難ノ點アリ

二、現在圓滑ニ進行シツツアル滿獨協定ヲ廢止スルヲ希望セ  
ス又之カ廢止ノ根本的理由ヲ認メス唯日滿兩國ニ對スル  
獨逸ノ輸出増大豫想ニ付テハ獨逸側ニ於テモ現行協定ノ  
下ニ兩國ヨリ能フ限り輸入増加ニ努ムヘキハ勿論ナルカ  
新事態ノ發生ニ對應スル樣臨時的措置トシテ現行協定ト  
ハ別個ニ或種ノ求償的取極ヲ爲スコトニハ原則的ニ同意  
スルモ可ナリト言フニアル趣ニテ既ニ獨逸側カ關係者會  
議ノ結果斯ノ如キ決定ヲ爲シ居ル以上前記貴電我方ノ方  
針案ニ付獨逸側ノ承諾ヲ取付クルコトハ全然問題トナラ  
サルコト明カトナリタル次第ナリ此ノ際我方トシテハ大  
體往電第三六三號ノ「ライン」ニ沿フテ貴電第二六六號  
御來示ノ如キ困難ノ點ヲ除去シタル案ヲ考慮シ終極ニ於

テ我方目的ヲ達成シ得ル様工夫ヲ繞ラスノ要アルヘシト  
 思考ス右案ニ關シテハ當方ニテ目下研究中ナルニ付出來  
 次第電報ス

~~~~~

402

昭和十二年十二月五日
 在独国武者小路大使より
 広田外務大臣宛(電報)

**在独国大使館作成の協定案に対し独側は原則
 的に受諾可能との反応について**

別電一 昭和十二年十二月四日発在独国武者小路大使

より広田外務大臣宛第五四九号

右協定案

二 昭和十二年十二月五日発在独国武者小路大使

より広田外務大臣宛第五五〇号

右協定案に関する補足説明

ベルリン 12月5日前発

本省 12月5日夜着

第五四八號(極秘)

往電第五二七號末段ニ關シ

二日外務省係官ニ對シ當方ニ於テ作成セル別電第五四九號

新案ヲ首藤限リノ私見トシテ提示シ先方ノ意嚮ヲ内査セシ
 メタル處同係官ハ同案ナラハ獨逸側ニ於テ原則的ニ受諾シ
 得ヘク妥協ノ見込アリト爲セリ尤モ獨逸側ノ買付クル本邦
 品目及額ニ付テハ獨逸側トシテモ關係省トモ協議ノ要アル
 次第ナルカ獨逸側トシテハ特ニ

(イ)現行日獨貿易了解ノ範圍内ニ於ケル本邦側獨逸品ノ買付
 ニ付テモ本邦ニ於テ輸入割當額ヲ定メ昨年度ノ對日輸出
 品ハ往電第三八八號(二)ノ事情モアルヲ以テ現在本邦輸入
 許可品トナリ居ル分モ出來得ル限り其ノ一部分ニテモ包
 含セシメラレ度キコト

(ロ)新規取極ニ依ル日獨貿易ハ原則トシテ一對一トスルモ日
 本側ノ買付品中ニハ獨逸側カ原料品代ヲ相當巨額ノ外貨
 ニテ支拂フ必要アルモノモアルヘキニ付右ニ對シテハ幾
 分ナリトモ爲替ニテ支拂フ受ケ度キコト

等ノ希望アル旨内話セル趣ナリ就テハ本件右案ノ「ライ
 ン」ニ依リ交渉ヲ進ムルコト得策ト存セラルルニ付篤ト御
 攻究ノ上何分ノ儀御回電ヲ請フ尙本件ニ付テハ我方トシテ
 モ關係省間ニ種々御協議ノコトト存セラルル處前回ノ我方
 案力事前漏洩シ諸般ノ關係上極メテ面白カラサル事態ヲ惹

起セル次第二モ顧ミ機密嚴守方特ニ御配慮煩度シ

(別電一)

ベルリン 12月4日後発

本省 12月5日後着

第五四九號(極祕)

新取極案

一、現行日獨貿易了解ト別箇ニ日獨間ニ貿易取極ヲ締結ス
本取極ハ年額一億圓迄一對一ノ求償的取極トス(別電第
五五〇號參照)

二、本取極ニ依ル獨逸ノ對日輸出品ハ軍需用品其ノ他特定ノ
商品トス

三、本取極ニ依ル日本對獨輸出品ハ

(イ)豆類(大豆ヲ除ク)、葉煙草、魚油、鯨油、魚粉、硬化
油脂及硬化魚油、樟腦油及薄荷油類、茶、生絲、屑
絹、綿布(生地)、自動車「タイヤ」等トス右商品ノ金
額ヲ五千萬圓トス(別電第五五〇號參照)

(ロ)滿洲大豆及其ノ他ノ滿洲製產品右金額ヲ五千萬圓トス
四、決濟方法ハ爲替ヲ通シテ受拂スル支拂協定トス(現行滿

獨協定同様ノ方法ニ依ル)

此ノ運用ハ磅ヲ基準トシ特別ノ金融機關ニ特別勘定ヲ設
ケ其ノ受拂ヲ別箇ニ計算管理セシム(別電第五五〇號參
照)

五、現行日獨貿易了解ハ(一對四ノ比率)其ノ儘トス

但シ新取極年度ニ於ケル獨逸ノ對日輸出額ハ七千四百萬
馬克(昨年實績)トシ日本ノ對獨輸出額ハ千八百五十萬馬
克トス

右獨逸ノ對日輸出品及日本ヨリ獨逸ヘ^(マ)輸出品目ハ夫々
別ニ之ヲ定ム

六、本取極期間ハ一年トス但シ更新スルコトヲ得

(別電二)

ベルリン 12月5日後発

本省 12月5日夜着

第五五〇號(極祕)

一、年額一億圓ノ限度ハ本邦ノ買付増加計畫ノ如何ニ依リ適
宜減額シ差支ナシ

二、我對獨輸出品十二品目ニ對スル一九三六年獨逸總輸入額

ハ二億二千七百萬馬克ニシテ本邦ヨリノ輸入ハ僅二一千百萬馬克(各品種別ノ輸入額ニ付テハ獨逸對外貿易表參照)ニ過キササルヲ以テ獨逸側トシテハ相當巨額ノ收容力アリト思考セラルルノミナラス本邦ノ供給額ヲモ考慮シ本件新協定ニ依ル右品目ノ我對獨逸輸出額ヲ總計三千五百萬馬克(約五千萬圓)ト見積リタル次第ナリ尙右十二品目以外ニ獨逸側ニテ特ニ希望スル商品モアルヘク又本邦側トシテ例ヘハ「ベリラ」油ノ如キ之ニ含マシメ然ルヘシト思考ス

三、決済方法、磅ヲ基準トシ例ヘハ獨逸側ハ「ライヒス、バンク」日本側ハ正金ヲ金融機關トシ

(イ)獨逸ノ輸出ニ對シ正金ハ馬克ヲ支拂ヒ磅手形ヲ取得ス日本ヨリノ輸入ニ對シテハ馬克ヲ受入レテ磅ヲ支拂フ
(ロ)日本ノ輸出ニ對シ正金ハ圓ヲ支拂ヒ磅手形ヲ取得ス獨逸ヨリノ輸入ニ對シテハ正金ハ圓ヲ受入レ磅ヲ支拂フ
從テ右ノ方法ニ依レハ日本カ買越トナレル場合ハ爲替ノ立替ヲ要セス逆ニ日本カ賣越トナレル場合ハ一時爲替ノ立替ヲ要スヘシ

四、現行貿易了解特別一對一ノ分ハ比較的少數ノ特定品に限

定シ例ヘハ正金ニ特別勘定ヲ設ケ特別ノ輸入許可證ヲ兩國政府間ニ於テ發給スルコトニ依リ之ヲ分離調整ス

~~~~~

403

昭和13年1月13日 広田外務大臣より  
在独国東郷大使宛(電報)

# 在独国大使館作成の協定案のラインで交渉開始方訓令

本省 1月13日後8時0分発

第一二號(極秘)

客年貴電第五四八號ニ關シ

一、關係各省ニ於テモ大体異議ナキ模様ナルニ付テハ前顯貴電別電ノ「ライン」ニテ至急本協定ヲ成立セシムル様獨逸側當局ト交渉ヲ開始セラレ度シ

二、尙企畫院ノ調査ニ依レハ本年度中ニ於テ本邦ノ獨逸ヨリ購入ヲ希望シ居ル機械類ハ總額三億圓以上ニ達シ居ルニ付右求償限度ハ成ル可ク大ナルコト望マシク又客年貴電第五七八號末段ノ延拂方法(五年間位)ニ依リ若ハ本求償取極トハ別個二億五千萬圓乃至二億圓ノ「クレデット」ヲ設定スル様致度

三、尤モ右「クレヂット」問題ヲ包含スルコトニ依リ前記求償協定ノ成立ニ支障ヲ來ス虞アル場合ニハ一應之ヲ切離シ求償取極成立後別個ニ交渉スルコトトシ差支ナシ

404

昭和13年1月22日

広田外務大臣より  
在独国東郷大使宛(電報)

満州国を含めた貿易協定を現行の満独協定とは別途締結することにつき独国側の意向打診  
方訓令

本省 1月22日後5時40分発

第二四號(極秘)

往電第一二號ニ關シ

満側ヨリ在滿大使發本大臣宛第三九號ノ通申出アリタル處満側ニ於テハ特ニ本取極ヲ單ニ日獨兩國間ノ取極トセス日滿對獨取極トシ實質上ノミナラス形式上ニモ滿洲國ヲ本取極締結ノ當事者トスル様希望シ居ル趣ナルカ現行滿獨協定ト別個ニ滿洲國ヲ含メタル日滿對獨取極ヲ締結スルコトニ付獨逸側ニ於テ甚タシク難色ヲ示スコトナキヤ又之カ爲本件交渉ヲ特ニ遅延セシムル虞ナキヤ及ヒ本取極運用上ノ便

不便等ニ關シ獨逸側ノ意嚮竝ニ貴見御回電相成度  
在滿大使ニ轉電セリ

405

昭和13年1月23日

在独国東郷大使より  
広田外務大臣宛(電報)

貿易協定締結に関する具体的協議の促進につ  
き独国外相と会談について

ベルリン 1月23日後発

本省 1月24日前着

第二九號(極秘)

貴電第一二號ニ關シ(對獨貿易協定締結ニ關スル件)

往電第二八號「ノ」外相トノ會談ノ際本使ヨリ本邦ノ獨逸ヨリノ輸入ハ從來年額約一億圓ナリシモ客年來激増シ本年ハ更ニ増加ヲ見ルヘキ形勢ニアル處右増加カ(脱)買付額中例ヘハ一億五千萬圓ニ對シテ大體商品ニテ支拂フコトトシ度シト述ヘタル處「ノ」外相ハ日本ノ事情モ充分承知シ居ル次第ニテ右申出ハ大體御尤モト存スル處貴方ヨリ如何ナル商品ヲ輸入シ得ヘキヤニ付研究ノ要アリ又獨逸ノ現狀ニテ相當金額ノ「クレヂット」ヲ設定スルコト至難ナリト答

ヘタルニ付本使ヨリ右金額迄商品ニテ支拂ヒタル後夫レ以上ノ超過分ニ對シテハ年賦拂ノ方法モ一案ナルヘク兎ニ角具體的問題ニ付テハ首藤商務官ヲシテ獨側専門家ト折衝セシムヘキ處右商議ノ圓滑ニ進捗スル様御配慮ヲ得度シト述ヘタル處「ノ」外相ハ御意嚮ハ充分了解セルニ付商議促進方早速事務當局ニ命シ置クヘシト答ヘタリ  
尙貴電第二四號ハ右會談ノ翌日接到セルカ右ニ付テハ追テ電報スヘシ爲念

~~~~~

406 昭和13年1月24日

在独国東郷大使より
広田外務大臣宛(電報)

満州国を含めた貿易協定を現行の満独協定とは別途締結することに独国側難色について

ベルリン 1月24日午後発

本省 1月25日前着

第三五號

往電第二九號末段ニ關シ

貴電御訓令ニ依リ二十一日獨逸當局ニ對シ交渉開始方申入レタル次第ハ冒頭拙電ニ依リ御承知ノ通りニテ獨側ニテハ

爲替管理長官ヲ委員長ト爲シ關係省會議ヲ開キ本邦トノ交渉方針ヲ協議シ近ク第一回交渉ヲ開始スル手筈整ヒ居ル趣ニテ斯ル際滿洲國參加問題ヲ持出スコトハ交渉上面白カラサル影響ナキニアラスト思考シタルモ一方滿側ノ獨逸ヨリノ輸入額増大ノ形勢ニ善處スルノ必要モアルニ付首藤ヲシテ獨外務省係官ト會見セシメ其ノ意嚮ヲ質サシメタル處同係官ハ新日獨取極ニ依リ日滿獨三國間ニ生スヘキ貿易上ノ新事態ニ付テハ協力圓滑ナル運用ヲ計リ度キハ勿論ナルモ獨逸トシテハ日獨及滿獨ト言フ別個ノ建前ヲ執リ居ル現在ニテ別ニ日滿對獨ノ取極ヲ締結スルハ殊更ニ複雑ヲ極ムヘキノミナラス其ノ他諸般ノ關係上到底贊成シ難シ故ニ滿洲國ノ輸入増大ノ事態ニ處スル爲ニハ日滿兩國ノ間ニ於テ獨逸ヨリノ輸入ノ割當ヲ定メ實質的ニ解決スルコト最モ適切ナルヘシト言ヒタル趣ニテ今又本件ヲ正式ニ提議スルモ獨逸側ヲシテ受諾セシムルコト至難ト存セラルルニ付テハ前記ノ如ク日滿間ニ於テ實質的解決ヲ計ル様措置セラレ度シ

~~~~~

407

昭和13年5月2日

広田外務大臣より  
在独国東郷大使宛(電報)

独国外相に対し貿易協定交渉促進につき申入  
れ方訓令

本省 5月2日後2時20分發

第一四二號(極祕)

往電第一四一號二關シ

「リ」外相ト面談ノ機會ニ外相ニ對シ目下交渉中ノ日獨間  
求償取極ノ問題ニモ觸レラレ本件交渉ガ兩國交渉主任者ノ  
努力ニモ拘ハラズ交渉遅々タルハ獨乙側係官ニ於テアマリ  
ニモ事務的見地及利害ノ打算ニトラワレ居ル爲ト認メラル  
ル旨ヲ可然説明セラレタル上日獨協力ノ大局的見地ニ立チ  
政治的考慮ヲ加ヘ極力妥結ヲ促進スルコトノ必要ナル所以  
ヲ獨乙側ノ交渉係官ニ充分徹底セシメラルル様特ニ配慮ア  
リタキ旨申入相成度



408 昭和13年5月6日 在独国東郷大使より  
広田外務大臣宛(電報)

交渉遅延の独国側事情につきヴィール通商局

長内話について

付記一 昭和十三年三月二十八日發在独国東郷大使よ

り広田外務大臣宛電報第一六六号

滞独中の伍堂特派使節の言動が日独關係に及  
ぼす影響について

二 昭和十三年三月二十八日發在独国東郷大使よ

り広田外務大臣宛電報第一六七号

右に関する補足説明

ベルリン 5月6日後發

本省 5月7日前着

第二五一號(極祕)

貴電第一四二號ニ關シ(日獨求償取極ニ關スル件)

何レ「リ」外相歸國ノ上ハ申入ルコト致スヘキモ本件  
交渉ノ妥結促進方ニ付テハ從來「リ」外相ノミナラス「ゲ」  
元帥ニ對シテモ之ヲ強調シ來リ何レモ之ニ贊同シ事務當局  
ニ下命スヘシト爲シ又通商局長「ヴィール」ニ對シテモ速  
カナル準備完成ヲ促シ交渉軌道ニ乘リ來レル次第ナルカ現  
在審議内容ハ既ニ技術的ノ段階ニ入り獨逸側ハ外務、經濟、  
農務、大藏、「ライヒスバンク」等ノ關係官會議ヲ連日開催  
シ漸ク四日終了ヲ見タル趣ニテ一兩日中我方提出求償案ニ  
付協議ニ入ルコトナレリ

尙過般電報ノ通り先方トノ間ニ先ツ重要ナル點ニ付双方意見ノ一致點ヲ見出ス方針ヲ決定シ又取引上、決濟上ノ細目検討ニ付テハ獨逸側ノ夫々専門家トノ意見交換ヲ行ヒ交渉促進ニ最善ノ努力ヲ盡シ居ル次第ナルカ五日首藤「グイー」ノ會見ニ於テ「グイー」ハ獨逸側ニ於テ速ニ交渉妥結到達ヲ切望スルコトハ日本側ト同様ナルカ斯克交渉ノ遅延セタルハ獨逸側ニ政府改造、壤太利併合等據所ナキ事情ノアリタル外其ノ最大原因ハ伍堂使節ノ使命ニ對スル獨逸側ノ誤解ニ端ヲ發シ其ノ後貴方ヨリ度々御話アリタルモ同使節ノ言動等ヨリ獨逸側トシテ去就ニ迷ヒ誠ニ當惑セル立場ニ置カレタルニ基因ス唯漸ク獨逸側ノ準備モ整ヒタレハ此ノ際大イニ奮發シテ速ニ圓滿妥結到達ニ努力致度シト述ヘタル趣ナリ右事情御參考迄

(付記一)

第一六六號(極祕)  
貴電第八五號ニ關シ

ベルリン 3月28日後發  
本省 3月29日前着

本件真相ハ全然右貴電御來示ノ本省係官説明一、二、三ノ通りニシテ貴電第八六號當地海軍武官發電報ハ事實ニ合セス(前電參照)

元來伍堂氏ハ着獨以來獨逸側ニ對シ何等カ經濟關係ニ付帝國政府ヨリ全權ヲ受ケタルカ如ク觸込ミ且特派使節(Sonder mission)ナル名儀ヲ使用シ居レル爲日獨貿易問題ニ付テモ獨逸側ニ於テハ一時ハ伍堂氏ヲ以テ日本側全權ト誤解シタリシモ其ノ後事情判明シ爾來當大使館側ト交渉シツツアルハ御承知ノ通りニテ同氏トシテハ本件ニ關シ本筋ノ交渉ヲ爲シ得サルコトニ內心不滿アルモノノ如シ又支那開發ニ關スル日獨提携ノ問題ニ關シテモ往電第九〇號ノ經緯ニ依リ結局獨逸側ニ於テハ日獨政府間ノ話合トシ度シトノ意嚮ヲ示シ來リ「リ」外相ハ政府間ノ交渉タル以上本使ト同外相間ニ行ヒ度キ旨申出テ從テ政府間ノ交渉ニハ豫備的ト雖伍堂氏ヲ當ラムシムルコト不可能トナリ爲ニ同氏トシテハ更ニ不滿ノ種トナリタルモノノ如キモ致方ナキ次第ナリ

而シテ伍堂氏ヨリ貿易協定ニ關シテハ自分ハ單ニ側面的援助ノ立場ニ在ル點ハ充分了解スルモ其ノ經過ヲ通報アリ度キ旨希望アリタルニ對シ當方トシテハ充分説明ヲ與ヘ居リ

又對支日獨經濟提携ノ問題ニ關シテハ客月末伍堂氏ニ對シ若シ右政府間ノ話合ヲ同氏自身取扱フトセハ相當ノ期間滯獨ヲ覺悟シ先ツ右ニ關シ帝國政府ヨリ全權ヲ受クルノ要アル旨ヲ注意セルニ對シ伍堂氏ハ自分ハ長期ノ滯在ハ不可能ニシテ四月上旬出發歸朝ノ途ニ就ク筈故此ノ際更メテ本件交渉ノ代表トナルヲ得スト述ヘ現ニ獨逸側トノ間ニ盛ニ送別ノ催ヲ爲シツツアル現狀ナリ

然ルニ最近累次往電ノ通り貿易協定問題漸次具體的進展ノ兆ヲ見ルニ及ヒ伍堂氏ハ右ノ經過次第ニ歸朝時期ヲ考慮セントノ意嚮ヲ有スルニ至リタルモノノ如ク態度極メテ明瞭ヲ缺クモノアル處現在ノ貿易協定交渉ニ付テモ同氏ハ當館ヨリ得タル内密ノ情報ヲ直ニ在當地本邦當業者側ニ筒拔ケニ傳ヘ又二十三日ノ「リ」外相トノ會見ノ如キモ當方ニハ何等聯絡ヲ執ラス且或ハ當館附武官ヲ動カシ策動セントスルノ形跡アルカ如キハ現下ノ局面特ニ對獨關係ニ於テ極メテ面白カラサルモノト認メラル

尙伍堂氏トノ經緯ニ付テハ三月上旬陸海軍武官同席ノ際ニ於テ精細説明シ本使ヨリ重ネテ伍堂氏ノ引續キ滯獨ヲ希望スル成行ニアラサルノミナラス其ノ必要ヲ認メサル旨ヲ說

明シタル處陸軍武官ノ如キハ本使ノ決定ニ服スル旨ヲ述ヘタル次第ナリ

以上ノ次第アルノミナラス伍堂氏一行ハ特定財閥方面トノ特殊關係アリトノ非難モ少カラス旁々本使ノ意見ヲ率直ニ述フルニ於テハ諸般ノ關係上同氏ノ引續キ滯獨ハ當方交渉ニ利益アリトハ認メ難ク貿易協定モ漸次細目ノ交渉ニ入ラントスル次第ナルニ付特ニ同氏ノ援助ニ依リ有利トナルヘシトモ思考セラレス

尙廿六日獨逸外務省通商局長主催ノ伍堂氏送別會席上(柳井、首藤列席)同局長ハ伍堂氏ハ *goodwill mission* トシテ來獨セラレ芽出度ク其ノ任務ヲ終了セラレタルヲ喜フトノ挨拶ヲ爲シタル趣ナリ

## (付記二)

ベルリン 3月28日後発  
本省 3月29日前着

第一六七號(極祕、部外祕)

往電<sup>(1)</sup>第一六六號ニ關シ

伍堂氏ノ行動ハ從來獨逸側ニ種々無用ノ誤解ヲ與ヘ當館ノ

對獨交渉上ニモ種々支障ヲ來シタル位ナルモ特ニ同氏ノ立場ヲモ考慮シ之カ報告方差抗<sup>(按カ)</sup>ヘ居リタル次第ナルカ貴電第八六號ノ次第モアリ冒頭往電補足旁申陳ス

一、支那ニ於ケル日獨提携ノ問題ニ關シテハ客年十二月初旬武者小路前大使ニ於テ當地陸海兩武官トモ打合ノ上本問題ニ付伍堂氏ヨリ獨逸側ト折衝ノ場合ニハ伍堂氏トシテハ支那經濟開發ニ關スル日獨提携ノ實際の方法ニ付日本側當業者ト獨逸側然ルヘキ筋トノ間ニ共同シテ調査ヲ行フノ案ニ付日本側當業者ヲ代表スル資格ニ於テ獨逸側ノ意嚮ヲ「サウンド」スルコトトシ其ノ旨伍堂氏ニ提示セル趣本使直後ニ柳井ヨリ報告ヲ受ケ居リタル處右ニ付伍堂氏側ヨリ「リッペントロップ」事務所側ノ意嚮ヲ「サウンド」セルニ對シ同事務所「ラウマー」ヨリ獨逸カ支那ニ於テ日本トノ間ニ殆ント全部門ニ亘ル經濟開發ニ共同スルノ趣旨ヲ以テスル包括的條約ヲ締結シ度キ意嚮ヲ開示シ來リタリトノコトナリシヲ以テ本使ヨリ長井ニ對シ「當時伍堂氏入院中」獨逸側ニ右ノ如キ多大ノ希望ヲ繋カシムルコトハ事態ニ適合セサルモノナルコトヲ注意シ置キタルカ

右ハ陸軍武官モ同意見ニテ別途「ラウマー」ニ注意ヲ與ヘ置キタル由ニテ何ノ途獨逸側ニテハ前記ノ案ニテハ満足セサルコト判明セル次第ナルカ其ノ後ノ經過ハ往電第一六六號ノ通りニテ要スルニ右日獨間支那經濟開發問題ニ關シ「リ」外相ヨリ正式ニ政府間ノ問題トシテ本使トノ間ニ折衝シ又右ニ關シ「ラウマー」ヲシテ攻究セシムルコトトナリ居ルモノナル處右ニ關シ往電第九〇號ニ對スル御回電ニモ接セサル爲「ラ」ニ對シテハ當方ヨリハ何等督促又ハ接觸セサル次第ナルカ其ノ後獨逸合併其ノ他ニテ多忙ノ爲未タ右研究ノ暇ナキ由ニテ最近モ「ラ」ハ本使ニ對シ頻リニ其ノ遲延ノ已ムヲ得サル旨ヲ辯解シ居リタル位ニテ本件ニ關シ當地海軍武官電報ニ言フカ如ク獨逸側ニ不滿アリト言フカ如キ事實ハ絕對ニ存セス、尙曩ニ「リ」外相ヨリ伍堂氏ノ資格ニ付質問ヲ受ケタル際本使ヨリハ豫テノ貴電ノ趣旨ニ基キ政府ヨリ派遣セラレタルモノニアラサルコトヲ説明スルト共ニ同氏ノ立場ヲ考慮シ同氏ハ最近迄要職ニ在リ又本邦經濟界トモ密接ナル聯繫アル關係上本邦事情ノ説明ニ適當ナルノミナラス又本邦側ニ對シ獨逸側ノ事情及氣持ヲ知ラシムル爲ニ

ハ效果アラシメ得ル地位ニ在ル旨ヲ説明シタルカ「リ」ハ政府間ノ交渉ハ總テ本使トノ間ニ爲スコトトシ度シト述ヘタル次第アリ「リ」モ外相就任後ハ以前ト異リ正道ニ依リ外交交渉ヲ行ハントスル氣構ナリ

409

昭和13年5月6日 在独国東郷大使より  
広田外務大臣宛(電報)

中国における日独經濟提携問題に關し概括的な秘密交換公文案を独国側提示について

付記 東亜局作成「昭和十三年度執務報告(支那經濟

關係)」より抜粋

右交換公文案提示に至る経緯

ベルリン 5月6日後発

本省 5月7日前着

第二五三號(極秘)

貴電第一四一號ハ「リ」外相出發後ニ接到セル處右ニ先立ち四月二十三日同外相ノ命ニ依ル趣ヲ以テ「ラウマー」本使ヲ來訪シ支那視察團派遣ニ關シテハ目下獨逸當業者ニ於テハ獨逸合併其ノ他國內産業ノ爲忙殺セラレ居ルコト及支

那事變ニ依ル損失餘リニ大ナル爲氣乗薄ナル現狀ニ鑑ミ過早ニ之ヲ派遣スルトモ却テ所期ノ目的ニ反スルコトナル惧アルヘシト「リ」外相ノ意見ナル旨ヲ述フルト共ニ支那ニ於ケル日獨經濟提携問題ニ關シテハ同外相ノ立場モアリ且獨逸企業家ヲ誘導シ度キ考量上此ノ際出來得ル限り兩國間ニ概括的ノ取極ヲ希望スル次第ナルニ依リ一案ヲ作成シタルカ右ハ日獨間ニ大體次ノ内容ヲ有スル秘密公文交換ヲ爲サントスルモノナリトテ之ヲ讀上ケタルカ右ハ

一、日獨兩國ハ支那ニ於テ日本ノ勢力ノ及フ範圍ニ關スル限り經濟上及技術上ニ最モ緊密ニ協力ヲ爲スモノトス

二、右協力ハ日獨防共協定ノ精神ニ從ヒ原則トシテ兩國均分(パリテート)及友好的の平等ノ基礎ノ上ニ實行セラルヘキモノトス但シ日本ノ特殊利益就中軍事上竝ニ經濟上ノ特殊利益ハ右カ日支兩國間ノ地理的特殊狀態ヨリ生スルモノナル限り保持セラルヘシ

三、右協力ヲ可能ナラシムル爲先ツ以テ前記地域ニ於ケル獨逸ノ輸出入貿易ニ付現ニ其ノ被ムリツツアル總ユル障碍(即チ日本獨占會社、爲替管理等)ヲ事實上除去シテ日本貿易ト平等ノ地位ニ置クコトトス又前記ニ後段ニ基キ必

要トナルヘキ除外例ニ關シテハ友好的の合意ノ下ニ審議決定セラルヘシ

ト言フニ在リ依テ本使ヨリ本件獨逸側提案ハ過般「リ」外相ヨリ話アリタル案ト大差ナキ様認メラレ從テ右ニ對スル本使ノ意見モ過般同外相ニ申述ヘタル通りニシテ殊ニ貴案ノ如ク支那ニ於テ日獨間ニ包括的ニ「パリテート」ノ原則ヲ樹立セントスル如キハ假令例外ヲ設クルトスルモ到底問題ニナラス又貴案第三項ノ支那ニ於テ獨逸貿易カ現ニ被リツツアル障礙云々ノ如キハ何等カノ誤解ナリト認ムルノ外ナキカ具体的ニ如何ナル事實アリヤ又對支經濟活動ニ付獨逸當業者ノ懸念スル點如何ト反問シタル處

現在<sup>(3)</sup>ノ障礙ニ付テハ「ラ」ハ往電第二四二號(「オルター」)ノ所言ト同様ノ趣旨ヲ述フルト共ニ右懸念ニ付テハ其ノ後接到ノ貴電第一四一號所載ノ三點ト略合致スル事項ヲ舉ケ尙日獨經濟協力ノ程度ニ付テハ今猶具體的ニ計畫立チ兼ヌル旨ヲ述ヘタルニ依リ本使ヨリ貴電第一二六號ノ趣旨ヲ體シ充分說示シタル處「ラ」ハ兎二角「リ」外相ノ立場トシテハ獨逸國內經濟方面ニ對シ何等カノ安心ト前途ノ希望トヲ與ヘサルヘカラサル立場ニ在ルモノナルヲ以テ「パ

リテート」ナル字句等ハ固執セサルモ日本側ニ於テモ何等カノ辦法ヲ攻究セラレ右目的ニ副ヒ得ル様日獨間ニ了解ヲ遂クルコトニ是非御配慮アリ度シト言ヘルニ付本使ハ獨逸側提案ノ應諾シ難キハ勿論ナルモ其ノ内更ニ「リ」外相ト會談スヘキ旨述ヘ置キタリ

以上ノ次第第二顧ミ「リ」外相ノ歸獨次第貴電第一二六號及第一四一號ノ趣旨ニ依リ同外相ニ申入ルヘキ所存ナル處從來同外相トノ屢次ノ會談竝ニ前記「ラ」ノ申出等ニ徴スルモ「リ」外相トシテハ對内關係上少クトモ何等カノ文書ニ依ル了解ヲ熱望スルモノニシテ又我方トシテモ交換公文等ノ形式ハ執リ難シトスルモ「リ」外相ノ立場ニ或程度ノ支持ヲ與フルコト及本件ノ如キ複雑ナル會見ニ付日獨間ニ將來萬一ノ誤解ヲ防クノ要アルコト等ヲ併セ考フルニ彼我會談ノ結果ニ付何等カノ文書ヲ殘置スルコト適當ト認メラルルニ付此ノ際我方トシテハ交換公文ノ形式ヲ避ケ單ニ屢次ノ意見交換ノ結果ヲ本使ニ於テ爲念「レジユメ」ニシ讀上ケタルモノヲ「エード・メモアル」トシテ殘シ置クノ趣旨ニ於テ文案ヲ作成シ右文書中ニ

獨逸側ハ(一)日本カ支那ニ於テ地理的近接關係ヨリ生スル特

殊ノ地位ヲ有スルコトヲ承認シタルコト(二)日獨兩國ハ防共協定ノ精神ニ基キ支那ニ於テ政治上及經濟上一層緊密ニ協力スヘキモノナルコトヲ認メタルコト竝ニ(三)今後支那ニ於ケル日本トノ經濟上及技術上ノ合作ニ付出來得ル限りノ努力ヲ爲スノ用意アル旨申出テタルコトヲ記載スルト共ニ日本側ノ言明トシテハ前顯了解ノ御訓令ノ趣旨ニ依ル申入事項ヲ適宜安排シテ記載セル體裁ト爲シ右案ニ基キ彼我意見ノ一致ヲ見ル様取計フコト然ルヘシト認メラルル處今後折衝ノ結果右案文出來ノ上ハ確定前更メテ請訓スヘキハ勿論ナルモ「リ」外相モ來週半ニハ歸獨ノ豫定ナルニ付大體ノ方針ニ關シ御電報相煩度シ

### (付記)

獨逸側ノ申出ト我方ノ應酬

昭和十三年一月「リッベントロップ」獨逸外相ハ東郷駐獨大使ト會談ノ際獨逸ノ支那ニ於ケル經濟利益ノ擁護竝ニ其ノ増進方ニ關シ言及スル所アリタルカ二月下旬同外相ハ更ニ東郷大使ニ對シ今次事變ニ依リ獨逸ノ對支貿易ハ多大ノ犠牲ヲ拂ヒタルノミナラス滿洲國承認ノ問題ハ何等ノ代償

ナクシテ行ハレタル上之ニ依リテ獨逸ノ支那側ヨリ受クル損失亦相當大ナルモノアリ結局滿洲國承認ノ舉ハ自分ニトリテハ獨逸經濟界ニ對シ重大ナル責任ヲ負ヒタルコトナリ居ル次第ニ付日本側ニ於テモ其ノ邊ノ事情ヲ御諒解ノ上獨逸ノ支那ニ於ケル貿易竝ニ企業ノ利益増進方ニ關シ御考慮煩シタシト述ヘ其ノ他ノ獨逸側要人ヨリモ同一趣旨ノ申入アリタルカ之ニ對シ東郷大使ハ日獨兩國カ支那ニ於テ經濟的ニモ協力スルコトハ贊成且希望スル所ナルモ我方ノ北支經濟開發計畫モ未タ確定シタル次第ニ非ラス如何ナル程度ニ協力スヘキヤ今ヨリ明言シ難キモ獨逸側ニ何等具體案アラハ之ヲ檢討スルモ可ナリト答ヘ置キタリ

次テ四月八日「リ」外相ハ東郷大使ニ對シテ支那ニ於ケル日獨經濟提携方ニ付「ラウマー」公使ヲシテ研究セシメタル處一案ヲ得タリテ日獨間ニ支那ニ於ケル日本ノ勢力範圍内ニ於テ日獨「パリテイ」ノ下ニ經濟的協力ヲ爲ス旨ノ約束ヲ交換公文其ノ他ノ方法ニ依リ行ヒ度其ノ上日本及現地ニ「コムミシヨン」ヲ派遣シ右協力ノ實際の方法ヲ考究決定セシムルコトトシ度キ旨ヲ述ヘタリ

東郷大使ハ右申入ニ對シ

(イ) 支那ニ於ケル日本ノ勢力範圍ナル語ニ付既存條約ノ關係ハ別トスルモ支那ニハ既ニ新政府成立セル次第ニテ日本ハ之ト協力シテ經濟的開發ニ當ル實情ヲ考察スル要アリ

(ロ) 日獨兩國ヲ全然均等ノ地位ニ置クコトハ日本カ今次事變ニ對シテ拂ヘル犠牲等ノ關係上不可能ナリ尤モ獨逸ヲ日滿ヲ除ク外國中最モ有利ニ待遇スルコトハ希望スル所ナリ

(ハ) 北支開發會社ハ議會ノ協贊ヲ得近ク設立セラルヘキ右計畫ト獨逸ノ協力ニ關スル希望トヲ照合スルヲ要スルニ付獨逸側ノ協力シ得ル範圍ヲ承知スルノ必要アリ

ト述ヘタル處「リ」ハ獨逸側ニ於テハ現地ノ事情モ判明セス又諸般ノ國內事情モアリ充分ノ見當付カサルモ獨逸ノ軍備擴張完成後ハ之ニ要セシ設備ヲ支那ニ振向クルコト可能ナルヘシト存スル處今直ニ經濟協力ノ範圍ヲ明示スルコト困難ナルコト竝ニ日獨滿防共協定ニ依ル良好ナル關係ヲ支那ノ經濟方面ニモ延長シタキ旨ヲ述ヘ且日本トノ均等待遇ハ嚴格ナル意味ニ非サルモ可ナリ即チ日本ノ軍事的及政治的利益ニ關聯スル特殊事項ハ之ヲ除外スルモ差支ナシト述ヘタルニ付大使ヨリ支那ニ關スル問題ハ日本側ニ於テハ死

活問題ト考ヘ居レル次第ナルカ此ノ際漠然タル約束ヲ爲シ今後ニ於テ結局實行シ難キコトアル時ハ將來ニ禍根ヲ貽スノミナルヲ以テ獨逸側ノ提案モ其ノ範圍乃至内容ニ付具體的ニ承知セサレハ帝國政府ノ態度決定モ困難ナルヘシト答ヘ置キタリ尙九日「リ」ノ代表トシテ「ラウマー」公使來訪シタルニヨリ大使ヨリ獨逸側ニ於テハ今少シク現地ノ事情ヲ觀察シ又日本側ノ北支開發方針ト照合シ具體的ニ話合ヲナスコト必要ナルニ付日本及北支ニ「コンミッション」ヲ派遣アリ度キ旨提議シタリ

#### 廣田大臣ノ訓令

右獨逸側ノ支那ニ於ケル經濟提携申出ニ對シ我政府トシテハ支那ニ於ケル經濟開發ニ關シ出來得ル限り外資誘導ヲ計リ一面開發ニ要スル資本及物資ノ不足ヲ補ヒ他面國際關係ノ改善ニ資スルノ意嚮アルハ曩ニ閣議ニ於テ決定セル北支經濟開發方針ニモ明カニシアリ殊ニ獨伊ノ參加ニ關シテハ政治的ニモ特別ノ考慮ヲ加フルノ要アル次第ナルカ實際問題トシテ右ニ付テハ北支開發ニ關スル全般的計畫カ樹立セラレ開發會社及各事業會社成立ノ上其ノ事業竝ニ資金關係ニ或ル程度ノ見透シヲ着ケ得ル段階ニ達セサレハ確定的意

見ニ達スルコト困難ナリ

然レ共獨逸側ニ於テ上述ノ如ク具體の問題ニ入ルニ先立ち先ツ北支經濟開發ニ關シ包括的權利ノ設定ヲ希望シ居ル趣ナルニ於テハ早キニ及ンテ是正シ置ク必要アリト認メラレタルニ付北支ノ經濟開發ニ關シ獨逸及伊太利ヲ第一義のニ考慮スル必要アルモ我方ト均等ノ立場ニ於テハ勿論ソレ以下ニテモ將來英米等ノ資本的參加ヲ全然阻止スル虞アルカ如キ優越的地位ヲ與ヘ得サル次第ニシテ從テ北支經濟開發ニ關スル日獨ノ提携ハ主トシテ重要諸產業ニ對スル獨逸ノ協調的投資ニ依リ達セラルヘキモノト思考シ其ノ方法ハ

(イ)開發會社及其ノ子會社ニ對スル出資(但シ事業ノ支配權ニ影響ヲ及ボササルヲ限度トス)

(ロ)社債ノ應募

(ハ)「クレヂット」又ハ株式交付ニ依ル機械材料ノ供給

(ニ)或ル種ノ企業ノ日獨又ハ日獨支合辦經營

等ナルヘキカ右ノ内(イ)及(ロ)ハ獨逸側ニ於テ差當リ問題トナラサルヘキニ依リ主トシテ(ハ)及(ニ)ノ方法ニ依ルコトトナルヘク(イ)ニ付テハ鐵道其ノ他ノ交通材料、鑛山製鐵機械、電氣機械材料等獨逸ニ仰クヘキモノ多々アルヘク(ニ)ニ付テハ

例ヘハ石炭液化事業ニ對シ獨逸側ヨリ特許權又ハ液化機械ヲ提供セシメ日獨又ハ日獨支ノ合辦經營トスルコトハ陸軍ニ於テモ最モ可能性アリトノ意見ナリ尙此ノ際獨逸國內部ニ於ケル「リ」外相ノ苦心ヲモ考量スル必要アルニ鑑ミ東郷大使ヨリ適當ノ機會ニ於テ「帝國ハ今次事變ニ際シ獨逸力終始日本ニトリ好意的態度ヲトリ來レル事實ニ鑑ミ又今後モ獨逸ノ右ノ如キ態度力持續セラルルノミナラス益々強化セラレ日獨兩國ノ政治上經濟上ノ協力カ防共ノ目的ノ爲一層緊密化セラルヘキモノナルニ鑑ミ獨逸カ帝國ノ支那ニ於ケル特殊の地位ヲ承認スル事ヲ前提トシテ帝國政府ハ今後獨逸ノ北支ニ於ケル經濟上ノ活動ニ對シ他國ヨリモ劣レル地位ニ置クコトナキハ勿論將來起ルヘキ箇々ノ場合ニ於テハ出來得ル限り優先のニ之ヲ考慮スル様致スヘシ」トノ趣旨ヲ申入レ尙上述獨逸側ノ申出ハ支那ニ於ケル企業ノミナラス貿易ノ確保乃至伸張ノ點ニ重キヲ置キ居レル次第ナルニ付此ノ點ニ關シテハ「日獨兩國ハ支那市場ニ於テ原則上均等ノ立場ニアルヘキモノト考慮シ居リ從テ支那關稅制度上兩者均等ノ待遇ヲ享受スル様極力努力スヘシ但シ日本ハ北支幣制ノ維持ニ付事實上責任ヲ負フヲ以テ之ニ伴フ特

殊的地位ノ保持ハ不得已ルヘキモ何等カノ輸出入制度ノ設定ニ當リテハ獨逸側ノ利益ハ充分之ヲ尊重シ第三國ニ優先シテ考慮スヘシ」トノ趣旨ニテ應酬方訓令セリ

~~~~~

410

昭和13年5月20日

在独国東郷大使より
広田外務大臣宛(電報)

对中国武器禁輸問題を切り離して貿易協定交渉を続行することは困難である旨独国側より
申入れについて

ベルリン 5月20日前發
本省 5月20日後着

第二六六號(部外祕、館長符號扱)
貴電第一六三號ニ關シ

(一)獨逸側ノ交渉準備ニ付テハ往電第二五一號ノ通りナル處七日「ウォルタート」ヨリ首藤ニ突然本件交渉ハ左ノ理由ニ依リ更メテ「リ」外相(當時旅行中)ノ指令ヲ受クルニアラサレハ續行致シ難シト申出テ來レリ
(イ)我陸軍武官ヨリ一箇年前獨逸側ニ提示セラレタル軍需關係品六億七千萬圓ノ買付計畫及右ニ對シ五割五分ノ現

金拂ナル決濟條件ヲ最近再ヒ獨逸側ニ提案アリタルニ付(右ニ付武官側ニ確メタル處最近再ヒ本件物品ノ獨逸側供給能力ヲ問合セタルコトアルモ提案シタルニアラストノコトナリ)右ト本件交渉トノ關係ヲ考慮スル必要アルコト(ロ)最近我陸海軍武官ヨリ獨逸側ニ對シ對支武器禁輸ニ關スル申出アリ右物資ノ範圍ハ極メテ廣ク苟モ支那ノ抵抗力ヲ増サシムルカ如キ物資ハ之ヲ禁輸セントスルニ在リ(此ノ點ハ武官側ニ確メタル處我方ヨリハ主トシテ武器ノ禁輸ヲ求メタルモノナル趣ナリ)右ニ對シ獨逸政府ハ四月上旬禁輸ノ言明ヲ受ケタルカ其ノ結果ハ極東排獨貨運動ヲモ伴ヒ廣範圍ニ亘ル對支輸出ノ杜絶トナリ獨逸ハ年約一億二千萬馬克ノ外國爲替收入ヲ失フコトトナルヘキニ付(其ノ他支那ヨリ原料品ノ輸入ニモ影響ス)其ノ損失ノ補填ハ何處ニ求ムヘキヤノ問題ニ逢着セルノミナラス北支中支ニ於ケル獨逸商權ノ打撃モアリ斯カル重大ナル支那問題カ今日現出シ來レル以上本件通商交渉ヲ之ト切離シ進ムルコトハ到底不可能ノ事態トナリタリ
(2)依テ獨逸側ハ支那問題ヨリ生スヘキ損失ハ通商取極中ノ求償取極ニ之ヲ結付ケ求償取極ニ於テ日本側ヨリ一部分

(例へハ限度ヲ置クトセハ其ノ半額ノ程度ヲ考ヘ居ルモノノ如シ)ヲ現金ヲ以テ支拂ヲ受ケ右ノ損失ヲ補充セントスルノ新案ヲ提出セントスルモノナリ斯カル仕組ハ新事態ノ發生ノ爲今日迄純經濟の見地ヨリ爲シ來レル交渉トハ全然別個ノ建前トナルカ爲ニ豫メ右ノ事情ヲ「リ」外相ヨリ東郷大使ニ了解ヲ求メタル上之ヲ基礎トスル獨逸側ノ提案ヲ日本側ニ回シ本件交渉ヲ進メントスル次第ナリトノ申出ナリ

(二)又他方過日「ゲーリング」元帥ヨリ陸軍武官宛書面ヲ以テ對支武器禁輸ニ依リ獨逸ハ本年約一億ノ現金喪失ヲ來ス處右ニ對シ日本側ニテ考慮ヲ拂ハレ度ク尙其ノ一部トシテ本邦ニ於テハ凍結資金四千萬ニ付テモ考慮アリ度キ旨ノ申出アリ

(三)右獨逸側申出(一)ノ(イ)ニ對シテハ武官側ト打合ノ上陸軍武官ヨリ右ハ本件交渉トハ何等關係ナキ旨ヲ指摘シ(二)關シテモ武官側ト打合ノ上陸軍武官ヨリ昨十八日附ヲ以テ獨逸側ニ於テ今更巨額ノ對支武器ノ輸出ヲ豫想セルハ不可能ニ屬スルコト竝ニ經濟問題ハ武器供給トハ別個ノモノニシテ同官ノ職務範圍外ノ事項タルモ日獨間貿易取極

ノ成立ヲ希望スルモノナル旨ノ回答ヲ發シタルカ

(四)斯クノ如ク獨逸側カ突然對支武器禁輸問題ヲ本件交渉ニ結付ケ右損失填補ノ意味合ニ於テ我方ニ對シ多額ノ現金支拂ヲ要求セントスルハ誠ニ不都合ニシテ斯カル申出ヲ受諾シ得サルハ勿論獨逸側カ斯カル考ヲ固執スル以上本件交渉ハ難關ニ立至ルモノト思考セラルルカ貴電第一四一號モ接到セル次第アリ本日「リ」外相ニ面會シ本件ニ付テモ極力獨逸側ノ反省ヲ促スコトト致スヘシ

~~~~~

411 昭和13年5月21日

在独国東郷大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 中国における經濟提携問題に關し独国外相と 會談について

ベルリン 5月21日前發

本 省 5月21日夜着

第二七〇號(極秘)

十九日夕刻ヨリ「リ」外相ト長時間ニ亘リ會談セルカ先ツ本使ヨリ支那ニ於ケル經濟協力ノ問題ニ付獨逸ノ意嚮ニ付東京ト打合ハセタルカ帝國政府ハ獨逸カ支那ニ於ケル我特

殊地位ヲ認メタルコト竝ニ北支ニテ出來得ル限リ我ト協力シ度キ意嚮ナリトノコトニ満足スルト共ニ日本政府ハ獨逸ノ對支貿易ニ付原則的ニハ日本ト同様ノ地位ニ在ルコトト思考スルモ日本ト不可分ノ關係ニ在ル北支ノ幣制其ノ他ヨリ生スル日本ノ特殊地位ハ獨逸側モ考慮セラルル必要アリ尙北支ニ於ケル經濟提携ニ付テハ假令例外ヲ設クルトモ日本ト平等ノ地位ヲ認ムルヲ得ス依テ第三國ヨリ劣レル待遇ヲ爲ササルハ勿論好意の考慮ヲ加フルコトトスヘシ尙又本件ハ兩國間ノ約束ノ形トハ爲シ得ス日本政府ノ方針トシテ聲明スルコトト致度シト言ヘルニ

「リ」ハ防共協定成立後支那事變ニ伴フ獨逸ノ對支政策ニ付國內ニ種々ノ批評アリタルモ自分ハ引續キ滿洲國承認、在支將校引揚等ヲ行ヒ又對支軍需品等ノ禁輸ヲ斷行シタル等ノ結果對支貿易杜絶シ獨逸ノ投資モ危殆ニ瀕スルヤモ知レス又支那側「ボイコット」ノ懸念アリ其ノ全損害ハ三億以上ニモ達スヘシ然ルニ最近通商局力調査シタル處ニ依レハ日本ハ獨逸ニ對シ第三國以下ノ待遇ヲ爲シ居リ即チ(一)在本邦獨逸商社ハ輸入及送金許可ニ付英米等ノ商社ヨリ不利ナル待遇ヲ受ケ居リ

(二)松花江ニ於ケル發電所ニ關スル商談ニ付米國ヘハ現金拂ヲ爲スモ獨逸ニハ信用拂ヲ主張セリ

(三)北支ニ於テ獨逸商社ハ困難ナル地位ニ陥リ殊ニ羊毛ハ日本ノ獨占會社ノ爲仕事ノ餘地ナシ

(四)事變ノ損害賠償ニ付テモ英米ヨリ不利ナル待遇ヲ受ケ居レリ

トノコトナリト述ヘ自分ノ地位ノ困難ナルヲ訴ヘタルニ付本使ヨリ(四)ハ「ワイツゼツカー」ヨリモ聞キタル所ナルカ英米ノ「パネー」「レディーバード」事件ハ政治的解決ノ必要ヨリ賠償セルモノニシテ特別ノ「ケース」ナリ兎ニ角本件ハ東京ヘモ報告濟ナレハ何レ回答ニ接スヘク(三)ノ如キ獨占會社ノ存在ヲ承知セス尙最近ニ同様ノ話ヲ聞込ミタルニ付東京ヘハ申報セル次第ナリ(二)ノ如キ事實ハ承知セス又(一)ニ付テハ日獨貿易取極成立ノ上ハ此ノ種ノ問題ハ解決セラハヘク凍結資金問題亦同様ニテ日本カ獨逸ニ英米ヨリ不利ナル待遇ヲ與ヘントスル如キ意嚮全然ナシ但シ是等ノ關係ニ付テハ後刻日獨貿易問題ニ關聯シ詳細ニ述フヘシト言ヘル處

「リ」ハ對支經濟協力ニ付兩國間ニ何等カ約束ヲ爲スコト

ハ前大使其ノ他ノ日本人側ヨリ話アリ寧ロ日本側ノ發意ナリト了解シ居タル處今更約束出來ストハ了解ニ苦シマサルヲ得スト述ヘタルニ付

本使ハ日本政府カ北支ニ於テモ獨逸ト經濟的ニ提携致度シトノ意嚮ヲ有シタルハ事實ナルモ之ヲ約束ヲ以テ取極ムヘシト思考シ居リタル筈ナシ唯本使着任前一部日本人間ニ或種ノ試案アリタル由ナルモ右ハ立消トナレリト承知スト述ヘタル上兩國間ノ約束ト爲シ難キ理由ヲ説明シ且日本政府ノ parole d'honneur ニテ満足セラレンコトヲ希望スル旨述ヘタル處

「リ」ハ何カ書面ト爲スコト出來サルヘキヤト言ヒタルニ付然ラハ本件話合ノ結果ニ付本使ニ於テ「レジユメ」ヲ作成シ其ノ控ヲ御渡スルコトニ取計ヒ差支ナシト述ヘ續イテ往電第二五三號末段ノ趣旨ニ依リ詳細陳述セル處(右ノ内ヨリ貴電第一六一號ニ基キ第三國ニ優先シノ語ヲ避ケタリ)「リ」ハ何故第三國ニ優先ストノ趣旨ヲ記入シ得サルヤト不滿ノ意ヲ述ヘタリ

之ニ對シ本使ヨリ諸種ノ理由殊ニ伊太利ニ對スル關係モアルニ付之ニ同意シ難キ旨ヲ説キ尙先方ノ問ニ應シ北支幣制

ニ付説明ヲ加ヘタル上右提議ハ大體ニ於テ貴大臣ノ希望ヲ滿タシ得ルモノト思考スル旨述ヘタル處「リ」ハ慎重考慮致度ク其ノ上ニテ回答スヘシト述ヘタリ

~~~~~

412

昭和13年5月21日
在独国東郷大使より
広田外務大臣宛(電報)

独国の対中貿易における損失と貿易協定交渉 とを関連づける独側主張に対し反駁について

ベルリン 5月21日前発

本省 5月21日後着

第二七一號(極秘)

往電⁽¹⁾第二七〇號ニ續キ本使ヨリ日獨貿易協定問題カ過般來折角軌道ニ乘リ來レル處最近ニ至リ獨逸側カ支那ヨリ爲替カ入ラストテ之ヲ本問題ニ關聯セシメントノ考アル由承知シタルカ之ハ從來ノ成行ニ徴シ理由ナク且本交渉ニ障礙ヲ作ルコトトナリ甚タ意ヲ得サル所ナリト言ヘルニ「リ」ハ前述ノ如ク(前記往電參照)獨逸ハ支那ニテ大損失ヲ爲シタル譯合アルニ付日本側ニテ此ノ點ハ充分ニ考慮セラレ度シト述ヘタルニ付日獨貿易協定ト獨逸ノ支那ニ於ケル損害ト

ヲ關聯セシムルノ不當ナル所以ヲ詳細論駁スルト共ニ日獨貿易關係獨逸商社ニテ困難ナリトスルモ日獨貿易協定成立セハ是等困難モ排除セラルヘク又日本カ獨逸ヨリ買付クル機械類カ日本工業ノ基礎ヲ爲ス時ハ將來其ノ取換、部分品ノ購入等ヲ考フルモ兩國ノ工業關係ハ引續キ密ヲ加フヘク貴方ニ取りテモ大ナル利益アリト述ヘ尙日獨取極ノ交渉經過及日本トシテ求償取極ノ必要アル事情ヲ説明セル上本交渉カ順調ニ進行シ來リタル際支那ニ於ケル爲替問題ニテ難關ニ逢着セントスルハ甚タ不當ナリ又武器輸出禁止ハ昨年我方ニ言明シタルモノニテ今更本問題ヲ理由トスルハ意外トスル所ナリ然ルニ「ゲーリング」元帥ハ本年内ニ對支武器禁輸ニ依リ失フヘキ爲替額ヲ一億ト豫想セル由ニテ本使トシテハ心外トセル次第ナリト述ヘ

日獨貿易關係ハ日獨ノミノ事情ヨリ話ヲ着クヘク之ニ支那關係事項ヲ介入セシムルハ承服シ難シ尙我方ハ事情ノ許ス限リ獨逸ニモ爲替ヲ與ヘタキ處之モ現下ノ困難ニ顧ミ限度アリ貴方ニテモ右御了解ノ上本協定締結ノ促進ヲ期セラレ度ク就テハ貴大臣ヨリ關係者ニ對シ交渉ヲ即時開始スヘク又支那關係事項ヲ關聯セシムヘカラストノ命令ヲ出サレ度

シト述ヘタル處之ニ對シ「リ」ヨリ「ゲ」ノ計算ハ何ニ基クヤヲ詳ニセサルカ對支武器輸出額ハ左程巨額ノモノニアラス兎ニ角「ゲ」トモ相談スヘク交渉ハ早日ニ開始ノコトトスヘシ唯獨逸ノ事情ヲモ考慮セラレ日本側モ之ヲ英米ヨリ不利ニ扱フカ如キコトハ避ケラレ度ク爲替現金支拂ヲ多クスルコトニ考慮セラレ度シト言ヘルニ付本使ハ支那問題ヲ貿易協定ヨリ排除スル以上日本トシテモ事情ノ許ス限リ多額ノ現金支拂ヲ致スヘキカ前述ノ如ク右ニハ限度アリ右ハ専門家ノ話合ニ俟ツニ於テハ話合困難ナラサルヘシト述ヘタルニ「リ」ハ右ハ下僚ニモ能ク傳ヘ置クヘシト言ヒタリ

~~~~~

413

昭和13年5月31日

在独国東郷大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

対中貿易問題と貿易協定交渉とを関連づける  
必要につき独国側説明について

第二九三號(極秘)

ベルリン 5月31日後発  
本省 6月1日前着

往電第二七一號ニ關シ

二十八日「リ」外相ト會見シ曩ニ本使ヨリ日獨通商取極ト獨逸ノ對支貿易問題トヲ關聯セシムルコトノ不當ナルヲ述ヘテ貴方ノ再考ヲ求メ置キタルニ拘ラス其ノ後獨逸側ヨリ我方商務官ニ提示シタル案ハ尙兩者ヲ關聯セシメ居レルニ失望セリト述ヘタル處「リ」ハ自分ハ通商取極ノ問題ハ能ク承知セサルニ依リ通商局長ヲ呼寄セタル上同局長ヨリ實ハ過日ノ貴使ト大臣トノ話ノ様子ハ承知致シ居リタルモ今回ノ案ハ從前ヨリ出來居タルモノヲ其ノ儘提出セルモノナリト言ヘルニ付然ラハ過日ノ本使申出ニ基キ再考アリ度シト述ヘタルニ同局長ハ獨逸側トシテハ支那貿易ノ損害ヲ直接ノ理由トセルニアラス唯之カ爲困難ナル事情生シタルニ依リ日本側ニテ此ノ點ニ對スル考慮ヲ得度シトノコトナリト述ヘ「リ」ハ自分ノ方ニハ支那關係獨逸商人ノ苦情ノミナラス四年計畫部邊ヨリモ外國爲替ニ付種々ナル註文來ル爲苦シキ立場ニ在ル譯ニテ日本側ニテモ自分ノ立場ト獨逸ノ窮狀トニ付考慮ヲ得度ク尙獨逸トシテハ軍備擴張ヲ能フ限り促進スル要アル處右ハ日本ニ取リテモ不利ニアラサルヘシ云々ト述ヘタルヲ以テ本使ヨリ獨逸側ノ事情モ諒解ス

ルモ日本カ支那事變ニ對處スル爲直面シ居ル困難ニ付テハ充分了解アリ度ク現金拂ハ能フ限り之ヲ爲スヘキモ右ハ限度アル次第ニテ一億圓ト言フカ如キハ問題トナラスト述ヘ尙日獨貿易ノ近況、一對四ノ了解成立ノ事情、最近ニ於ケル日本ノ對獨買付ノ増大、日獨通商取極交渉ノ經緯、右取極ノ成立カ獨ニ取リテモ有利ナル事由等ヲ詳細説明シ獨逸側新提案カ受諾シ難キ理由ヲ繰返シ述ヘタル上右ニ依リ再検討アリ度キ旨要望セルニ「リ」ハ日本ニ對シ不可能ヲ求ムル意思毛頭ナク自分モ研究スヘキカ貴方ニ於テモ獨逸側ノ困難ニ付御考慮アリ度シト述ヘタリ

~~~~~

414

昭和13年5月31日

在独国東郷大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

独国側の新提案をめぐりヴァールタートと首 藤商務官が応酬について

ベルリン 5月31日後発

本 省 6月1日前着

第二九四號(極祕、館長符號扱)

往電第二九一號ニ關シ

五月三十日「ウオルター」首藤會見ノ際首藤ヨリ獨逸側ノ新提案ニ言及シ我方トシテ之ヲ受諾シ難キ事情ハ二十八日我大使ヨリ「リ」外相ニハ委曲御話シタル通りナルカ「ウオ」ハ右會談内容ヲ未タ承知セスト言ヘリ）求償貿易ニ付日本カ一對一ヲ獨逸側カ半額現金拂ヲ主張シ其ノ間著シキ懸隔アルハ遺憾ナリ獨逸側ニ於テ其ノ提案ニ付再考セラレ度シト言ヒタルニ「ウオ」ハ獨逸側ハ當初ヨリ日本側ノ言フ如キ求償貿易一對一ヲ約束シタルコトナシト言ヒ（右ニ對シテハ首藤ヨリ今日迄ノ交渉ノ成行ヲ述ヘ其ノ言ノ不當ナルコトヲ責メ置キタリ）尙已ムヲ得サレハ日獨貿易ヲ其ノ儘ニ放置シ置クコト宜シカラン獨逸トシテハ日本カ輸入許可ヲ與フル丈ケ輸出スヘシ又場合ニ依リテハ滿洲ヨリノ輸入ヲ減スルコトヲ考慮スヘシト言ヒ高壓的態度ニ出テタリ依テ首藤ヨリ自分ハ双方互譲ノ精神ヲ以テ妥結ノ途ヲ見出し度ク希望スルモノナルモ若シ獨逸側カ今御話ノ如キ考ヲ有シ半額現金拂ヲ絕對ニ固執セラルルナラハ今日迄ノ成行ヨリ考ヘルモ自分限りニ於テハ此ノ儘本件交渉ノ衝ニ當ルコト不可能ナリト述ヘタル處

「ウオ」ハ兎ニ角「リ」外相ト東郷大使トノ會見内容ヲ

「ピール」ヨリ聽取シ本件ヲ考ヘ見ルヘシト答ヘタル趣ナルカ尙外務省係官「フオス」ノ首藤ニ語リタル所ニ依レハ「リ」外相ニ本使ヨリ申入レタル點ニ付六月一日關係省會議ヲ開キ協議スル豫定ナリト言フ

以上ノ如ク獨逸側ノ態度ハ相當強硬ナルカノ如ク認メラルル處右ハ獨逸側ニテモ外國爲替ノ缺乏ニ困難シ居ル實狀以外我國保有正貨八億カ結局英米等ニ支拂ハルヘシトノ豫想ノ下ニ獨逸ニモ其ノ一部ノ受入ヲ爲シ度シトノ希望アルト何ノ途日本ハ其ノ必要資材ヲ獨逸ノ供給ニ仰カサルヘカラル立場ニアリトテ足許ヲ見透シ居ル等ノ爲ナリト思考セラル

先方ノ提案ハ到底其ノ儘受諾シ難キ次第ナルカ先方ニシテ妥協的態度ニ出ツル場合ニハ相互ノ歩寄りニ依リ之ヲ取纏メルコト然ルヘシト存シ居ル次第ナリ但シ先方ニテハ前記協議ノ結果何等申出アルヘキニ付一應先方ノ出方ヲ見ルコトト致度ク尙先方提案ニ付右以上心得置クヘキ點アラハ至急御回電ヲ請フ

~~~~~

昭和13年6月3日

在独国東郷大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

## 新提案をめぐる独国側の非妥協的態度について

ベルリン 6月3日後発

本省 6月4日後着

第三〇一號(館長符號扱)

往電第二九四號ニ關シ

三日「ウオルタート」ノ求メニ依リ首藤會見ス「ウオ」ヨリ關係省會議ノ結果獨逸側ノ意嚮トシテ要領左ノ通り語レル趣ナリ

(一)現行了解一對四比率ニ關スル日本側ノ言分(貴電第三五號(五)ハ日本側ノ誤解ニテ右以前ノ日獨貿易比率ハ一層日本ニ不利ナリシモ一九三四年獨逸側ノ讓歩ニ依リ一對四ト日本側ニ有利ニ決定セラレ日本側ハ之ニ満足シ居レルモノト了解シ居レリ

(二)求償貿易ノ一對一二付テハ今日迄原則的ニ了解シ來リタルモ正式ニ約束シタルコトナシ

(三)日本ニ對シテハ昨年以來武器其ノ他日本ノ最モ必要トスル物資ヲ自由ニ供給シ凍結資金、契約不履行等ノ問題ニ

付當業界ヨリノ苦情ニ拘ラス政府トシテハ今日迄之ヲ忍ビ來レリ

(四)<sup>2)</sup>獨逸ノ對支輸出ハ北、中支ニ於テ全ク停頓セリ之ニ依リ生スル現金收入ノ喪失ハ歐洲ノ現狀ニ鑑ミ獨逸ノ最モ苦痛トスル所ニシテ右損失ハ單ニ日本ノミナラス獨逸ノ全般的對外貿易關係ニ於テ調整セサルヘカラサル立場ニ在リ

(五)獨逸トシテハ何所迄モ一對四ヲ主張シ得ヘキ筈ナルモ追加取引ニ於テハ一對二ヲ要求セリ斯ル條件ハ今日日本ハ英米ニ於テ享有スルコト不可能ナルヲ以テ日本ニ取リテハ極メテ有利ナル提案ト信ス

右ニ對シ首藤ヨリ夫々反駁ヲ加ヘタル上獨逸ノ新提案ハ(イ)從來ノ了解ニ反シ殊ニ對支貿易問題ヲ關聯セシムルコトノ不當ナルコト

(ロ)斯ル巨額ノ現金支拂(ヲ)要求スルハ日本ヨリ武器ヲ奪ハントスルト等シキコト

(ハ)日本ノ現狀ヲ考慮セサルモノナルコト等ヲ擧ケタルモ「ウオ」ハ以上ニテ獨逸側ノ事情ハ充分御話シタルヲ以テ此ノ上ハ新提案ニ對シ日本政府力如何ナル

對案ヲ提示セラルルヤ回答ヲ得度シトシ全ク非妥協的態度  
ニ出テタリ

獨逸側ノ態度強硬ナル理由ハ往電第二九四號中段ニ申進シ  
タル通りナルカ此ノ際我方トシテハ先方ノ言フ追加取引ノ  
内求償貿易ノ限度ヲ例ヘハ當初ノ一億圓程度トシ其ノ餘ハ  
一部現金一部「クレヂット」設定トスル如キ妥協案(平常  
貿易ノ附帶費用ニ付テハ獨逸側ハ原案ヲ固執ス)ニ依リ之  
ヲ取纏ムルモ尙我方ニ有利ナルヘシト思考ス

以上ノ如キ事情ナル處右獨逸側新提案ニ對スル御意嚮特ニ  
獨逸側ノ切ニ要求スル外國爲替支拂ニ關シ我方ニ於テ對應  
シ得ル限度ト併セ貴見御回答ヲ請フ

尙本電起草後「ヴイール」通商局長來訪セルニ依リ本使ヨ  
リ前記會談ニ付獨逸側ノ非妥協的態度ヲ責メタル處「ヴ  
ハ往電第二九三號「リ」外相ト會談ノ次第二モ言及シ獨逸  
側提案ハ最後ノモノト言フニアラス日本側ヨリモ何所迄之  
ニ應シ得ルヤノ限度ヲ示シテ話合ヲ續クルニ於テハ妥結ニ  
到達スルコト可能ナルヘシト思考スト述ヘタリ

416

昭和13年6月4日

在独国東郷大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

## 独国側の非妥協的態度の背景に関する観測報告

ベルリン 6月4日後発

本 省 6月5日前着

第三〇四號(極秘、館長符號扱)

往電第三〇一號ニ關シ

獨逸ニ於テ外國爲替入手ノ必要益々切迫シ來レル事情ニ付  
テハ「リ」外相ト本使、「オルタート」ト首藤トノ會談(往  
電第二九三號及第二九四號)ニ依リテ御承知ノ通りナルカ  
右ハ昨三日本使カ「ヴイール」通商局長及「ラウム」公  
使トノ會談中兩人共致國問題ノ紛糾二件ヒ蘇聯及西歐列強  
カ共同シテ獨逸ニ壓迫ヲ加ヘントスルノ氣配ニ對抗シ行ク  
爲ニハ獨逸ニ於テモ急速ニ軍備ヲ整フルノ必要アリ從テ出  
來得ル限り多額ノ外國爲替調達ヲ必要トシツツアリ右ノ事  
情ハ特ニ日本側ニ於テモ考慮セラレ度シト言ヒタリ、右ハ  
最近歐洲ノ形勢ヨリ生シタル新事態ニシテ獨逸側ニテハ對  
支輸出ノ損失ヲ何レカニ依リ補給セントスル希望ヲ益々切  
實ニ感シ居ル次第ナリ右前電補充旁申進ス

昭和13年6月7日

宇垣外務大臣より  
在独国東郷大使宛(電報)

満州国に対し満独間交渉の別途実施を承認す

る方針を決定につき日独間交渉の促進方訓令

別電一 昭和十三年六月七日発宇垣外務大臣より在独

国東郷大使宛第一九一号

右承認に関する対満回答

二 昭和十三年六月七日発宇垣外務大臣より在独

国東郷大使宛第一九二号

満独貿易協定改定要綱

本省 6月7日後3時30分発

第一九〇號(極秘)

往電第一五四號二關シ

本件ニ關シ其ノ後再三軍側ヲ通シ滿洲國側ト折衝ヲ重ネタルカ滿洲側ハ分離交渉ヲ主張シ嚮意セサルニ付我方ハ前後數回ニ亘リ關係各廳係官ト打合セタル結果萬已ムヲ得ストテ右分離交渉ヲ承認スルコトニ決定シ滿洲國側ニ對シテハ軍側ヲ通シ別電第一九一號ノ通回答セリ就テハ將來滿洲國側ハ本件交渉トハ別個ニ對獨交渉ヲ開始スヘキニ付之ト竝

行シ且緊密ナル連絡ヲ保チツツ日獨間平常貿易一億六千萬

圓對四千萬圓、求償貿易一億三千萬圓ヲ目標トシ本件交渉

促進方此上トモ御盡力相成度

尙軍側ヨリ入手セル滿獨貿易協定改定要綱別電第一九二號

ノ通ナリ

別電ト共ニ在滿大使ニ轉電セリ

(別電一)

本省 6月7日後3時30分発

第一九一號(極秘)

滿洲國ノ滿獨交渉分離方申出ニ對スル滿洲側ニ對スル回答

次ノ通り

(一)滿洲國カ獨逸國トノ間ニ日本ト分離シテ別個ニ交渉スル

コトニハ異議ナシ

(二)日本側ハ目下極力日獨間交渉ヲ促進中ナルニ付滿洲國ハ

對獨通商交渉ノ經過竝ニ調印ノ時期等ニ關シ日本トノ間

ニ緊密ナル連絡ヲ保チ日滿一体トシテ有利ナル結果ヲ齎

ス如ク措置セラレ度

(別電二)

第一九二號(極秘)

本省 6月7日後3時30分發

滿獨貿易協定改定要綱

一、日獨間貿易取極トハ形式上別個ノ取極トシテ現行滿獨貿易協定ヲ強化擴大スル様改訂交渉ヲ進ムルコト

二、右改訂交渉ニ當リテハ現行機構ニ於ケル一億圓對二千五百萬圓ノ基礎ハ一應是ヲ其儘存置シ最高輸入義務額ヲ超ユル滿洲側ノ輸入ニ對シテハ獨側ヲシテ現行協定ニ依ル最高輸入義務額ヲ超エ右ト同額ノ輸入義務ヲ負ハシムルコトヲ立前トスルコト(最高一億五千五百萬圓對八千萬圓ヲ豫定ス)

三、滿側カ現協定ニヨリ獨側ヨリ受ケ入ルル「マルク」額ヲ超エ輸入スル場合ニハ獨側ヲシテ在獨正金銀行ニ對シ右超過額ト同額ノ信用ヲ與ヘシメ對滿追加輸入ヲナシタル場合ノ「マルク」ニ依リ支拂代金ヲ以テ是ヲ相殺セシムルコト



418

昭和13年6月8日

宇垣外務大臣より  
在独国東郷大使宛(電報)

日独貿易と中国問題とを區別するよう独國側

へ説示し至急交渉妥結方訓令

本省 6月8日後3時40分發

第一九五號(極秘)

貴電第三〇一號ニ關シ

一、求償貿易額ニ付テハ兎モ角其ノ比率カ一對一ナルヘキコトハ本件交渉ノ當初ヨリ双方カ原則的ニ了解シ來レルトコロニシテ今更獨逸側ヨリ一對二ヲ要求スルカ如キハ過去九ヶ月ニ亘ル本件交渉ノ前提ヲ覆シ問題ヲ最初ノ「スタート」ニ引戻スモノナルニ付成程獨逸側カ正式ニ約束シタルコトナシトスルモ右ハ當然双方ノ了解セシトコロナルヲ以テ是非一對一二依リ交渉ヲ繼續スルコトト致度ニ、獨逸側カ支那事變ニ依ル對支貿易上ノ損失ヲ對本邦貿易ニ依リ回復乃至補償セントスルカ如キハ何等關聯ナキ事項ヲ結ビ付ケントスルモノニシテ條理上不合理ナルノミナラス又實際上我ニ不可能ヲ強フルモノト言フヘシ何トナレハ我方ハ今次事變ニ依リ遠キ將來ハ別トシ現在ニ於

テハ何等貿易上有利ナル地位ニ立ツモノニ非ス一面長期抗戰ノ爲爲替狀況ハ益々逼迫シ來タレル次第ニテ求償取極ノ提案モ右ノ難局ヲ切り拔ケンカ爲ニ外ナラス且我方カ支那ニ於ケル獨逸側ノ貿易上其他ノ諸權益ヲ從來通り充分尊重スヘキコトハ申スニ及ハス現ニ獨逸側ノ對支經濟開發優先的參加方ニ關シテモ累次往電ノ通り我方ニ於テ別途眞劍考慮中ナル次第ハ獨逸側ニ於テモ充分了解セルトコロナルヘシ就テハ獨逸側ヲシテ日獨貿易ト對支問題トヲ判然區別シ之ヲ關聯セシメサル様篤ト御説明相成本來ノ「ライン」ニ依リ本件交渉至急妥結方御盡力相成度

三、我國ノ爲替狀況ニ關シテハ現在迄ノトコロ日獨間貿易カ相當「スムース」ニ行ハレ殊ニ獨逸側ヨリ見レハ頗ル有利ニサヘ展開シ居レルヲ以テ獨逸側トシテハ我方ニハ尙相當ノ餘裕アルモノト理解シ居ルモノト推察セラルルモ現在ノ我カ爲替狀況ヨリ推セハ本年後半期ニ於ケル貿易ノ如キハ可成悲觀スヘキ事態ニ立到ルヘク求償又ハ「クレヂット」ノ基礎ニ依リニ非サレハ今後ノ對獨輸入ノ増加ハ全然望ミ難キ次第ナリ

四、尙貴電第三〇五號ノ凍結資金問題ニ關シテハ目下大藏省側ニ問合セ中ニテ其ノ結果ハ追テ電報スヘキモ我カ關係各省ニ於テハ從來本件交渉カ有效ニ成立スルモノト信シ爲替許可其他ニ關シテモ獨逸側ノ分ハ特ニ優先的ニ種々便宜ヲ計リ來リタルカ最近ニ於ケル獨逸側ノ出方ニ對シテハ尠カラス失望シ居レリ



419

昭和13年6月10日

宇垣外務大臣より  
在独国東郷大使宛(電報)

中国における日独經濟提携問題に関する軍の

動向について

本省 6月10日発

第二〇一號(極秘、部外秘)

往電第一九六號ニ關シ

一、陸軍側ヨリ形式ニ關スル希望申出アリタル際ノ内報ニ依レハ五日「ラウマー」「リ」外相ノ旨ヲ受ケテ大島武官ヲ訪問シ貴電第二九六號覺書ヲ示シタル上獨側トシテハ依然右ヲ單ナル覺書トセス兩政府間ノ協定トシ度キ希望ナルモ日本政府ニ於テ右欲セラレサル以上已ムヲ得ス

之ヲ主張セサリシモノナリト述ヘタル趣ヲ以テ武官ヨリ軍中央部ニ宛テ「リ」外相ノ立場ヲ強調シ本件カ日獨政治提携ト密接ナル關係アルヲ考慮ニ入レ此ノ上共外務省ヲ督勵セラレ度キ旨電報シ來ルト共ニ貴使ニ於テハ只管本件ノ經緯ヲ祕密ニセラレ前記覺書ノ如キモ「ラ」ヨリ初メテ承知セル次第ナリトテ苦情ヲ述ヘ居ル趣ナリ（海軍武官ヨリモ獨側ニ於テハ本件覺書ノ内容ニ付多大ノ失望ヲ感シ居ル模様ナルニ付獨側ニ對シテハ第三國ニ比シ有利ナル考慮ヲ與フル旨ノ原則的約束ヲナスコト日獨現下ノ國交ニ鑑ミ緊要ナリト認ムル旨ノ意見電報アリタル趣ナリ）

ニ、貴地陸軍武官及「リ」外相間ノ特殊ナル關係ニ鑑ミ貴使ニ於テ非常ナル苦心ヲ拂ハレ居ル事情ハ貴電第二四七號其他ニヨリ當方ニ於テモ充分諒解シ居ル處本件電報ニ付テハ一面ニ於テ「リ」側ノ大島武官トノ相モ變ラヌ聯絡ニ對シテハ適宜「リ」ト御懇談可然ト存セラルルト共ニ、他面貴使及武官間内部の聯絡ニ付御如才ナク取扱ハルル事適當ナルヤニ印象セラル以上氣付ノ儘申進ス

~~~~~

420

昭和13年6月15日

在独国東郷大使より
宇垣外務大臣宛（電報）

中国における日独經濟提携問題に關し外務省 の立場を大島陸軍武官へ説示について

ベルリン 6月15日後発

本省 6月16日前着

第三二〇號（極祕、部外祕、館長符號扱）

貴電第二〇一號ニ關シ

支那ニ於ケル日獨經濟提携問題ニ付テモ其ノ概略ハ隨時當館附武官ヘ話シ置キタルカ昨十四日大島ヨリ自分ハ經濟ノコトハ門外漢ナルノミナラス貴使ヨリ度々ノ指示モアリタルニ付此ノ種ノ問題ニ付何等關與スルノ意嚮ナク參謀本部ヘモ本問題ニ付テハ何等電報セサリシ處客月末參謀本部ヨリ外務省ニテハ本問題ニ付同部ニ何等相談ナク取進メ居ル旨ノ報アリ尙最近ニハ外務本省ニテハ國際協定トスルニ異存ナキ意嚮ナルコト報シ來レリトノ話アリ尙本使ノ問ニ對シ五月三日「ラウマー」ノ來訪シタルモ右ハ「リ」外相ノ命ニ依ルトハ言ハサリシ旨語り前顯貴電ノ事實トハ相違スルモノアリ何等カノ行違モアルヘシト思考セラルルモ餘リ

意ニ介スル程ノコトニモ之アルマシク兎ニ角右ニ付本使ヨリ大島ニ對シ(一)形式問題ハ「リ」外相ヨリ雙方ニ於テ「イニシアル」スルコトヲ申出アルニ依リ之ニテ取纏メ得ヘキ旨(二)獨逸側ニ對シ第三國以上ノ待遇ヲ與フヘシトノ儀ニ付テハ實情ニ即シ檢討スルノ要アルヲ以テ事簡單ニアラサル旨(三)獨逸側ニ於テハ自己ノ主張カ通ラサル場合ハ兎角種々ノ口實ヲ設ケ謀計ヲ利用スルノ癖アル故斯ル術策ニ乗セラルルノ不可ナル旨ヲ說示シ置キタリ貴電御來示ノ次第モアルニ付右御含ミ迄



421

昭和13年8月5日 宇垣外務大臣より
在滿州國植田大使宛(電報)

日獨貿易協定交渉の經過概況につき通報

本省 8月5日後9時10分發

第八五七號(極祕)

日獨貿易取極締結交渉其ノ後ノ經過概況左ノ通り
一、五月末日滿分離交渉決定後獨逸側ハ本取極ニ依ル本邦ヨリノ輸入ニ全然「インテレスト」ヲ失ヒ専ラ平常貿易ニ依ル對日輸出確保ヲ主眼トシ本邦側ニ於ケル臨時輸出入

許可規則乃至ハ爲替關係上所謂不要品不急品トシテ輸入ヲ禁止乃至抑制シ來レル品目ニ對シテモ割當制其ノ他ノ方法ヲ以テ輸入許可方要求シ來レル次第ハ累次在獨大使來往電轉電ニテ御承知ノ通ナリ

二、然ルニ獨逸側ノ要求スルカ如キ不要品不急品ノ割當等ノ問題ハ商工省方面(特ニ最近ハ物資調整局トノ關係多シ)ト連絡ヲ計ル要アルノミナラス或程度物動計畫ノ變更ヲモ必要ナラシムルモノナルヲ以テ企畫院トモ連絡ヲ執リ銳意我方ノ具體の方針決定ニ努力セリ而シテ其ノ間在獨大使ヨリ再三督促ノ電報モアリ漸ク七月末ニ至リ次ノ如キ決定ヲ見タルヲ以テ直チニ之ヲ在獨大使宛電報セリ

三、(イ)臨時輸出入許可規則乙號表品目(所謂不要品)中特ニ獨逸側ニ對シ一定ノ割當ヲ認ムルモノ

寫眞機其ノ他十九品目、右割當金額二百萬圓(一九三六年度乙號表關係品輸入實績約七百九十萬圓)

(ロ)乙號表品目以外ノ輸入抑制品(所謂不急品)中割當ヲ認ムルモノ

ホップ、硫安其他八十六品目、右割當金額一千八百六十四萬圓(一九三六年度輸入實績五千四百十萬圓)

(ハ)其他ノ品目ニ付テハ凡テ一九三六年度輸入実績ヲ認ム
 四、在獨大使館ニ於テハ之ヲ早速獨逸側係官ニ示シタルトコ
 口獨逸側係官ハ概括的ニ輸入禁止品ノ割當一千五百萬圓
 平常の性質ヲ有スル商品(兵器、機械類等ヲ除ク)ノ割當
 六千五百萬圓ノ要求ヲ爲シタル趣ニテ一見我方主張ト甚
 タシキ懸隔アルヤニ見受ケラルルトコロ各品目ニ付具体
 的ニ検討ヲ加フルニ於テハ兩者間ニ充分妥協ノ餘地アル
 ヘキヲ以テ目下伯林ニ於テ右交渉中ナリ
 五、尙求償貿易ニ依ル本邦側輸入品目及ヒ對獨輸出品目竝ニ
 平常貿易ニ依ル對獨輸出希望品目等ニ付テハ獨逸側ヨリ
 ノ要求モアリ目下連日企畫院等ノ協力ヲ得テ協議研究中
 ニテ茲數日中ニ決定ヲ見ル筈ナリ
 右不取敢

422

昭和13年8月10日

在独国東郷大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

中国における経済提携問題について独国外相 と意見交換について

付記 東亜局作成「昭和十三年度執務報告(支那經濟

關係)より抜粋
 右意見交換以降の経緯

ベルリン 8月10日後発
 本省 8月11日前着

第四三七號

往電第四〇五號ニ關シ

八日「リ」外相ト會見ノ際「リ」ヨリ支那ニ於ケル日獨經
 濟提携問題ニ觸レタルヲ以テ冒頭往電「ヴィール」ニ話シ
 タル所ヲ説明シ單純ニ第三國ヨリ良キ待遇ヲ獨逸ニ與フル
 コトト爲スハ日本側トシテ承諾困難ニシテ又國內課税ハ治
 外法權トモ關聯シ來ルヲ以テ不可能ナリ就テハ支那ノ實情
 ニ即シテ研究セラレ度キ旨述ヘタル處「リ」ハ何等カ別ノ
 「フォーミュラ」發見ニ努ムヘシト答ヘタリ

(付記)

宇垣「オット」會談

八月二十九日「オット」駐日獨逸大使宇垣大臣ヲ來訪シ日
 本政府ハ事實上支那ニ於テ獨逸人ニ優先的權益ヲ認ムル用
 意アル旨申出ラレタルカ「リ」外相ハ事實上ノミナラス文

書ニ依リテ約束セラルル様願ヘリ右ハ廣大ナル要求ナルモ
スル要求カ日獨ノ緊密ナル關係ニ相應シ居ルコト及在支獨
逸人ノ拂ヒタル犠牲ハ他ノ第三國人ト比較シ得サル程大ナ
ルコトヲ考慮セラレタシ在支獨逸人ノ權益ニ優先的地位ヲ
與フルコトハ今日迄事實上認めラレス占領地域内ノ獨逸商
人ハ悲惨ナル狀況ニアリト述ヘ北支ニ於ケル「シーメン
ス」驅逐等種々ノ事例ヲ舉示シタル上占領區域ニ於ケル日
本側ノ經濟政策竝ニ在支獨逸商ノ損害賠償ノ問題等ニ關シ
質問セルニ付大臣ハ何レ調査ノ上回答スヘキカ帝國政府ノ
支那ニ於ケル列國ノ權益尊重ト門戸開放ノ原則確守ハ屢次
ノ聲明ニ依リ明カナルカ作戦行動ノ必要上場合ニ依リ右原
則遂行カ妨ケラルルコトアルハ已ムヲ得サル所ナリ然レ共
特ニ獨逸ニ對シテハ可成ク速ニ前記原則ノ遂行ヲ確守スル
様致スヘシト述ヘタリ

獨逸側ノ修正案提出

上述ノ如ク本件ニ關シ我方ニ於テハ曩ニ修正シタル覺書案
ニ對スル獨逸側ノ回答ヲ期待シ居リタル次第ナルモ先方ニ
於テハ在本邦「オット」大使ヲ通シ交渉進捗方督促シ來レ
ル次第ニモアリ東郷大使ヨリ獨逸側ニ對シ第三國ニ優先シ

(編注)

テ待遇スル問題ニ關シテハ別ニ作成セル支那ニ於ケル獨伊
人ニ對スル特別取扱振ニ關スル記錄ニヨリ我方カ實際上出
來得ル限り獨伊人ニ對シ便宜ヲ圖リ現實ニ於テ第三國人ニ
優先シテ待遇シ居ル次第ヲ強調シ若シ已ムヲ得サル場合ハ
「時間的ニ獨逸ヲ優先セシム即チ獨逸側ノ希望ニ對シテ第三
國ニ率先シテ考慮ス」トノ意味合ニテ覺書案ニ、ノイ、ヲ

「將來支那ニ於ケル經濟活動ニ關スル獨逸ノ希望ハ日本
政府ニ於テ第三國ニ優先シテ考慮スルモノトス

尤モ右優先の考慮ハ爾後ニ於ケル第三國トノ協力ヲ排除
スル性質ヲ有スルモノニ非ス又特ニ日本ト特殊ノ友好關
係ニ在ル國ニ對シテハ獨逸ト共ニ優先的ニ考慮スルヲ妨
ケサルモノトス」

トノ趣旨ニ訂正スルモ可ナル旨ヲ訓令セリ

依リテ九月十五日柳井駐獨參事官「ヴィール」局長ヲ往訪
シ右訓令前段ノ旨ヲ申入レ(後段我方修正案ニ付テハ觸レ
ス)タル上「プロメモリア」ノ問題ニ付テハ獨逸側ノ回答
ヲ待チ居ル次第ナルカ研究ノ結果如何ト尋ネタル處「ヴ」
ハ折角約束スルモ實效舉ラサレハ役ニ立たス又現地軍憲カ
獨逸側ノ經濟利權ヲ侵害スル狀態ナレハ何ノ效ナシトテ取

極ノ成立ヲ急カサル態度ヲ示シ後ニ至リ更ニ關係方面ト研究ノ上新案ヲ提出スヘシト述ヘ居タルカ十月六日同人ハ「リ」外相ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ東郷大使ヲ來訪ノ上左記獨逸側ノ修正案ヲ提出セリ

一、累次ノ「リッベントロップ」外相東郷大使間支那ニ於ケル經濟建設ニ關スル會談ニ於テ「リ」外相ハ支那ニ於ケル日本ノ特殊地位ヲ承認スルト共ニ日獨兩國ハ兩國間ニ締結セラレタル防共協定ノ精神ニ則シ支那ニ於テ經濟的ニモ亦益緊密ナル協力ヲ行フヘシトノ意見ノ一致ヲ見タリ

且更ニ「リッベントロップ」ハ東郷ニ對シ獨逸政府ハ支那ニ於ケル日本トノ經濟的技術的協力ニ對シ最善ヲ盡スヘキ旨聲明シ且日本政府側ニ於テモ同様最善ヲ盡シ就中支那ニ於ケル獨逸ノ貿易ニ對シ特ニ寛大且好意的態度ヲ執ラレ度シトノ希望ヲ開陳セリ

二、更ニ東郷ハ本會談ノ上記ノ如キ經過竝ニ結果ヲ本國政府ニ報告シタル處帝國政府ヨリ獨逸政府ニ對シ次ノ通告ヲナスヘキ權能ヲ賦與セラレタリ
右報告ニ依レハ日本政府ハ上記一、所掲ノ諸點ヲ了承シ

從テ將來支那ニ於ケル獨逸ノ經濟活動竝ニ外國貿易ニ關シテハ次ノ原則ニ依據スヘキ意嚮ヲ有ス

イ、日本政府ハ將來支那ニ於ケル獨逸ノ經濟活動ニ付獨逸ニ原則上第三國ヨリ優レタル地位ヲ與ヘ更ニ今後獨逸側ヨリ提起セラルヘキ個々ノ場合ニ付獨逸側ノ利益ヲナルヘク獨逸國ニ有利ニ考慮スルノ用意アリ

尤モ獨逸國ノ斯ル優先的取扱ハ第三國トノ協力ヲ排除スルコトアルヘキ性質ヲ有スルヲ得サルコト勿論ナリ
ロ、日本政府ハ支那市場ニ於ケル日獨ノ貿易ハ原則トシ

テ平等ノ基礎ニ立ツヘキモノトシ居リ從テ兩國ハ關稅、稅金、課金、手數料、交通稅等ニ關シ平等待遇ヲ享クヘク且何等カ特別ノ輸出入規則、爲替管理又ハ其他ノ商品取引及支拂取引ヲ處理スル爲ノ措置カ講セラレ日獨兩國ノ貨幣制度ノ相違等ノ爲獨逸國ニ平等ノ地位ヲ與フルコト實際上不可能トナル場合ニハ獨逸ノ利益ニ付テハ特別ニ之ヲ好意的ニ考慮シ少クトモ他國(日本國及滿洲國ハ之ヲ除ク)ノ享有スルコトアルヘキ最惠的待遇ヲ之ニ供與スヘキモノト思考ス

右修正案ニ於テモ獨逸ハ依然第三國ヨリハ原則トシテ良好

ナル待遇ヲ要求シ居レルカ「ヴィ」ハ右適用ノ範圍ハ第一開發事業ニ付第三國中先ツ獨逸側ニ相談スルコト第二企業ノ態容及企業ヨリ生スル果實ニ對スル取扱等ヲ含ムモノナルヲ述ヘ尙(ロ)ハ關稅ノミナラス内地課稅ヲモ含メアル處右ニ付獨逸ト支那トノ間ノ條約關係ヨリスレハ獨逸人ハ支那ニ於テ内國民待遇ヲ受クル次第ナルモ現實ニハ支那ニ於ケル獨逸人ハ治外法權ヲ享有スル國民ト同等ノ待遇ヲ受クル實例トナリ居ル事情ニモアリ日本ハ之等事項ニ付テモ日獨ノ友好關係ニ顧ミ自國人ト同等ノ待遇ヲ與フルコト差支ナキ譯合ト考ヘ居ル次第ナリト述ヘタリ

有田「オット」會談

十一月十六日有田大臣「オット」大使會談ノ際有田大臣ハ支那ニ於ケル經濟活動ニ獨逸ヲシテ特別ノ地位ヲ占メシムルコトハ之ヲ認ムルニ吝カナラサルモ書物ニシテ「アツシユランス」セヨト云ハルル時ハ當方トシテモ困難ナル事情アリ

日本トシテハ日滿支經濟「プロツク」ノ見地ヨリ門戶開放「機會均等主義」ノ嚴格ナル適用ヲ求メサル様關係各國政府ニ對シ主張スル積リナル處日滿支相互間ニ特別ナル取扱ヲ爲

シ他國ヲシテ之ニ均霑セシメサルコトハ之ヲ強ク主張シ得ヘキモ此ノ經濟「プロツク」以外ノ國々ノ間ニ例ヘハ英米ト獨伊トノ間ニ取扱振ヲ異ニスルコトハ之ヲ強ク主張シ得サルヘキ處アリ從テ日本トシテハ實際上獨伊ニ對シ特別ナル取扱ヲナスコトハ疑ヒナキモ書物ニシテ之ヲ約束スルコトハ假令祕密ニスルモ外部ニ洩ルルコトアルヘキニ付困難ナリト述ヘタル處「オット」大使ハ日本ニ於テ各箇ノ具體的問題ノ處理ニ當リ獨逸ニ對シ特別ナル考慮ヲ拂ヒ事實上有利ナル取扱例ヘハ北支羊毛ノ輸出ヲ獨逸人ニ許シ又ハ支那ニ於ケル獨逸人カ上海及南京ニ於テ受ケタル損害ノ賠償ニ關シ特別ナル取扱ヲナサルルニ於テハ必スシモ書物ニヨル約束ヲ要セサル趣旨ヲ述ヘ居タリ

有田大臣ハ何レニセヨ本件ハ近ク研究ノ上返事スヘシト述ヘタル處「オット」大使ハ可成ク一週間以內ニ本國政府ニ報告シ度キ旨希望シ居タリ

大島大使ニ對スル回訓

其ノ後大島駐獨大使ヨリ獨逸側ヨリノ督促モアルニ付獨逸側修正案ニ對スル我方ノ回答ニ關シ請訓アリタル處之ニ對シ有田大臣ヨリ十二月二十九日附ヲ以テ今次事變ニ於ケル

獨逸側ノ好意ニ對シテハ我方トシテモ充分之ヲ認識シ居リ獨逸側ノ利益ニ對シテハ出來得ル限り好意の考慮竝ニ取扱ヲナシ來レル次第ナルカ(但シ獨逸側ハ我方ニ對スル援助及之ニ伴フ犠牲ニ關シ不當ニ高ク評價シ居リ右ハ最近ニ於ケル日獨逸交渉案件ニ於ケル獨逸側ノ基本的氣分トシテ寧ろ交渉ノ障礙トナリ居レルヤニモ看取セラルルニ付適當ノ機會ニ是正ノ要アリ)獨逸側ノ希望モアリ今後ノ獨逸關係ニ於テ右方針ヲ明瞭ナラシメ置クコト不可ナラスト思考セラレタルニ付支那ニ於ケル獨逸關係案件處理方ニ關シ五相會議ニ於テ話合ヒタル處實際上箇々ノ場合ニ獨逸ニ對シ好意の考慮ヲナシ以テ兩國ヲ英米ニ先ンシ優待スルコトハ差支ナキモ獨逸ニ對スル優先の待遇ヲ包括のニ承認シ之ヲ書物ニテ保障スル時ハ獨逸ニ於テ對内政策ニ利用セラレ商人等ニ提示セララルル時當然英米等其ノ他第三國ニ漏レル危險性多分ニアルヘク又右ノ場合ニハ門戶開放、機會均等ニ對スル日本ノ新方針ヲ英米其ノ他ノ第三國ニ強ク主張スル場合ノ非常ナル障礙トナルヘシトノ反對意見相當強ク五相會議ニ於テ決定ヲ見ルニ至ラサリシ次第ナリ今後本件ハ更ニ五相會議ノ贊同ヲ得ル様努力スル所存ニテ自然本件「プロメ

モリア」ハ右五相會議決定以後トナルヘキ見込ナル旨同訓セリ

編 注

昭和十三年七月二十九日、東郷大使がリッペントロップ外相に手交した覚書案。その内容は次の通り(東亜局作成「昭和十三年度執務報告(支那經濟關係)」より抜粋)。

一、累次ノ「リッペントロップ」外相東郷大使間會談ニ於テ「リ」外相ハ支那ニ於ケル日本ノ特殊地位ヲ承認スルト共ニ東郷大使トノ間ニ日獨兩國ハ防共協定ノ精神ニ則シ支那ニ於テ經濟的ニモ亦益緊密ナル協力ヲ行フヘシトノ意見ノ一致ヲ見タリ

且更ニ「リッペントロップ」ハ東郷ニ對シ獨逸政府ハ支那ニ於ケル日本トノ經濟的技術的協力ニ對シ最善ヲ盡スヘキ旨聲明シ且日本政府側ニ於テモ同様最善ヲ盡シ就中支那ニ於ケル獨逸ノ貿易ニ對シ特ニ寛大且好意的態度ヲ執ラレ度シトノ希望ヲ開陳セリ

二、更ニ東郷ハ本會談ノ上記ノ如キ經過竝ニ結果ヲ本國政府ニ報告シタル處帝國政府ヨリ獨逸國政府ニ對

シ次ノ通報ヲナスヘキ權能ヲ賦與セラレタリ

右報告ニ依レハ日本政府ハ上記一、所掲ノ諸點ヲ了承シ從テ將來支那ニ於ケル獨逸ノ經濟活動竝ニ外國貿易ニ關シテハ次ノ原則ニ依據スヘキ意嚮ヲ有ス

イ、日本政府ハ將來支那ニ於ケル獨逸ノ經濟活動ニ對シテハ特ニ好意的考慮ヲ拂ヒ尠クトモ第三國(但シ滿洲國ヲ除ク)カ享受シ得ル最モ有利ナル待遇ヲ與フルハ勿論更ニ今後獨逸側ヨリ提起セラルヘキ個々ノ場合ニ付獨逸側ノ利益ヲナルヘク獨逸國ニ有利ニ考慮スヘシ

尤モカカル好意的取扱ハ第三國トノ協力ヲ排除スルコトアルヘキ性質ヲ有スルヲ得サルコト勿論ナリ

ロ、日本政府ハ支那市場ニ於ケル日獨ノ貿易ハ原則トシテ平等ノ基礎ニ立ツヘキモノトシ居リ從テ兩國ハ關稅政策上平等待遇ヲ享クヘク且何等カ特別ノ輸出入規則、爲替管理又ハ其他ノ商品取引及支拂取引ヲ處理スル爲ノ措置カ講セラルル場合ニハ獨逸ノ利益ニ付テハ特ニ好意的考慮ヲ拂ヒ尠クトモ

列國(但シ貨幣制度上特別關係ニ在ル日、滿兩國ヲ除ク)カ享受シ得ル最モ有利ナル待遇ヲ與フヘ

キモノト思考ス

~~~~~

423

昭和13年8月22日

宇垣外務大臣より  
在独国東郷大使宛(電報)

求償による輸入品目の選定に關しわが方は日  
中戦争の推移を踏まえ生産力拡充から武器優  
先の原則へと方針変更について

本省 8月22日後3時10分發

第三一二號

貴電第四五三號(二)及(三)ニ關シ

一、求償ニ依ル本邦側輸入品目ニ關シ企畫院方面ニ於テハ當初ハ主トシテ生産力擴充ニ必要ナル品目ヲ輸入シ度キ意嚮ナリシガ其ノ後事變ノ推移ト共ニ武器其他軍需品ノ輸入ノ必要痛感セラルルニ至リタル結果當初ノ方針ヲ變更シ武器優先ノ原則ニ基キ品目ヲ選定シタル次第ナリ  
二、就テハ當方ニ於テハ貴電御來示ノ趣旨ヲ企畫院方面ニモ傳達シ再應品目ノ研究ヲ爲シ結果追電致スヘキモ獨逸側

ニ對シテハ我方カカカル特殊ノ貿易ヲ必要トスルニ至リ  
タルハ專ラ今次事變ノ結果ニシテ從ツテ事變遂行上必要  
ナル商品ノ輸入不可能ナルニ於テハ本邦側トシテハ艱カ  
ラス期待ニ反セサルヲ得サル旨申入レ出來得ル限り我方  
ノ主張貫徹方御盡力相成度

~~~~~

424

昭和13年8月29日 宇垣外務大臣より
在独国東郷大使宛(電報)

第二案として独国側に提示すべき品目案について

別電 昭和十三年八月二十九日發宇垣外務大臣より

在独国東郷大使宛第三二〇号

右品目案

本省 8月29日後5時45分發

第三一九號(極祕)

往電第三一二號(二)ニ關シ

一、企畫院ヲシテ調査研究セシメタル結果別電第三二〇號ノ
如キ案ヲ得タリ就テハ往電第二九二號及第二九四號ニ依
ル品目ヲ第一案トシ一應之ヲ獨逸側ニ正式ニ申入レ右案
ノ受諾方極力御盡力相成度若シ獨逸側カ武器及特殊鋼ノ

除外方強ク主張スル場合ハ第二案即チ別電第三二〇號ノ
品目ヲ先方ニ提示セラルルコトト致度

三、尙獨逸ニ於ケル別電各品目ノ向後一ケ年間ノ生産能力ニ
付調査ノ上結果御回電相成度貴電第四五三號(一)ノ見込ハ
陸海軍係官ノ間ニ意見ノ相違アルヤニ見受ラルルヲ以テ
今後ハ兩者共同ノ上調査セシムル様致度

(別電)

本省 8月29日後5時45分發

第三二〇號(極祕)

往電第三一九號別電左ノ通(單位百萬圓)

(一)陸軍用

(イ)彈丸搾出機 九

(ロ)小銃製造設備 一〇

(ハ)機銃製造設備 一七

(ニ)戰車製造設備 一八

(ホ)航空機製造設備 一〇

(二)海軍用

(ヘ)航空機製造設備 一四

(ト)特殊大型機械	五
(チ)彈丸及機銃製造設備	八・五
(リ)航空用鋼材鍛造設備	八・五
(三)生産力擴充用	
(ヌ)製鐵用機械	八
(ル)石炭液化裝置	一三
(オ)發電用設備	四
(ワ)工作機械	八
(カ)アルミニウム製造裝置	七
(合計)	一四〇

425 昭和13年10月28日 在独国大島大使より
近衛外務大臣宛(電報)

貿易協定交渉の促進につき独国外相と意見交換について

ベルリン 10月28日後発
本省 10月29日前着

第六五四號(極秘)
二十三日「リ」外相ト會談ノ際本使ヨリ目下交渉中ノ日獨

通商協定問題ニ言及シ本件ノ急速ナル成立ハ單ニ經濟上ノミナラス政治的見地ヨリスルモ重大ナル意義アルモノト信スルヲ以テ右大局の見地ヨリ至急妥結方獨側係官ヲ督勵アリ度ク又最近ノ機會ニ「ゲーリング」元帥及「フンク」經濟大臣ニモ同様申入ルル所存ナリト言ヒタル處「リ」外相ハ自分モ全然同感ナルニ付御申出ノ通り取計フヘク又貴使ヨリモ「ゲ」元帥及「フ」大臣ニ篤ト話サレタシト答ヘタリ

尙特派使節派遣ニ關シ「リ」外相ハ絕對不賛成ナリト言ヒタルニ付本使ヨリ自分モ同様ノ考ナルヲ以テ取止方曩ニ本國政府ニ電報濟ナリト答ヘ置キタリ

426 昭和13年11月5日 有田外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

日独關係の大局的観点から貿易協定交渉の促進を独国政府責任者へ説示方訓令

本省 11月5日後0時10分發

第四三四號(極秘)
往電第四三〇號ニ關シ

日獨通商交渉ノ進行捗シカラザルハ遺憾トスル處ナルガ我方ニ於テハ固ヨリ貿易尻ノ調整又ハ貿易額ノ増進ト云フガ如キ單ナル商業上ノ考慮ノミニ依リ之ヲ開始シタルニアラズシテ日獨共通ノ目的達成ノ爲獨乙側ヨリ軍需品及軍需品製造設備ノ供給ヲ受ケ我が國力ヲ充實シ防共陣營ノ強化ニ資セントスルノ大本ニ基クモノナル次第ハ夙ニ御承知ノ通ナリ從テ我方ニ於テ最モ關心ヲ有スルハ獨乙側ノ軍需品及軍需設備ノ對日供給能力及其ノ引渡期間ノ點ト獨乙側ガ我方現在ノ對獨支拂能力不足ニ對シ如何ナル限度及方法ニ依リ協力シ得ルカノ二點ニ存スルコトハ本交渉ノ目的ヨリ來ル當然ノ歸結ナリ然ルニ獨乙側交渉擔當者從來ノ態度ハ遺憾ナカラ本件交渉ノ大局ヲ忘レ單ナル經濟上ノ利害ノ打算ニ墮シタル嫌アリ特ニ軍需品及軍需設備ノ對日供給力及引渡期間ニ關シ我方ヨリノ細目ノ提示ヲ求メタルニ對シ調査中ヲ名トシテ明確ナル回答ヲ澁リ居ルノミナラズ不要不急品ノ對日輸出ニ關スル保障ヲ求ムルコトニノミ努力スルガ如キハ本件協定ノ大本ヲ忘却シタルモノト云ハサルベカラズ

以上ノ事情ニ鑑ミ貴大使ニ於テハ今後アラユル機會ヲ利用

シ政府ノ責任者ニ對シ本件協定ノ眞目的ニ就キ充分御説明相成獨乙政府ヲシテ我方ノ欲スル軍需品軍需製造設備及生産力擴充ノ爲各種設備ノ供給可能量及其ノ引渡ノ最短期間ヲ一日モ早ク我方ニ提示シ來ルト共ニ其ノ支拂方法ニ關シテモ我國ノ現情ト兩國ノ特殊關係ヲ十分考慮シ大乗の見地ヨリ從來ノ考方ヲ一新セシムル様御盡力アリタシ

~~~~~

427

昭和13年11月16日

在独国大島大使より  
有田外務大臣宛(電報)

### 貿易協定交渉促進につきゲーリング元帥と意

### 見交換について

ベルリン 11月16日前発

本省 11月16日夜着

第六九三號(極秘)

貴電第四三四號ニ關シ(日獨貿易協定交渉ニ關スル件)

本使十四日「ゲーリング」ヲ往訪日獨通商交渉カ既二一年ニ及ヒ未タ妥結ヲ見サルハ甚タ遺憾ナリ本協定ノ成立カ日獨兩國ノ經濟關係ヲ密接ナラシムルハ勿論兩國ノ政治的友好關係ヲ益々緊密ナラシムヘキ重大ノ意義ヲ有ス既ニ獨滿

協定及日滿對伊ノ通商協定モ成立ヲ見タル今日日獨協定カ  
未タ成立セサルハ單ニ日獨兩國ノ内部ニ於テノミナラス第  
三國ニ對スル關係ヨリ見ルモ面白カラス本件交渉ニ當リ獨  
逸側ノ其ノ妥結ニ對スル誠意ハ充分了解スルモ戰時下ノ日  
本トシテハ獨逸側ノ要求ヲ悉ク容認スルコト困難ノ實狀ニ  
アリ此ノ點ニ付獨逸側交渉ノ任ニアル者トシテハ或ハ不滿  
ナルヤモ知レサルモ本協定大本ノ精神ニ鑑ミ防共陣營ノ強  
化日本ノ戰爭目的達成ノ爲獨逸側ニ於テ日本ノ立場ヲヨリ  
了解セラレンコトヲ希望ス就テハ本件交渉ハ貴下ノ部下タ  
ル「ウオルタート」ヲ委員長トシテ日本側ト行ハレ居ルニ  
鑑ミ此ノ際貴下ヨリ「ウオ」ニ對シ兩國友好關係増進ノ大  
局的見地ヨリ至急妥結方篤ト御話アリ度シト申入レタルニ  
對シ「ゲ」ハ貴下ノ御話ハ能ク了解セリ本交渉ノ妥結カ日  
獨兩國ノ友好關係増進上重大ナル意義アルハ自分モ夙ニ感  
シ居ル所ニシテ其ノ成立ハ最モ緊要事ト思考シ居レリ「ウ  
オ」ニ對シテハ自分ヨリ貴大使御話ノ次第ヲ充分傳ヘ置ク  
ヘシト答ヘタリ

428

昭和13年11月25日

有田外務大臣より  
在独国大島大使宛（電報）

わが方最大限度の譲歩意見を試案として独国

側へ提示方訓令

別電

昭和十三年十一月二十五日發有田外務大臣よ  
り在独国大島大使宛第四七〇号

右意見

本省 11月25日後5時30分發

第四六九號（極秘、館長符號扱）

日獨貿易協定ニ關スル交渉ハ現在ノ睨ミ合ヲ續クル限り急  
速妥結ハ到底望ムヘクモアラサルニ付目下懸案中ノ諸問題  
ニ付我方トシテ忍ビ得ル最大限度ノ譲歩ヲ爲シタル當方意  
見別電第四七〇號ノ通電報スルニ付大体右ノ意見御含ミノ  
上獨逸側ヲ督促シ此ノ際至急本件話合ヲ進メラレ度尤モ右  
ハ外務省限リノ案ニシテ未タ關係省ノ同意ヲ得タルモノニ  
非サルモ右限度ニテ獨逸側ノ同意ヲ取付クルコト可能ナル  
見込立チタル上ハ獨逸側ト妥協シ得ル最終案トシテ我方關  
係省ヲ説服シ本件交渉ヲ至急取り纏メ度キ意嚮ナルニ付テ  
ハ右事情御含ミノ上獨逸側ニ對シテハ貴大使限リノ試案ト

シテ之ヲ提示シ先方カ大体右「ライン」ニテ妥結スルコトニ同意ナルニ於テハ之ヲ日本政府ニ提案シ其ノ同意ヲ取付クル様努力スヘキ旨ヲ附言シタル上交渉ヲ進メラルルコトト致度

尙從來ノ交渉ハ技術的問題ニ捉ハレタル觀アルニ付今後ハ技術の問題ハ出來得ル限り後廻シトシ取極ノ本筋ニ付着々之ヲ具体化スル様御盡力相成度又不要不急品ノ割當増額ノ如キモ獨逸側ノ一千三四百萬圓ノ要求ニ對シ最近ノ商工省案ニ依レハ僅カニ四拾萬圓ノ増額ヲ認メ居ルニ過キス他ノ主要問題ニシテ目鼻附クニ於テハ或ハ商工省ヲシテ五六百萬圓程度ノ増額方承認セシム得ヘシト思料セラルルモ他ノ主要點ニ付何等具体化シ居ラサル現狀ニ於テ本件ノミヲ取上ケ獨逸側ノ要求ヲ承認セシムルコトハ當底不可能ナル次第ナリ

(別電)

第四七〇號(極秘、館長符號扱)

二用語

本省 11月25日後5時30分發

往電第四一二號ノ方針ニ依リ度若シ獨逸側カ之ニ應セサル場合ニハ日獨兩語ヲ正文トスルコト差支ナカルヘキモ一應本件決定ヲ留保シ交渉ハ從來通り英文ヲ基礎ニ之ヲ繼續スルコト

三、特別貿易ノ繼續性

我方輸入カ大体一年半乃至二年ヲ要シ又獨逸側輸入モ一年以内ニ完了シ難シトノコトナルヲ以テ從來ノ一ヶ年輸入一億四千萬圓求償及「クレヂット」各七千萬圓ノ建前ヲ變更シ期間二ヶ年輸入二億圓(但シ内譯軍需設備一億四千萬圓民需設備六千萬圓)求償及「クレヂット」各一億圓トスルコトノ新提案ヲ試ミ獨逸側ノ同意ヲ取付クルコト右ハ從來ノ建前ヨリセハ期間二倍トナリ居ルヲ以テ其ノ金額モ倍額トナルヘキ筈ニテ又我方ハ其ノ金額ノ多キ程希望スル次第ナルモ獨逸側ノ機械類ノ輸出能力及本邦品輸入力等ニ對シ充分同情的考慮ヲ加ヘタル結果右ノ如キ「リザーブド」ナル提案ヲ爲ス次第ナルニ付是非右限度ニテ話合ヲ付ケラレ度

尙其ノ場合輸出入共二二年以内ニ完了セシムルコト及第三年度以降ニ於ケル特別貿易ハ本取極實施後約一年間ノ

成績ヲ見テ其ノ内容條件等ヲ改メテ協議スルコトヲ約セシムルコト

### 三、特別貿易ニ依ル輸出入品

獨逸品ノ輸入ハ軍需設備一億四千萬圓民需設備六千萬圓トスルコトヲ原則トシテ承認セシムルコト(各設備ノ内譯ハ何レ協議決定ス)獨逸側ハ前者ノ減額ヲ主張スル虞アルモ先方ヲシテ我方ノ現狀ヲ十分認識セシメ成ル可ク右原則ヲ承認セシムル様努力スルコト(尤モ此ノ點我方ニ於テハ多少再考ノ餘地ナキニ非ス)

本邦品ノ輸出ハ既ニ提出ノ希望品目ニ依ルコト

### 四、「クレヂット」ノ條件

輸入品引渡完了後一ヶ年据置三ヶ年分割拂ニテ折合フ様交渉スルコト(尤モ獨逸側力頑強ニ之ニ應セサル場合ニハ引渡完了後三年間分割拂ニテモ已ムヲ得サルヘシ)

利率ハ五分ヲ主張スルコト

尙技術の細目ハ双方銀行間ニ協議セシムルコトトシ差支ナキモ右ノ點ニ付テハ豫メ獨逸側當局ノ諒解ヲ取付ケ置クコト

### 五、平常貿易ニ依ル支拂方法

今一應我方提案ヲ主張シ獨逸側カ之ニ應セサル場合ニハ先方ノ主張スル支拂方法ニ付充分説明ヲ求メ其ノ不公平ナラサルヲ保證セシメタル後之ヲ容認シ差支ナキモ其ノ場合F。O。B。基礎ニ依ルコトトシ從來ノC。I。F。基礎ニ依ル輸入一億六千萬圓對輸出四千萬圓ハF。O。B。價格ニ換算スルコト

### 六、不要不急品ノ割當

獨逸側ハ我方不要不急品割當總額約二千萬圓ニ對シ一千三百萬圓ノ増額ヲ希望シ居ルトコロ右ハ戰時下ノ我方トシテ到底容認シ得サルトコロナリ然レ共最近商工省ノ再調査ニ依レハ不要不急品以外ノ割當額(獨逸側ノ所謂第三部門ニ屬スルモノ)ハ少額ニ過キ約一千萬圓ノ割當増額ヲ必要ナル由ナルヲ以テ之ヲ利用シ不要不急品ノ割當増額ハ極力抑制スルコトトシ精々三、四百萬圓程度ニテ獨逸側ヲ納得セシムル様努力セラレ度(尤モ他ノ諸問題ニシテ相當我方ニ有利ニ解決ヲ見ルニ於テハ最終的ニハ五、六百萬圓位迄増額ヲ關係省方面ヲ納得セシムルコト必スシモ不可能ナラサル見込ナリ)

(本件資料十一月中旬發「クリーエ」便ニテ托送濟)

尙獨逸側當局ノ獨逸商人ニ對スル面子ノ問題モアルヘキ  
ニ付本邦側ハ事變終了シ戰時經濟ノ緩和ヲ見タル場合ニ  
ハ獨逸ヨリノ不要不急品ノ輸入割當ニ關シ更ニ好意的考  
慮ヲ拂フ旨ヲ約シ差支ナシ  
七、其他

「ズデーテン」地方トノ貿易ニ關シテハ目下ノ所別段希  
望ナシ其他ノ諸點ニ付テハ獨逸側ト十分折衝シ先方ノ讓  
歩シ得ル最大限度ノ見透ヲ付ケ回電アリ度

~~~~~

429

昭和13年12月(21)日 在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

独国側との協議状況を踏まえわが方方針決定

方請訓

付記

昭和十三年十二月二十一日着在独国大島大使
より有田外務大臣宛電報

対日輸出品に関する独国案

ベルリン

発

本省 12月21日着

一、獨逸側ヨリノ求メニ依リ十二月十六、十七兩日宇佐美參

事官、法華津書記官、關事務官同行ノ上「ウオルター
ト」氏及先方係官ト會見シ相當突込ミタル議論ヲ闘ハシ
タルカ先方ノ主張ヲ要約セハ次ノ通りナリ

(一)特別貿易ヲ二箇年二億圓(C、I、F)内一億圓求償、
一億圓信用トスルコトニ異議ナシ但シ信用ノ條件(即
チ利子及期限等)ニ付テハ銀行家間ノ話合ニ委スコト
トスルコト又特別貿易ニテ獨逸側ノ供給シ得ルモノハ
我方提出ノ「リスト」中石油精製、石炭液化、製鐵及
發電關係裝置ノミニ限定シテ工作機械ヲ除外シ從テ第
一年分一億圓ノ殘額ハ(五千六百五十萬圓)日本側ニテ
完成工場設備ヲ買入ルヘキコト(獨逸案ニ依ル特別、
平常兩貿易ノ品目、金額ハ來電寫第二號參照アリ度右
ハ我方ヨリ曩ニ提出セル表ヲ按排シ一年分トシテ作成
セルモノナリ)

(二)平常貿易ハF、O、B基礎ニテ一箇年一億五千萬圓ト
シ不要不急品第三部門加里「タール」分溜物ヲ合シ其
ノ半額七千五百萬圓輸入スヘキコト、残り七千五百萬
圓ハ鐵鋼及鐵工作機械(我方案ノ特別、平常双方ニ含
マルル民需、軍需ノ全部ニ對シF、O、B三千五百萬

圓ヲ認メ來レリ)「ボツシユ」噴油「ポンプ」精密機械「アルミ」製造設備等トスルコト

(三)「コンドル」機爆撃機其ノ他ノ完成兵器類四千七百萬圓ハ平常及特別ノ需要ト分離スルコト而シテ右ニ付テハ大臣ノ決裁ニ依リ決定スヘシ

二、右獨逸側ノ主張ニ對シ宇佐美參事官ヨリ

(イ)平常貿易ヲF、O、B一億五千萬圓トスルコトハ從來ノ了解ニ反シ増額トナルヲ以テ承諾不可能ニテ之ヲ一億四千萬圓程度トシタキコト

(ロ)不要不急品其ノ他ヲF、O、Bニテ七千五百萬圓輸入スルコトハ戰時下ノ日本トシテ絶対不可能ナルコト

(ハ)工作機械ノ供給額年額三千五百萬圓ハ我方要求ト餘リニ懸隔アリテ到底之ヲ日本政府ニ取次キ得サルコト

(ニ)工作機械ハ是非共特別貿易ニテモ供給ヲ受ケ度キコト
(ホ)特別貿易ニテ完成工場ヲ買入ルルコトハ到底不可能ナルコト

(ヘ)獨逸案ニ依レハ「コンドル」機超爆撃機其ノ他陸海軍用軍需品四千七百萬圓ハ平常特別兩貿易ヨリ漏レ居ルトコロ是非供給ヲ受クル必要アルヲ以テ之ヲ特別貿易

中ニ入レ度キコト

三、其ノ結果獨逸側ハ

(イ)ニ付テハ讓歩ノ模様アリ

(ロ)ニ付テハ平常貿易ノ半額トスルコトニ付テハ絶対讓歩ノ餘地ナキコトヲ明言ス

(ハ)ニ付テハF、O、B三千五百萬圓カ獨逸ノ生産能力ノ許ス最大限度ニテ假令右以上ヲ約束スルモ實現不可能トナル惧アリ但シ將來若シ何カノ理由ニテ生産能力ニ餘力ヲ生スレハ右ヲ日本ノ註文ニ向ケルコトハ約束シ得ヘク又日本側ニテ希望セハ二箇年分合計七千萬圓ヲ第一年目ニ註文ヲ發スルモ差支ナシト述フ

(ニ)ハ絶対承諾シ得サル旨ヲ主張ス

(ホ)ニ付テハ若シ(ヘ)ノ點カ可能トナラハ問題ハ解消スヘシト答ヘタリ

(ヘ)ニ付テハ其ノ他ノ點ニ付合意成立セハ此ノ點ニ付大臣ノ決裁ヲ請フコトトスヘシト答ヘタリ

四、依テ更ニ押問答ヲ續ケ就中右(ハ)ノ工作機械ノ點ヲ強調シ此ノ點カ我方ニ取り最モ重要ナル眼目ナルコトヲ繰返シ説明シタルモ先方ハ前記ノ趣旨ヲ繰返スノミニテ之以上

ノ讓歩ヲ得ルコト能ハサリキ依テ宇佐美ハ斯ル最モ重要ナル點ニ付不満足ナル以上我方トシテハ從來ノ提案ニ對シ再檢討ヲ加フルノ外ナキ旨ヲ述ヘ置キタル趣ナリ就テハ今後共我方主張ノ貫徹ニハ極力努力スヘキモ大體此ノ程度力獨逸側ノ最後ノ肚ニテ此ノ上大ナル讓歩ハ望ミ難キヤニ觀測セラルルニ付右御含ニテ今後ノ方針御決定相成様致度

編注一 本電報は電報番号不明。

二 本文書付記として採録。

(付記)

ベルリン 發

本省 12月21日着

一、對日輸出品目ニ關スル獨逸側對案(單位千圓)

(一) 平常貿易(FOB)

(イ) 第一乃至三部門(加里、「タール」分^(前カ)流

物ヲ含ム)ニ屬スル商品

七五、〇〇〇

(ロ) 特殊鋼材及其ノ他ノ鐵類(軍需民需合計) 二二、四九〇

(ハ) 工作機械(軍需民需合計)

三五、〇〇〇

(ニ) 「ボツシュ」噴油唧筒

二、〇〇〇

(ホ) 精密機器類

四、二〇〇

(ヘ) 「アルミ」製造設備ノ内電解裝置

一二、〇〇〇

(合 計)

一五〇、六九〇

(二) 特別貿易(CIF)

(イ) 石油精製裝置

二、一一六

(ロ) 石炭液化裝置

一三、一三〇

(ハ) 製鐵用機械裝置

一〇、七一〇

(ニ) 發電用品

一〇、〇〇〇

(ホ) 完成工場

五六、五〇〇

(合 計)

九二、四五六

(三) 飛行機其他ノ兵器

(イ) 「コンドル」

五、〇〇〇

(ロ) 爆 擊 機

一、五〇〇

(ハ) 兵器並ニ光學機械

二七、〇〇〇

陸 軍 用

一四、〇〇〇

海 軍 用

四七、五〇〇

(合 計)

四七、五〇〇

二、平常貿易ニ依ル對日輸出品中

(ロ)ハ我方原案ノ平常ニ依ル陸海軍買付中ニ含マレ居ル一千萬圓及二百萬圓製鐵裝置ニ含マレ居ル九萬圓等ト合計シタル數字ナリ

(ハ)ハ我方要求額中此ノ程度ノミヲ認メントスルモノナリ

(ニ)ハ我方原案中「デューゼル」部分品トアルモノニ相當スルヤ平常陸軍買付中ノモノニ相當スルヤハ目下確メ中ナリ

(ホ)ハ我方原案ノ「工作機械以外ノ精密機器」四、〇三〇千圓ノ外製鐵關係等ヨリ拔出シタル分ヲ一括合計シ首藤ヨリ提出セル數字ナリ

三、特別貿易ニ依ル對日輸出品中

(一)差當リ一箇年一億圓ノ計畫トナリ居ルヲ以テ之ヲ二年二億ノ計畫ニ變更方申入レ同意ヲ得タリ

(ハ)ハ我方原案一三、〇〇〇千圓中ヨリ特殊工作機械類、精密機器類ヲ削除シタル數字ヲ首藤ヨリ提出セルモノナリ

(ニ)ハ「アルミ」製鋼用發電關係六百萬圓ヲ含ム

四、飛行機其他ノ兵器ニ關シ

陸軍用兵器及光學機械ハ我方原案陸軍平常輸入内譯ノ内小銃、機關銃光學兵器ノ合計ナリ

海軍用兵器及光學機械ハ我方原案海軍平常輸入内譯ヨリ特殊鋼ヲ除キタルモノナリ

編 注 本電報は電報番号不明。

~~~~~

430

昭和13年12月23日

在独国大島大使より  
有田外務大臣宛(電報)

大局的見地より妥協案をもつて貿易協定交渉

を妥結すべき旨意見具申

付 記 昭和十三年十二月二十三日着在独国大島大使

より有田外務大臣宛電報

右妥協案

ベルリン 発

本 省 12月23日着

一、累次御訓令ノ趣旨ヲ體シ本使以下係官一同我方主張ノ貫徹ニ極力努力セルニ拘ラス十二月廿一日附往電申進ノ如キ結果ヲ得タルハ本使ノ甚タ遺憾トスル所ナルカ懣ツテ

其ノ内容ヲ検討スルニ

(イ)獨逸側ニテ不要不急品及第三部門(獨逸側ハ加里「タール」分溜物等ヲモ此ノ中ニ含メ居レリ)ノ割當額ヲ平常貿易ノ半額迄獲得セントスルハ我戰時經濟狀態ヲ了解セサル無理解ナル申出タルハ申迄モナキ儀ナルカ半面獨逸當業者ハ昨年來ノ我輸入制限措置ニ依リ甚タシキ打撃ヲ蒙リ居リ右ニ對シ對抗措置ヲ執ルヘシトノ聲多キニ加ヘ支那ニ於ケル戰果及我獨占の措置ニ對シ苦情夥シキ際政府トシテハセメテ平常貿易ノ半額位迄平常時の性質ヲ有スル商品ノ對日輸出ヲ確保スルコトニ依リ是等業者ノ損害及不滿ヲ幾分ニテモ緩和セント欲スルハ無理ナラヌ次第ト認メラレ實際問題トシテモ半額以下ニテハ政府部内ヲ説得スルコトスラ困難ナル實情ニアル趣ナルヲ以テ右額ヲ之以上減額スルコトハ頗ル困難ト認メラル

(ロ)工作機械ノ供給額二箇年F、O、B七千萬圓即チC、I、F換算約八千萬圓餘ハ我希望ヲ無視スルコト甚タシキモ四箇年計畫及明年三月迄ノ大規模ノ軍擴ヲ控フル獨逸トシテ其ノ生産能力ヨリ見テ右以上ヲ確約スル

コトハ絕對困難ナル實情ニ在ルモノノ如ク當地日本商社ノ言ニ依ルモ大體右程度カ限度ナルヘシトノコトナリ且獨逸側ニテハ將來更ニ供給力ニ餘裕ヲ生セハ右ヲ日本向輸出ニ振向クヘキコト及第一年度ニ於テF、O、B七千萬圓迄ノ註文ヲ發スルコトヲ認ム(但シ現在ノ取引慣習ニ從ヒ原料代トシテ一部手付金「三分ノ一乃至二分ノ一」ヲ外國爲替ニテ支拂ハレタキ由)等相當ノ誠意ヲ示シ居ルニモ鑑ミ不足分ハ米國其ノ他ヨリ購入スルコトトシ一應此ノ程度ニテ満足スル外ナキヤニ存ス

(ハ)更ニ今次回答中最モ我方ニ取り興味アルコトハ從來獨逸側カ極力反對シ來レル飛行機、機關銃其ノ他ノ官製武器ヲ他ノ諸點ニ付合意成立セハ特別貿易ニテ供給スルモ差支ナキコトニ事務當局間ノ意見一致セルヲ述ヘタルコトニシテ大體獨案受諾ニ決定セハ此ノ點更ニ突止ムヘシ(獨側ハ現在ハ官製武器ヲ何國ニ對シテモ  
(完成力)  
「クレヂット」ニテ賣リ居ラスト稱シ居レリ)

三就テハ大局の見地ヨリ見テ此ノ際多少我ニ不足ナル條件ヲ以テスルモ日獨ノ間ニ經濟協定ヲ締結スルコトハ現

在ノ兩國政治の敦厚關係ヲ一層緊密化スヘク他面之カ不成立ハ第三國ニ對スル關係ヨリ見テ甚タ面白カラサル結果ヲ來スヘキニモ鑑ミ此ノ際大體別電(來電寫第四號參照)ノ如キ「ライン」ニテ至急妥結ヲ圖ルコト最モ緊要ニ存セラル就テハ關係方面トモ御協議ノ上右案ニ對スル御意嚮大至急御回示相煩度(尙獨逸官廳ハ二十四日「クリスマス」ヨリ二十六日迄及三十一、一日ヲ除キ執務シ居ル趣ナリ爲念)

三、尙獨逸側ハ工作機械ノ輸出ニ關シ各國別ニ輸出割當ヲ實施シ居リ右割當ハ一月中ニ決定セラルル筈ニシテ萬一夫レ迄二日獨ノ話合纏マラサル時ハ最近大軍擴ヲ行ハントシツツアル伊太利ヲ始メ各國ヨリノ注文ニ追ヒ立テラレ居ル獨逸トシテハ日本向割當豫定額ヲ遞減シ第三國ニ振向クルノ余儀ナキニ至ルヤモ知レスト稱シ居レリ又工作機械ニ對スル注文ハ「ライプチヒ、メッセ」以後ニ於テハ當業者ニテ引受困難ナルヘキニ付取急カレタキ旨申出テ居レリ又從來ノ交渉經過ニ鑑ミルモ交渉ノ遲延ハ徒ニ條件ヲ惡化スルノミニテ得ル所ナク又歐洲國際情勢ノ見透ヨリスルモ獨逸ノ工作機械供給餘力ハ増大ノ見込乏

シキヤニ存セラルル(本點ハ最近歸朝セル陸軍今村大佐モ承知ナリ)ニ付若シ本省ニ於カレテ工作機械ノ輸入ノ點ニ重點ヲ置カルルニ於テハ遅クモ一月中ニ具體的協定作成ノ必要アルニ付右御含ニテ大至急御回訓相成度シ

編注一 本電報は電報番号不明。

二 本文書付記として採録。

## (付記)

ベルリン 発

本省 12月23日着

### 一、平常貿易ニ關シ

(イ)總額F・O・B一億四千萬圓對三千五百萬圓トシ不要不急品及第三部門(加里「タール」分溜物ヲ含ム)ヲ合セ日本側ハ七千萬圓迄輸入スルコト

(ロ)決濟方法ハ獨逸側提案ノ支拂協定ノ實質ヲ採用スルコトトシ期間ヲ二箇年トス但シ附帶費用ハ双方負擔トスルコト

(ハ)獨逸側ハ一箇年三千五百萬圓ヲ最低限度トシ出來得レ

ハ右以上ノ工作機械ヲ日本側ニ供給スルコト及日本側ニテ第一年度ニ於テ二年分即チ七千萬圓迄ノ註文ヲ發スルコトヲ承諾スルコト

## 二、特別貿易ニ關シ

(イ)期限二箇年總額C・I・F二億圓トシ内一億求償、一億信用トスルコト

(ロ)日本側ノ購入スヘキモノハ石炭液化、製鐵、石油精製等生産力擴充設備(工作機械ヲ含マサル趣旨ナリ)及飛行機、機關銃等ノ完成兵器トシ右設備ト兵器トノ購入割合ヲ例ヘハ半々ト言フカ決定シ置クコト(此ノ點ニ付之以上詳細ノ約束ヲ取付ケントスルトキハ再ヒ細目ニ捉ハルルニ至リ大綱ニ關スル決定ヲ遲延スヘク却テ不利ナルヘシ但シ右割合ニ付御異議アラハ至急回電相成度シ)

(ハ)獨逸側ハ大體日本側提出ノ表ニ掲記セラレタル物品ヲ輸入スヘキコト

(ニ)決済方法ハ爲替ヲ用ヒス兩國ノ指定スル銀行二圓及馬克ヲ以テ各代金ヲ拂込ムコトトシ日獨何レカニ於テ圓又ハ馬克ニ不足ヲ生セルトキハ相手國ハ之ニ短期融資

ヲ爲スモノトスルコト(信用ノ條件ニ付テハ至急北村ヲシテ「ライヒス、バンク」側ト協議セシメタル上追電スヘシ)

(ホ)第三年度以降ニ於テ之ヲ繼續スヘキヤ否ヤ及其ノ條件等ニ付テハ一個年後ノ成績ヲ檢討シタル上之ヲ決定スルコト

三、用語ハ日本語及獨逸語トシ必要ナル箇所ニハ英語ニテ註釋ヲ附スルコト

編 注 本電報は電報番号不明。

~~~~~

431 昭和14年1月14日 有田外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

關係各省の意向を踏まえたわが方最終案を独
国側へ提示の上結果報告方訓令

別 電 昭和十四年一月十四日發有田外務大臣ヨリ在

独国大島大使宛第二〇号

わが方の最終的意向

本 省 1月14日後10時發

第一九號(極秘)

客年貴電第七九二號及貴電第三六號ニ關シ

關係各省ノ意嚮ヲ綜合スルニ大体別電第二〇號ノ通ニシテ
工作機械ノ問題ハ別トスルモ(尤モC I F 一億圓トF O B
七千萬圓ノ差ハ二千數百萬圓アリ)不要不急品七千萬圓ヲ
二年間ニ亘リ約束スルコトハ不同意ナルヲ以テC I F 六千
百萬圓案(六千五百萬圓案ノ提示ハ之ヲ見合サレ度シ)ヲ最
後案トシ我方ノ立場ヲ充分説明ノ上今一應獨逸側係官トノ
間ニ最後の折衝ヲ試ミ若シ獨逸側方何等讓歩セサル場合ハ
本件交渉ヲ繼續スヘキヤ否ヤニ付最後ノ檢討ヲ加ヘ度キニ
付結果至急御回電相成度

(別電)

本省 1月14日後10時發

第二〇號(極秘)

(一)平常貿易ニ依ル不要不急品及一般商品ノ割當ニ關シ我方
當初ノ提案タル四千九百萬圓中ニハ戰時下我方ノ必要ト
セサル商品少クトモ二千五百萬圓ヲ包含シ又商工省案ニ
依ル六千萬圓中不要不急品ノ額ハ三千二、三百萬圓ニ達

シ從ツテ本協定ヲ二年間繼續センカ我國ハ七千五、六百
萬圓ノ巨額ニ達スル不要不急品ヲ輸入スルコトナル次
第ナリ我方カスノ如ク巨額ノ不要不急品ノ輸入ヲ認メン
トスルハ一ニ特別貿易ニ依リ我方ノ必要トスル軍需設備
(約一億四千萬圓)及生産力擴充設備(約六千萬圓)ノ入手
ヲ希望スルカ爲ナリ

(二)然ルニ獨逸側ハ當初ヨリ不要不急及一般商品ノ割當八千
萬圓ヲ強硬ニ主張シ居ルトコロ右獨逸側ノ要求ニ從ヘハ
我方ハ年約四千七、八百萬圓ノ不要不急品ヲ輸入セサル
ヲ得ス從ツテ二年間ニハ之カ爲實ニ九千四、五百萬圓ニ
モ上ル貴重ナル爲替ヲ費消セサルヘカラサルコトナル
次第ナリ之ニ對シ我方ノ得ルトコロハ比較的緊急必要ト
セサル生産力擴充設備(最近ノ我國物動計畫ハ軍需優先
ノ原則ノ下ニ立案サレ居レルハ御承知ノ通ナリ)ト我方
ノ必要トセサル完成工場(此ノ意味不明瞭ナルニ付獨逸
側係官ニ問合サレ度)ニ過キスシテ我方ノ最モ必要トス
ル軍需設備(主トシテ工作機械ヲ其ノ内容トス)ハ之ヲ入
手スルコトヲ得スカクテハ寧ロカカル取極ヲ締結セスシ
テ嚴重ナル爲替管理ヲ施行シ不要不急品ニ支拂フヘキ右

巨額ノ爲替ヲ節約シ最モ必要ナル物資ヲ我方ニトリ最モ有利ナル國ヨリ購入スル方遙カニ得策ナリ

(三)依テ不要不急品ニ付テハ商工省案ヲ最後案トシテ強硬ニ交渉シ若シ獨逸側カ之ニ應セサル場合ニハ遺憾乍ラ本交渉ハ一先ツ之ヲ打切り別ニ日獨間通商關係調整ノ方策ヲ案出スルノ外ナシ



432

昭和14年1月20日

在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

わが方提案承諾の見込みなき独国側態度について

ベルリン 発

本 省 1月20日着

一月十七日宇佐美参事官ヲシテ大森、大堀、高橋、法華津ヲ伴ヒ「オルタート」「フオス」及「スピンドラー」同席セリ)ヲ往訪セシメ昨年貴電御來示ノ趣旨ニ依リ我方ノ主張ヲ説明シ長時間ニ亘ル懇談ヲ行ハシメタルトコロ其ノ結果左ノ通り

(一)不要不急及第三部門品ニ付テハ我方ハ獨逸側ノ國內事情ヲモ考慮シ難キヲ忍ンテ當初ノ四千九百萬圓案ヨリ一躍

一千二百萬圓ノ讓歩ヲ爲シタリ然ルニ獨逸側ハ當初ノ八千萬圓案ヲ固執シテ讓ラサルトコロ戰時經濟狀態下ニアル我國ニトリテハ右額カ最大限度ノ讓歩ニシテ此ノ限度ノ輸入ニ付テモ國內官廳ノ大反對アル次第ナリト篤ト説明ノ上獨逸側ニ於テモ這般ノ事情ヲ充分了解シ右額ニテ承諾アリ度キ旨縷々説得ニ努メタルモ「ウ」ハC I F六千百萬圓案受諾困難ナル理由ニ付テハ既ニ客年十二月ノ會見ノ際詳細ニ説明シタル通りナリトシテ右案ハ殆ト考慮ノ餘地ナシトノ態度ヲ示シタリ

(二)工作機械ノ最低保障額ニ付テモ御來示ノ趣旨ニ基キ大イニ説得ニ努メタルモ「ウ」ハ一箇年F O B三千五百萬圓ノ保障ハ最後のノモノナリト述ヘ尙假令保障額ハ三千五百萬圓ニ止マルト雖實際ニ於テ獨逸カ日本ニ供給シ得ル工作機械ノ額ハ之ヨリ更ニ多額ニ上ルヘシト豫想セラルルコト及政府トシテ右額以上少シテモ多クノ工作機械ノ日本宛供給方ヲ當業者ニ對シ積極的斡旋ノ用意アル次第ナルモ政府ノ日本ニ對スル文書上ノ保障トシテハ現在ノ生産能力ヨリ算出セル三千五百萬圓以上ノ額ヲ掲記スルコトハ絶對不可能ナル旨ヲ繰返シタリ

(三)又工作機械ヲ特別貿易ニ移スコトニ付テハ獨逸側ハ一貫シタル設備中ニ妥當ナル分量ニ於テ含マルル工作機械ヲ特別貿易ニテ得ルコトハ承諾スヘキモ單ニ工作機械ノ羅列ニ過キササルモノヲ設備ノ名ノ下ニ特別貿易中ニ計上スルコトハ承諾シ難キ旨ヲ述ヘタリ

(四)尙工作機械ノ保障限度ニハ既註文品ヲ含マシメサルコトヲ繰返シ主張シタルモ獨逸側ハ三千五百萬圓中ニハ既註文品ヲ含ム趣旨ニシテ既註文品ヲ含マシメサルコトニハ絶對反對ナル旨ヲ答ヘタリ

(五)兵器類ヲ平常貿易ニ移スコトハ工作機械ヲ特別貿易ニ入レ得ルヤ否ヤノ問題トモ關係アルヘキニ付今回ハ此ノ點ニ觸ルルコトヲ差控ヘタリ

依テ宇佐美參事官ヨリ以上ノ點特ニ不要不急及第三部門品ニ付獨逸側ノ再考ヲ求メタルトコロ先方ハ一應二三日間考慮ノ上回答シ越ス旨約シタルモ大體ニ於テ六千百萬圓案ヲ承諾シ來ル可能性ハ殆ントナキ模様ナリ

尙獨逸側ノ所謂完成工場トハ一貫セル單位ノ工場設備全部ヲ一括買入ルルコトヲ意味スルモノニシテ從テ目下日本側買付計畫中ニ計上シアル石炭液化、石油精製裝置等ハ獨逸

側ノ所謂完成工場ニアラスシテ部分的設備ナリ尙右完成工場ニ付テハ客年獨逸案提示アリタル際日本側ニテハ右買付ノ意思ナキ旨竝ニ右完成工場ノ代リニ武器類ヲ特別貿易中ニ入ルル様申入レ置キタル次第ニテ今回モ更メテ右買付ノ意思ナキ旨繰返シ置キタリ

編 注 本電報は電報番号不明。

~~~~~

433 昭和14年1月<sup>(27)</sup>日 在独国大島大使より  
有田外務大臣宛(電報)

譲歩なき独国側態度に対し一層の考慮を要求  
について

ベルリン 發

本 省 1月27日着

本使一月廿六日「ウオルタート」氏ノ來訪ヲ求メ彼我ノ努力ニモ拘ラス日獨貿易協定交渉今や決裂ニ瀕シ居ルハ極メテ残念ナリ殊ニ日本側トシテハ再三不用不急品ノ額ニ付讓歩ヲ爲シタルニモ拘ラス獨逸側ハ依然トシテ交渉ノ當初ヨリ此ノ點ニ付テハ全然讓歩シ居ラス又他方工作機械ノ金額

竝ニ工作機械ヲ特別貿易ニテ購入スルコトニ關スル日本側ノ主張モ全然容レラレサルハ日本側ノ最モ遺憾トスル點ナリト述ヘタル處「ウォールタート」氏ハ日本側ノ事情ハ良ク諒解スルモ獨逸側モ各方面ノ情勢ニ鑑ミ之以上ノ讓歩ハ甚タ困難ナリト述ヘ且獨逸ノ或一部ニテハ最近ニ於ケル日本側ノ態度ニ付日本側ハ交渉ノ決裂ヲ故意ニ策シ居レリト疑ヲ抱クモノアリト述ヘタルヲ以テ本使ヨリ右ノ如キハ全然誤解ニシテ日本側トシテハ當初ヨリ誠意ヲ以テ交渉安結ヲ計リ來リ此ノ態度ニ付テハ現在ニ於テモ全然相違アルコト無シ今日ノ如キ世界ノ情勢ニ在リテハ日獨伊等ノ諸國カ經濟的二固キ結束ヲ作ルコト絕對ニ必要ナルハ日本側ノ痛感シ居ル所ナリト述ヘタル處、「ウォールタート」ハ自分モソノ點ニ付全ク貴大使ト同感ナルヲ以テ何トカシテ本交渉ヲ成立セシメ度キ意向ナリト繰返シ述ヘタルヲ以テ本使ハ獨逸側ニ於テモ尙一層ノ考慮ヲ加ヘ本件安結方ニ付工夫アリ度ト述置キタリ

## 編注

本電報は電報番号不明。



434

昭和14年1月27日

在独国外務大臣宛(電報)  
有田外務大臣宛(電報)

## 日通商關係への影響に鑑み状況打開に向け

### た措置振りにつき請訓

ベルリン

発

本省 1月27日着

屢次ノ電報ヲ以テ申シ進シ置キタル通り日獨間通商交渉ハ今日「デツドロツク」ニ乗上ケタル觀アリ此ノ儘ニテ放置セハ決裂ノ外ナキ處、本件交渉若シ失敗セハ其ノ日獨通商關係ニ及ホス影響等ヨリ見テ本邦ニ取リテモ經濟的二重大ナル損失ヲ來スハ勿論、政治的二モ各方面ニ面白カラサル影響ヲ及ホス惧少カラサルヲ以テ、本使トシテハ何等カノ形ニ依リ本交渉ヲ成立セシメ度キ希望ヲ有シ居ル次第ナルカ往電(一月二十七日着電報<sup>編註二</sup>)ニテ申シ進シ置キタル通り先方モ安結ニ達シタキ誠意充分アリト認メラレ其ノ主張モ大體明カトナリタル次第ナレハ此ノ際政府ニ於テ篤ト諸般ノ關係ヲ御考慮ノ上當方ノ措置振ニ付至急御回示相成度、尙當館トシテモ目下折角對策考究中ナレハ今後ノ參考ト致度キニ付左記ノ諸點御回示相煩度

(イ) 不用不急品及第三部門ノ額ヲ六千百萬圓以上ニ讓歩スル  
コトハ絶對ニ不可能ナリヤ例ヘハ(一)特別貿易ニ付求償ノ  
額ヲ増加スルコト又ハ(二)第三部門ノ品目ヲ増加スルコト  
ニ依リ右ノ金額増加方ヲ考慮スルコト不可能ナリヤ  
(ロ) 若シ前項六千百萬圓カ絶對ニ讓歩ノ餘地ナシトセハ他ノ  
條件ヲ多少變更スルコト(例ヘハ「クレデット」ノ額ヲ  
減スル等)ニ依リ妥結セントスルノ意思ナキヤ否ヤ  
(ハ) 又當方ノ見込ニ依レハ工作機械ノ供給最低保障限度ヲF  
OB三千五百萬圓以上トスルコトハ到底不可能ト認メラ  
ルル處、右額ヲ容認スル餘地絶對ニナキヤ否ヤ

編注一 本電報は電報番号不明。

二 本書第433文書。

~~~~~

435

昭和14年2月13日
有田外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

不要不急品問題など貿易協定交渉の難点に関
し関係各庁との協議を踏まえたわが方意向に
ついて

付記一 昭和十四年一月二十三日、通商局作成

「新對獨求償取極案要旨(試案)」

二 昭和十四年一月三十一日付町尻(量基)陸軍省

軍務局長より松嶋(鹿夫)通商局長宛公信軍務

発第一二四号

右試案に対する陸軍省意見

本省 2月13日後10時45分発

第六七號

往電第五八號ニ關シ

屢次關係各廳ト協議ヲ重ネタル結果我方意嚮左ノ如シ

一、不要不急品竝一般商品ノ點ハ最大難點ニシテ現在日本ハ
國內ノ製造業者ニ對シテ製造禁止ヲ行ヒ居ル程ニテ金額
ノ如何ヲ問ハズ之ヲ輸入スルコト自体極メテ面白カラズ
之ヲCIF六千百萬圓以上而モ爲替ヲ以テ輸入スルコト
ハ到底不可能ナル狀況ニアルニ付最后案トシテ特別貿易
第三部(第一部生産力擴充設備・第二部兵器飛行機)トシ
テ一年CIF七千萬圓迄輸入シ中一千萬圓ヲ求償且清算
取引(滿獨間ノ例アリ)若クハ二年据置三年分割拂ノ「ク
レデット」ト爲スコトハ先方ガ三、四、殊ニ三ノ點ヲ承諾

スルニ於テハ關係各廳ヲ納得セシムルノ見込アリ(「イー・ゲー」加里會社等ノ資力大ナル商社ハ現ニ「クレヂット」ニ依ル製品輸出ノ意アル旨洩シ居ル由ニテ第一乃至三部門ニ關スル獨側要求ノ眞意ガ市場確保ニアリトセバ之等大資本商社製品ヲ「クレヂット」ニテ輸入スルコト獨側官憲ノ同意アラバ可能ナルベシ)

ニ、工作機械ハ本邦ノ最モ必要トスルモノニシテ獨逸側ハ蘇聯ニ對シテスラ之ヲ供給セントシ乍ラ本邦ニ對シテハFOB三千五百萬圓ヲ以テ「供給能力ノ限度」ト稱シ現金ヲ以テスルモ尙供給セズト爲スハ到底了解シ難シ我方トシテハ最低限度CIF五千萬圓(但狹義ノ工作機械トシ既注文品ヲ含マズ)ヲ要求ス

尙工作機械注文ニ對シテハ手附金ヲ採リ居リ最近右手附ヲ漸次増額シ來レル處我方ハ右手附金全廢若クハ陸海軍買付ノ場合ノ通り注文ト同時ニ四分ノ一船積ノトキ四分ノ一着荷ノトキ四分ノ一試運轉完了后四分ノ一拂ヲ希望ス如何ナル場合ニモ少クトモ現行慣習以上ニ増額トナラサルコトヲ希望ス

(但本點ハ一、三ノ點ニ比スレバ重要性小ナリ最后ニハ既

注文ヲ除キFOB三千五百萬圓程度モ已ムヲ得ス)

三、完成工場

本點ハ一、二次グ難點ニシテ本邦現在ノ技術水準ヨリセバ獨乙ヨリ買入レ度キハ屢次送附濟ミノ企畫院作成表中ニ列記セラレタル設備部分ノミニシテ全体トシテノ完成工場ハ多量ノ不急品ヲ含ミ徒ニ高價トナリサナキダニ窮屈ヲ極メ居ル爲替資金ノ損失トナルノミナラズ物動計畫ニモ影響スル所大ナルヲ以テ極テ強キ反對アリ我方トシテハ兵器飛行機及特別貿易第三部以外ノCIF約一億三千萬圓ハ全部生産力擴充關係設備部分(例バ別電第七〇號ノ二ノ如シ)ヲ買付ケ度キ希望ヲ有スル次第ナリ(設備部分ナラバ一億三千萬圓買付ノ余地アリ)又獨逸側力完成工場ノ代リニ設備部分ヲ供給スルコトヲ肯セサル場合ニハ寧ろ完成工場買付ケヲ全然「ドロツプ」シ特別貿易ノ完成工場ニ相當スル部分ノ金額ヲアル程度(三、四千萬圓)減額スルモ已ムヲ得サルベシト思考シ居レリ

純經濟の見地ヨリスル限り完成工場ヲ買入ルコトノ到底承諾ノ見込ナキハ上述ノ通ナルモ政治的考慮ヲ以テ本協定ヲ從來ノ「ライン」ニテ妥結セシメントシテ最后ノ

(昭和十四年一月廿三日)

「ドタンバ」ニ或ハ二、三千萬圓程度ノ完成工場ヲ買入ルルコトハ或ハ止ムヲ得ス承諾スルコトトナルヘキ場合モアルヘキヤニ思考セラルル處

(1)獨乙側ハ我方ガ人造「ゴム」・「クリオライト」・「マグネシウム」等ノ技術培養ノ爲ノ小規模ナル實驗工場ヲ買入ルルコトヲ承諾スヘキヤ

(2)完成工場トハ既成ノ中古ノ工場ヲ指スモノニ非ザルヤ

(3)「フォールステンデイゲ・アンラゲ」トハ一貫セル機械設備ノ「セット」ニシテ當然壁、屋根等土木建築材料ハ含マザルモノト了解スル處果シテ然ルヤ

(4)工作機械FOB三千五百萬以外ニ鋼「ローリング・ミル(完成工場)」ヲ買付ケウルヤ

等ノ諸點ヲ然ル可ク御確カメ回電アリ度

四、飛行機及兵器ハ假令二年間トスルモ目下ノ所ニテハ既提出ノ金額以上ニハ買入ノ希望ナシ(但特別貿易ニテ買入レヲ希望スルコト勿論ナリ)

(付記一)

新對獨求償取極案要旨(試案)

現行日獨間貿易協定締結交渉ハ開始以來既二一年有半ノ歲月ヲ費シ凡ユル努力ヲ拂ヒ彼我殆ンド其ノ議論ヲ盡シタルニモ拘ラス兩者ノ主張ノ間ニハ尙相當ノ懸隔アリ(別紙(一)參照)妥結ノ見込甚タ薄ク強テ之ヲ妥結セシメンカ反テ我方ニ不利ナル結果ヲ招ク處ナシトセス(別紙(二)參照)就テハ右取極交渉ハ一應打切り新ニ左記要領ニテ小規模ナルモ實現性アル新求償取極ヲ締結スルコトト致度

記

一、獨逸側ハ特別貿易ニ依リ供給ヲ希望シ居ル生産力擴充設備CIF五千萬圓ヲ供給スルコト(別紙(三)參照)

二、我方ハ獨逸側ノ必要トスル原料品CIF五千萬圓ヲ供給スルコト(別紙(四)參照)

三、右ハ清算取引トス

四、「クレヂット」ハ含マス

五、期間ハ二ケ年トス

六、一般貿易ハ其ノ儘トス

但シ現行四對一ノ了解ヲ勵行スルコト、兵器類ノ輸入ニ

4 貿易協定をめぐる交渉

對シテモ四對一ナラシムルコト及工作機械類ノ供給量ニ付テハ別ニ約束ヲ取付クルコト

(尙右四對一ノ比率勵行ノ爲本邦側ノ大口註文ハ特ニ機密ヲ要スルモノノ外前以テ外務省ニ連絡セラルル様致度)

セ、右ニ對シ獨逸側ハ必ス我方ニ於テ一定限度ノ不急不要品ノ輸入方要求シ來ルヘキモ右ハ本求償取極ト切離サシメル様努力シ已ムヲ得サル場合ニハ年額CIF一千萬圓程度ノ不急品ノ求償取引(即チ我方ヨリモ同額ノ不急品ヲ輸出シ清算取引ヲ行フ)ヲ行フコトスルコト

別紙(一)

日獨貿易取極ニ關シ日獨間主張ノ主ナル相違點

項 目	日本側主張	獨逸側主張
平常貿易ニ依ル一般商品割當額	(千圓) 六〇〇〇〇	(千圓) 八〇〇〇〇
内所謂不要不急品	二七、〇〇〇	四二、〇〇〇

特別貿易ニ依ル輸入商品

軍需設備(工作機械ヲ主タル内容トス)

生産力擴充設備

一〇〇、〇〇〇

生産力擴充設備

一四〇、〇〇〇

完全工場

一〇〇、〇〇〇

工作機械

最低限度年CIF

五〇〇、〇〇〇

最低限度FOB

三五、〇〇〇

特別貿易ニ依ルコト

(CIF約三八、五〇〇)

平常貿易ニ依ルコト

平常貿易ニ依ルコト

平常貿易ニ包含スルコト

平常特別ノ何レニモ包含セサルコト

即チ四對一ノ比率

蓋シ四對〇ニテ全額

ニ依リ本邦品ノ輸入ヲ許可スルコト

爲替拂要求ノ腹ナルヘシ

「クレヂット」ノ條件

二ケ年据置

据置期間ハ認メス

三ケ年分割拂

年利率五分五厘

別紙(二)

平常貿易中一般商品割當額及其ノ中不要不急品ノ割當額

關スル當方ノ意見左記ノ通ニ付承知相成度

記

一、英米ノ對日經濟的壓迫動モスレバ惡化セントスル今日、日獨ノ親善樞軸ヲ一層鞏化擴大スルノ具体的方策トシテ日獨ノ通商關係ヲ縮少セントスルガ如キハ一トシテ之ヲ選バザルヲ可トス

二、諸情報ニ徴スルモ今猶獨逸現地ニ於ケル日獨首腦者間ニ一層政治的諒解ヲ深ムル努力ヲ煩ハシ度キ希望切ナルモノアリ

三、此ノ際可及的二原協定案即チ三億圓對二億四千萬圓案ヲ骨子トシテ成立セシムルヲ主眼トシ、貴方試案附屬別紙(一)獨逸側主張欄記載要項中左ノ事項ニ付更ニ獨逸側ノ眞意ヲ照會セラレ度

(1) 生産力擴充設備完全工場ノ種類如何

(2) 完全工場中ニ設置シアル工作機械ハ當然完全工場ノ内ニ含マルルモノト解スルモ差支無キヤ

(3) 一般商品割當額及其ノ内不急不要品ハ日本側案ノ額ニテ妥協シ得スヤ

(4) 尙不急不要品ハ「クレヂット」ニテ購入シ得ズヤ

(5) 全般ニ「クレヂット」ノ期間ハ三箇年以上トナシ得スヤ

(6) 工作機械ノ手附金ハ平常貿易ニ依ルトセバ其ノ額ハ四分ノ一トナシ、爾後ハ獨逸港灣ヲ出發スルトキ四分ノ一、日本港灣到着ノトキ四分ノ一、試運轉完了後四分ノ一拂トスルヲ得ズヤ(明年度モ同ジ)

(7) 兵器ハ情況ニ依リ購入セサルコトアルヤモ知レズ四、尙當方トシテハ特別貿易二億圓ノ中一億圓ハ「クレヂット」ニテ購入シ得ルモノトシテ諒解シアリ

~~~~~

436

昭和14年2月13日

有田外務大臣より  
在独国大島大使宛(電報)

設備供給等に関する独国側の最終的な意向確

認方訓令

本省 2月13日後7時45分発

第六八號

往電第六七號ニ關シ

一、右往電ノ通り關係廳特ニ商工省、企畫院、物資調整局邊ニテハ第一乃至第三部門ノ増額及完成工場買入ニ關シ極

メテ強キ反對アリ之等我方ノ欲セサルモノヲ不利ヲ忍ン  
デ買フニ對シ獨側ハ我方ノ希望スル工作機械等ハ一定限  
度以上ハ供給セズト爲ス以上經濟的見地ヨリセバ本協定  
ハ從來ノ「ライン」ニテ進ム限リ到底妥結ノ價值ナシ寧  
口從來通り四對一ノ比率ヲ以テ必要ナルモノノミヲ現金  
ニテ買付クル方針ニテ進ムヲ得策ナリトサヘ考ヘ居ル向  
アリ

三、就テハ此ノ際左記諸點ニツキ獨乙側ノ最終的意嚮ヲ確メ  
以テ本件交渉ヲ從來ノ「ライン」ニテ繼續スベキヤ否ヤ  
ヲ決定致度キニ付冒頭往電ニテ我方意嚮御承悉ノ上今一  
應先方意嚮御確メ回電アリ度

(1)獨側ガ完全工場賣込ミノ要求ヲ撤回シソノ代リニ我方  
ノ意味スル如キ設備部分(往電第七一號及別電第七〇  
號參照)ヲ特別貿易ニ於テ我方ガ協定妥結ヲ不利ナラ  
ズトスル限度(最低C I F 一億圓前後ナルヘシ)迄供給  
スルヤ否ヤ

(2)右ノ場合ニ於テ獨側ガ平常貿易ニ於ケルC I F 六千萬  
圓ノ他ニ特別貿易第三部(往電第六七號ノ一、參照)ニ於  
テ第一乃至第三部門商品一千萬圓ノ増額ヲ爲スコトヲ

以テ満足スヘキヤ否ヤ及満足セサル場合ニハ右以上如  
何ナル増額ヲ要求スルヤ(平常貿易半額C I F 八千萬  
圓ノ現金買付ケハ關係廳ヲ説得セシムル見込ナキニ付  
發電用品噴油「ポンプ」等ハ獨側ガ假ニ特別貿易ニテ  
賣込ミヲ承諾スヘシトスルモ尙之ヲ平常貿易ニ振替ヘ  
置キ第一乃至第三部門商品ハ特別貿易第三部二廻ス様  
交渉アリ度)

~~~~~

437

昭和14年3月24日

有田外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

交渉の最難関である不要不急品の取扱いにつき

先行して独国側の原則的同意取りつけ方訓令

本省 3月24日午後11時30分発

第一七二號(極秘、館長符號扱)

貴電第二五四號ニ關シ

本件交渉妥結ノ爲ニハ最難關タル不要不急品ノ點ヲ解決ス
ルコト最モ緊要ナル處我方ハ最後ニハ不要不急品三千萬圓
迄讓歩ノ腹ナルニ付右御含ミノ上個々ノ品目割當決定ノ交
渉開始ニ先立チ

	一般商品 割當額	内不要不急品 割當額	二ヶ年間ニ於 ケル不要不急 品割當額
我方最初ノ提案	(千圓) 五〇、〇〇〇	(千圓) 二〇、〇〇〇	(千圓) 四〇、〇〇〇
我方現在ノ提案	六〇、〇〇〇	二七、〇〇〇	五四、〇〇〇
在獨大使館案	七〇、〇〇〇	三五、〇〇〇	七〇、〇〇〇
獨逸側主張	八〇、〇〇〇	四三、〇〇〇	八四、〇〇〇

別紙(三)

新求償取引ニ依ル輸入品目(假案)

(但シ企畫院ノ日獨貿易輸入計畫案ニ依ル、單位千圓)

- 一、製鐵用機械裝置 一三、〇〇〇
- 一、發電用品 四、〇〇〇
- 一、石油精製裝置 二、〇〇〇
- 一、人造石油裝置 一三、〇〇〇
- 一、アルミ製造設備 一八、〇〇〇
- 合 計 五〇、〇〇〇

別紙(四)

新求償取引ニ依ル輸出品目(假案)

(但シ特別貿易ニ依ル對獨輸出表ニ準據ス、單位千圓)

- 一、生 絲 一五、〇〇〇
- 一、鯨 油 一〇、〇〇〇
- 一、葉煙草 七、〇〇〇
- 一、魚 油 五、〇〇〇
- 一、菜種油 五、〇〇〇
- 一、魚 粉 五、〇〇〇
- 一、硬化油 三、〇〇〇
- 合 計 五〇、〇〇〇

(付記二)

軍務發第一二四號

(接受日不明)

日獨貿易協定ノ今後ノ處理ニ關スル件

昭和十四年一月卅一日

陸軍省軍務局長 町尻 量基(印)

外務省通商局長 松島 鹿夫殿

先般關係省主務官ヲ貴局ニ會同ノ上ニ應ノ協議相成リタル
本月二十三日貴局試案ニナル「新對獨求償取極案要旨」ニ

(イ) 不要不急品三千萬圓以下

(ロ) 右ノ内一千萬圓ハ特別貿易トシテ求償清算ニテ行フコト

ノ二原則ニ付獨側ノ原則的同意ヲ取付クルコト捷徑ニ非ズヤト思考セラル

又往電第一五八號ノ輸出品ニ關スル我方主張ハ右原則的同意ヲ至急取付クル爲ニハ多少讓歩スルモ已ムヲ得ザル可シ(不要不急品ノ範圍ハ我方最初ノ主張ニ依リテ解釋セラレ度獨側ガ實績迄輸入ヲ要求シ來レルモノニ付テハ假ニ其ノ要求ヲ認ムル場合ニモ之ヲ不要不急品ニ含マシムルコトトシタシ)



438 昭和14年4月24日 有田外務大臣より 在独国大島大使宛(電報)

不要不急品問題など懸案中の重要課題に対するわが方事情につき独国側へ説示方訓令

本省 4月24日午後8時20分發

第二四〇號(極秘、館長符號扱)

貴電第三七二號ニ關シ

一、本件交渉ニ關シ目下懸案中ノ重要點ハ(イ)我方ガ平常貿易ニテ輸入スル不要不急品ヲ含ム一般商品(ロ)工作機械供給保障ハ「クレヂット」條件(ニ)我方輸出品(ホ)協定案文ノ諸點ナル處

(イ) 往電第二二〇號ニテ申進シタル通物動計画モ大体本月中ニハ成立ノ見込ナルヲ以テ右計画ト大堀「ス」間ノ妥結案ヲ睨ミ合セタル上我方最終意見ヲ獨逸側ニ申出スル順序トナルベシ

(ロ) 既約品ノ額意外ニ多額ナルニ鑑ミ(往電第二二三號)一年三千五百萬圓ノ供給ヨリ既約品ヲ除外セシムルコトハ到底不可能ナルヘク又一方既約品ヲ包含セシムルコトハ保障ヲ全ク無意義ナラシムルヲ以テ結局保障ノ金額ヲ明示セズ獨逸政府ヲ信賴シ將來同政府ハ日本ノ必要トスル工作機械ヲ成ルベク多量ニ供給スル様誠意ヲ以テ斡旋スヘシトノ保障ヲ以テ満足スルノ外ナカルベシト思考シ右ノ趣旨ニテ目下國內各廳ト協議中ニテ恐ラク右ノ通決定ヲ見ルベキ見込ナリ

(ハ) 「ゴールドクローズ」ノ點以外ノ點ハ銀行間ノ細目協定ニ委スルコトトナリ居レリ尙右「クローズ」ノ點モ

獨逸側ニ於テ我方ヲ納得セシムルニ十分ナル理由アラ
バ最後ニハ讓歩止ムヲ得ズト考ヘ居レリ

(二)目下關係廳ト協議ヲ重ネ居レルガ二三重要商品ニ付意
見纏マラザレド近ク決定ノ上獨逸側ノ輸入商品希望案
(貴電第二九六號)ニ對スル我方對策トシテ數日中二貴
方ニ電報スル手筈ナリ

(ホ)協定案ハ獨逸側對案ヲ基礎トシテ目下銳意講究中ナル
モ何分實質問題ニ付決定セサル點アルヲ以テ未タ我方
修正案ヲ決定スルニ至ラス右決定マテニハ尙一、二週
間ヲ要スル見込ナリ

二、累次ノ電報ヲモ御參照ノ上前記ノ事情篤ト御含ミノ上宇
佐美參事官ヲシテ「ウオルタート」ニ對シ我方事情ヲ適
宜説明セシムルト共ニ我方ハ本件交渉ノ成立ヲ熱望シ居
レルモ最大難關ハ前記(イ)ノ點ニ存シ交渉ノ成否モ此點ニ
懸リ居ル次第ナルヲ以テ日獨關係ノ大局ニ着眼シ戰時下
ニ在ル日本ニ不可能ヲ強ヒザル様本件實際交渉ニ當ル者
ヲ指導アリ度旨強ク要請セシメ置カレ度



439

昭和14年5月12日

有田外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

在本邦独国大使館より独側提案への回答督促
の覚書接到につき妥協案作成の必要について

本省 5月12日後8時30分發

第二七五號(極秘、館長符號扱)

往電第二七六號ノ三、ニ關シ

一、在京獨乙大使館ヨリ本日附ヲ以テ大要左ノ通覺書ヲ提出
シ來レリ

「獨乙政府ハ日獨協定ヲ至急締結セント欲シ既ニ條文案
ヲ初メ交渉主要點ニ關シ獨乙側ノ提案ヲ爲セルニモ拘ラ
ズ日本側ハ物動計畫未決定ノ故ヲ以テ未ダ二回答ヲ與ヘ
ラレザル處獨乙側ハ今日迄ニ於テ多大ノ讓歩ヲ爲セルモ
ノナレバ至急回答相成度」

二、政府部内ニ於テモ最近特ニ本協定急速締結ヲ希望シ居ル
向少カラス

三、就テハ冒頭往電ニテ御了知ノ通り我國内官廳ノ満足スル
如キ條件ニテ本件交渉ヲ妥結スルコトヲ期待シ得サルハ
明瞭ナルヲ以テ冒頭往電三ノ點ニ付テハ往電第二七八號

ノ數字ニ余リ「ステイツク」スルコトナク妥協案ヲ作成
セラレタク右案ニツキ場合ニ依リテハ閣議ニ上程ノ上我
方態度ヲ決定シ度キ所存ナリ

~~~~~

440

昭和14年5月12日

有田外務大臣より  
在独国大島大使宛(電報)

**不要不急品問題に対する独国側の最後の肚を  
突き止め方訓令**

本省 5月12日後9時20分発

第二七六號(極秘)

貴電第三八三號ニ關シ

一、物動計畫ハ未ダニ最後の決定ヲ見ルニ到ラサルモ現在進  
行中ノ計畫ヲ往電第一四三號及客年十一月十日商工省案  
六千萬圓並ニ往電第一四二號ノ數字ト照合セル結果別電  
第二七七號<sup>(省略)</sup>ノ通

二、現在ノ物動計畫ノ輸入力ニハ特別貿易ノ「クレヂット」  
ニ依ル輸入力一年四千五百萬圓ヲ計上シ居ラザルヲ以テ  
(單ニ求償ニ依ル輸出力一年五千五百萬圓ノミヲ計上シ  
居レリ)不要不急品ニ關シ假ニ往電第一四二號七千萬圓

ノ割當ヲ採用スルトシテモ既ニ七、一七五千萬圓ノ足ヲ出  
シ居ル次第ナリ(先方八千萬圓案ニ依レバ約二一、一七  
五千萬圓トナル)

三、結局一般商品及不要不急品ノ割當ハ「クレヂット」ニ依  
ル輸入餘力四千五百萬圓ヲ見込ミテモ尙且物動計畫ノ輸  
入額ヲ相當ハミ出スコトハ必至ノ情勢ナルヲ以テ(イ)工作  
機械(ロ)特別貿易輸入品(ハ)協定案文(此等ノ點ニ關スル當  
方意見ハ來週中ニ順次電報ノ筈)(ニ)輸出品等ニ關スル最  
終ノ妥協點ト不要不急品ニ關スル先方讓歩最後の限度ト  
ヲ睨ミ合ハセ大局的立場ヨリ本件交渉ヲ全体トシテ我方  
ノ最後の態度ヲ決定スルノ外ナキ次第ナリ依テ右事情御  
含ミノ上別電第二七八號<sup>(省略)</sup>ヲモ參考トシテ不要不急品ニ對  
スル交渉ヲ進メラレ獨逸側最後ノ肚ヲ突止メラレ結果回  
電相成度

~~~~~

441

昭和14年5月20日

有田外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

独国側条文案を基礎として交渉方訓令

本省 5月20日後2時0分発

第二九〇號(極祕)

獨側條文案ニ付キ審議ノ結果左ノ通決定セルニ付獨側ト御
交渉アリタシ

一、獨側案ヲ交渉ノ基礎トシテ採用ス

二、形式ニ關シテハ

(1)用語ノ點ハ交渉ハ英語ニテ進ムルモ日獨兩文ヲ正文ト

ス

(2)別電第二九一號新第五條ノ通貿易協定ヲ基本協定(御

裁可ヲ經テ正式國際約束トス)トシ支拂取極、交換公

文等ハ權限官憲間ノ合意ニ依ル附屬取極トスルコトト

致度(但附屬取極モ參考トシテ樞密院ニ提出ス)

(3)公表ハ貿易協定、支拂取極ニ限定スルコト

三、獨側文案ニ付訂正スヘキ點別電第二九一號、第二九二號

及第二九三號ノ通リトス但シ字句ノ點ノ訂正ハ勿論從來

交渉ノ經過ニ鑑ミ必要ナル點ニ付テハ語句ヲ補充シ先方

トノ間ニ話合ヲ進メラレ結果回電アリタシ

四、「レダクシヨン」ノ點ハ留保シ置カレタシ

編注 本電報の別電はすべて省略。

442

昭和14年6月22日

有田外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

物動計畫との調節をはかるため特別貿易を極
力増加することにつき独国側を説得方訓令

付記

昭和十四年六月二十二日發有田外務大臣より
在独国大島大使宛電報第三五二号

右訓令に關する補足説明

本省 6月22日後4時30分發

第三五一號(極祕)

一、本協定締結ノ可否ハ我方トシテハ結局

(イ)現在ノ物動計畫ニ於テソノ全額ニ付キ輸入資金ヲ見込

ミアル要輸入物資ヲ特別貿易ニ繰込ミソノ半額ヲ「ク

レヂット」(現在ノ物動計畫ノ輸入力中ニ含マレ居ラ

ス)ニテ支拂フコトニ依リ現在ノ物動計畫ノ輸入力ニ

餘裕ヲ浮ヒ上ラセ之ニ依リ

(ロ)物動計畫ニ於テ之ニ對スル輸入資金ヲ見込ミ居ラサル

物動外ハミ出シ額ヲマカナヒ得ルヤ否ヤニ依リ決セラ

ルルモノナル處

三、右(ロ)ニ該當スルモノハ

(イ) 不要不急一般商品約二千萬圓(右額ハ企畫院ニテ其後
正確ニ檢討ノ結果判明シタリ)

(ロ) 往電第三五四號「コンドール」手附金二百萬圓

ナルモ協定ノ忠實ナル實施ヲ計ル爲ニ割ヲ増加シ二千五
百萬圓ト推算シ居レリ

三、然ルニ、ノ(イ)ニ該當スル要輸入物資ノ中特別貿易新規注
文ノ支拂額ハ米國向ノ豫定ヲ獨逸向ニ振替フルモ尙四千
三百萬圓(ソノ内容詳細近日中ニ電報スヘキモ相當額ノ
設計料、圖面料、特許實施料、特許權買收料ヲ含ムモノ
ナルニ付コノ點獨側ヲシテ承諾セシメラレ度)程度ヲ出
テス右ハ獨側カ(イ)工作機械、鐵鋼等我方物動ニテ豐富ニ
輸入資金ヲ豫定シアルモノ(ロ)既注文殘金ノ大部分ヲ特別
貿易ニ繰入ルルコトヲ承諾セサル結果ナリ

四、依テ此際我方トシテハ

(イ) 前記三、ノ四千三百萬圓ノ特別貿易ニ依ル供給ヲ獨側ヲ
シテ承諾セシムルト共ニ

(ロ) 既注文品ノ殘金ノ一部(追而電報ス)ヲ特別貿易ニ包含
セシムルコト

(ハ) 來年度物動ニ依ル新規對獨輸入品ノ注文ヲ繰上ケ發出

スルコト(其ノ内容ハ右(ロ)ト同時ニ電報ス)

(ニ) 加里ヲ一部分特別貿易ニ廻スコト(本點ハ必シモ必要
ナラサルモ案外獨側ニテ承諾ノ可能性アルニ非スヤト
推測シ居レリ)

等ニ依リ極力特別貿易ニ依ル輸入額ヲ増加スルト共ニ物
動トノ調節ヲ計ルコトト致度シ

五、特別貿易ニ依ル實際支拂高ハ今年度ニ於テハ九千萬圓ニ
達セサルコトアルヘキヲ以テ此ノ場合ニ對スル對策トシ
テ特別貿易ニ依ル一千萬圓ノ不要不急品取引中ニ極力物
動外ハミ出シ物資ヲ集中シ右一千萬圓ヲ總金額ニ依リ約
束セス特別貿易ニ依ル實際支拂高ノ九分ノ一トスルコト
ヲ先方ヲシテ承諾セシムル様御努力相成度(尙本電物動
關係數字ハ獨側ニハ祕セラレ度)

(付記)

第三五二號(極祕)

往電第三五一號ニ關シ

ニ右往電三ノ事情左ノ通

本省 6月22日後3時40分發

(イ)製鐵設備、人造石油設備ノ如キハ外國爲替ヲ要セサル
限り無限ニ買付ケ得ルカ如クニ思ハルルモ生産力擴充
計畫ノ全般ノ釣合上運輸、精製、加工等ノ設備及勞力
ガ併行的ニ整ハサレバ蘇聯五ヶ年計畫同様ノ失敗ヲ繰
返スコトトナル

(ロ)我方ニ於テ獨乙ヨリ輸入セントスルモノハ全設備ニ非
ズ、ソノ中一部分ノミナレバ斯卡ル一部分ヲ輸入スル
モ國內生産ニ依リ供給スヘキノ他ノ部分ガ間ニ合ハ
ザル惧アルコト

(ハ)元來「クレヂット」ハ將來ニ於テ外貨支拂ノ節約ヲモ
タラス場合ニ於テノミ是認セラルヘキ處兵器飛行機等
ハ緊急ノ必要アルモノヲ除キ一般ニハ消耗品ニシテ右
ノ條件ニ合ハザルコト

三、本邦トシテハ特別貿易ニ依ル對獨輸入品ノ僅少ナルニ苦
シミ居ルニ拘ラズ獨乙側ハ左記三、ノ如ク折角我方ニテ注
文スルモ之ヲ引受ケヲ拒絕シ居リ結局價格低廉ニシテ而
モ引渡迅速ナル米國ニ注文ヲ奪ハルコトトナリ愈々本
協定成立ヲ困難ナラシメツアルハ極メテ遺憾ナルニ付
獨乙側ニ右實例ヲ指摘シ是非共引受ケシムル様御努力相

成度

三、(イ)海軍ハ石油精製設備ニ要スル反應筒ヲ獨側ニ注文セン
ト試ミタルモ何レモ三年后ニ非レバ引渡シ得ズト稱シ
結局米國ニ注文セリ(米國ハ發註后六箇月后ヨリ引渡
ス由)委細貴地海軍ニ問合セアリ度

(ロ)三菱ハ「イー・ゲー」人造石油裝置ノ反應筒ノミヲ輸
入セントセルニ對シ獨側ハ全裝置ノ賣込ミヲ希望シ賣
溢リタリ(貴地三菱ニ御問合アリ度)

四、又在蘇大使發本大臣宛來電第七〇〇號ノ如キ事實アリヤ
否ヤ御確メノ上若シ事實ナル場合ニハ甚ダ不都合ナルニ
付獨側ノ注意ヲ喚起セラレ度

~~~~~

443 昭和14年7月15日 有田外務大臣より  
在独国大島大使宛(電報)

仮調印後ただちに正式發注および手付金の支  
払いを希望する旨独国側へ伝達方訓令

第四二一號(極祕)

本省 7月15日後4時発

往電第三九四號ニ關シ

一、往電第三八二號對獨新規注文ノ支拂ハ往電第三五一號ノ通りノ事情ニテ是非共特別貿易ノ方法ニ依リ支拂フ必要アル爲兵器ノ類ニ至ル迄目下注文發出又ハ手附支拂ヲ差止メ居リ少クトモ假調印後ハ直チニ正式注文ヲ發出シ又ハ手附ヲ支拂ヒ度キ希望ナル處假調印後直チニ協定ノ全般ヲ實施スルコトハ貴電第五〇一號御申越ノ次第モアリ我方トシテモ貿易組合設立其他ノ關係モアリ實際上困難ナルヘキニ付

二、(イ)正金ガ滿獨關係ノ手持「インランド・マルク」約五百萬馬克ヲ有シ居ルヲ以テ右五百萬馬克ヲ不取敢右緊急支拂分ニ充當シ

(ロ)尙不足スル場合ニハ不足額ヲ臨時正金ヲシテ適宜獨乙側銀行ヨリ融資ヲ受ケシメ此ノ馬克貨ヲ以テ緊急分ヲ支拂フコトトシ

(ハ)協定實施開始ノ上ハ直チニ右(イ)及(ロ)ノ支拂分ヲ適宜特別勘定第3號及第4號ニ移スコトトスルコトト致度キ處往電第三八二號第三八三號ニ關シ獨側ガ相當程度受諾シ協定成立ノ見込確立セル上ハ直チニ右我方希望ヲ獨側ニ持出シ一日モ早く發注及手附支拂ヲ爲サシムル

様盡力アリ度(尤モ其後協定不成立トナリタル場合ニハ爲替ヲ拂フコトヲ條件トスルモ致方ナカルヘキモノ點ハ目下關係省ト協議中)

~~~~~

444

昭和14年7月23日

在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

貿易協定の案文等につき独国側と合意について

ベルリン 7月23日前發

本省 7月23日後着

第七〇〇號(至急、極秘)

往電第六七四號ニ關シ

二十二日宇佐美「オルタート」ト會見(同席者例ノ通り)討議ノ結果左ノ通り

一、案文全部ニ付逐條審議ノ上別電第七〇一號、第七〇二號、第七〇三號、第七〇四號ノ通り決定セリ(右別電中「承諾」トアルハ既ニ送付済ノ當館作成案文ニ貴電第三八六號、第三八七號、第三八八號、第三九〇號、第三九七號、往電第六二五號、貴電第四〇一號、往電第六四〇號ノ一及三、貴電第四一二號乃至第四一六號ノ修正ヲナセ

ルモノヲ獨側ニテ其ノ儘承諾セルコトヲ意味ス)

二、獨側ハ往電第六八九號ノ一、申進ノ支拂便法實施ノ爲ニハ正金ニ對シ爲替管理法上特別ノ許可發給ヲ必要トスルニ付同電ニ、申進ノ八月十五日以降本協定ニ依ル輸入許可發給ノ件ト併セテ書面ニテ決定シ置クコトトシタキ旨申出テアリタルヲ以テ一應之ヲ承諾シ置キタリ

三、尙二十四日再度會合シ假調印ノ際ニ於ケル「プロトコール」(獨側ハ從來ノ慣例トシテ依然「プロトコール」ノ形式ヲ主張ス)及「プレスコミユニケ」ノ案文等ニ付協議スルコトトナレリ

編 注 本電報の別電はすべて省略。

445

昭和14年7月23日 在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

わが方の主要要求を盛り込んだ案文および品
目について合意成立に鑑み交渉妥結方請訓

ベルリン 7月23日後発
本省 7月24日前着

第七〇八號(至急、極秘)

往電第七〇〇號及第七〇七號ニ關シ

苦心折衝ノ結果案文及品目ニ付漸ク冒頭往電等申進ノ如ク決定ヲ見ルニ至リタル次第ノ處

一、案文ニ付テハ短期融資ノ保障ノ問題ヲ除キテハ殆ト全部我方ノ要求承諾セラレ居レリ尙短期融資ニ付テモ其ノ限度ヲ一千五百萬馬克ニ引上方承諾セシメタル外右ヲ超エタル額ノ融通ニ付テモ銀行團ヨリ或種ノ約束ヲ取付ケ居ルヲ以テ事實問題トシテハ何等不都合ナキモノト思考シ居レリ

二、特別貿易ノ我方買付品目ニ關スル折衝ハ最モ苦心セル所ニテ殊ニ先方ハ依然大規模ノ部分設備ノ供給ヲ期待シ居リタルニ反シ我方ノ要求ハ比較的小規模ノ機械類ノ羅列ニテ特ニ廣義ノ工作機械多キコト設計料、圖面代、特許料等ヲ多ク含ム點等ニ難色アリタルモ右表ヲ承諾セサレハ本協定成立ハ不可能ナルヘキ旨ヲ繰返シ力説ノ結果漸ク之ヲ承諾セシメタルモノナリ

三、工作機械二千萬圓特別貿易ニ繰入ノ件ハ當初ハ我方提出特別貿易買付品目表中ニハ先方ノ應諾セサルモノ相當ア

リト思考シ且御訓令越シノ既註文品ヲ特別貿易ニ繰入ル
ルコトノ困難ヲ思ヒ之カ補充ノ意味ニテ持出シタルモノ
ニテ之亦從來交渉ノ經過ニテ御承知ノ通り獨側ニテ容易
ニ承諾セサリシヲ「フオス」等ノ努力ニ依リ漸ク承諾セ
シメタルモノニテ右ニ依リ假令既註文品繰入ハ全部拒絶
セラレタリトスルモ物動トノ關係調整ノ問題ハ解決セラ
レタルモノト思考シ居レリ

尙右既註文品ノ特別貿易繰入ハ頗ル無理多キ註文ナル外
海軍側ニテハ却テ我ニ不利ナリトノ見地ヨリ反對シ居ル
コト既電ノ通りナリ

四⁽²⁾

一千萬圓求償部分ノ品目割振及輸出品ノ振分ニ付テハ生
絲ヲ除キ殆ト全部我方ノ要求容レラレ居リ又生絲ニ付テ
モ平常貿易ニ於テ協定實施當初ニ多量ニ買付方獨側ノ同
意ヲ取付ケタルコト既電ノ通りナリ

又假調印後協定實施以前ニ於テ特別貿易品目ヲ馬克ニテ
假支拂ヲ爲スコト及協定實施ト同時ニ特別勘定ヲ「フ
ル」ニ利用シ得ル様八月十五日ヨリ協定ニ基ク許可ヲ發
給スル問題等ニ付テモ獨側ヲ承諾セシムルヲ得タルヲ以
テ之亦大體貴方ノ御希望ニ副ヒ得タルモノト思考ス

以上ノ如ク本協定ヲ概括のニ考慮スル時大體我方ノ主要ナ
ル要求ハ全部容認セシメタルモノト思考セラルルニ付テハ
此ノ邊ニテ是非妥結方ニ付關係省說得方格別ノ御配慮ヲ仰
度ク獨側ニテハ前記^三ノ準備ノ都合モアリ遅クモ二十七日
迄ニハ假調印致度ク切望シ居レルニ付テハ右二間ニ合フ様
何分ノ儀御回示相成度シ尙「オルタート」、「フオス」、「ス
ピンドラー」等總テ本月末ヨリハ出張或ハ休暇ニテ不在ト
ナルヘキニ付此ノ機ヲ失スル時ハ再び秋迄協定成立不可能
トナルヘキニ付此ノ點篤ト御含置ヲ請フ

~~~~~

446

昭和14年7月25日

在独国大島大使より  
有田外務大臣宛(電報)

仮調印後は速やかに正式調印すべき旨具申

ベルリン 7月25日前発

本省 7月25日後着

第七二〇號(極秘)

貴電第四二八號ニ關シ

獨側ニテハ「イニシアル」後ハ何日ニテモ調印シ得ル趣ニ  
テ成ルヘク速ニ正式調印方希望シ居ル處我方トシテモ成立

ノ見込付キタル協定ヲ長ク不安定ノ状態ニ置クコトハ往電第六八九號「部實施ノ事實ニ鑑ミルモ面白カラスト認メラル殊ニ來ル九月二日ヨリノ黨大會ニ於ケル總統演說中ニハ主要國トノ外交關係ニ付言及スル慣例トナリ居ル處右以前ニ正式調印スルヲ得ハ諸般ノ關係ヨリ頗ル好都合ト思考ス尙調印本書ノ送付方ニ付テハ往電第六七八號申進ノ通り飛行機八月二十三、四日頃東京發「オットー」大使ヲ伴ヒ黨大會ニ間ニ合フ様歸獨スル豫定ナル趣ニ付右ヲ利用セラルルコトモ一法ナルヘク又若シ豫メ假譯文ヲ當方ニ御送付アラハ獨逸外務省ニテ調印ノ本書ヲ印刷スヘシト稱シ居レリ就テハ本件今一應御考慮ノ上御見込何分ノ儀至急御回示煩度シ

~~~~~

447 昭和14年7月26日

有田外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

早期の正式調印は不可能なるも速やかに仮調
印すべき旨訓令

第四五九號(極祕)

本省 7月26日後8時発

貴電第七二〇號ニ關シ

「九月「ナチ」黨大會前ニ署名方ニ付テハ往電第四二八號「ノ通我方トシテ到底不可能ナリ獨側ニ於テ飽迄右ヲ希望スルニ於テハ貿易協定ノミ批准條項附ニテ署名スルコトトスルノ外ナク其ノ場合若干形式上ノ修正ヲ必要トスヘキモ何レニセヨ二十八日ノ「イニシアル」ヲ延期スルハ面白カラサルニ付此ノ問題ヲ後廻シトシ兎ニ角同日「イニシアル」ヲ了スルコトトセラレタシ

「我方手續進捗上此ノ際最モ必要ナルハ「イニシアル」ヲセル案文及獨逸語正文ヲ一日モ早く入手スルコトニシテ(電報ニテハ正確ヲ期シ難シ)若シ八月十五日東京着ノ獨飛行機ニ右兩案文ヲ托送シ得ルニ於テハ當方ニテハ之ニ基キ日本文ヲ決定シ(獨案文トノ隔離ヲ避クル爲英文ノミナラス獨文ヲ參照シテ日本文「テクスト」ヲ決定スルノ要アリ)急遽印刷ノ上日本文本書ヲ「オットー」大使ニ托送シテ貴地ニ送付スルコトヲ得ル見込ナリ

~~~~~

448

昭和14年7月28日

在独国大島大使より  
有田外務大臣宛(電報)

日独貿易協定の仮調印完了報告

付記一 昭和十四年七月二十九日

右仮調印に関する外務省発表

二 昭和十四年七月二十九日

右仮調印に関する情報部長談話

ベルリン 7月28日後発

本省 7月29日前着

第七五六號(大至急)

貴電第四六四號ニ關シ(日獨貿易協定締結交渉ニ關スル件)  
本二十八日午後六時本使ト「ワイツゼツカー」外務次官及  
「ウオルタート」トノ間ニ貴電第四五六號記載ノ各文書ニ  
夫々「イニシヤル」スルト共ニ往電第七一五號申進ノ假調  
印「プロトコール」及通告文書ニ署名ヲ了セリ銀行間契約  
ノ假調印ハ更ニ御訓令アル迄延期スルコトセリ

(付記一)

日獨貿易協定假調印ニ關スル外務省発表

(七月二十九日)

本日日獨間ニ貿易及支拂ニ關スル廣範ナル協定假調印セラ

レタル處本協定ハ從來ノ平常的貿易ヲ維持スルト共ニ更ニ  
兩國間貿易ノ顯著ナル伸張ヲ豫定スルモノナリ本協定ハ國  
内手續完了次第成ルヘク速カニ實施ノ筈ニシテ其ノ間ノ實  
施ノ準備ヲ進ムルコトナルヘシ新協定ハ兩國間ニ現存ス  
ル友好關係ニ鑑ミ相互經濟關係ヲ更ニ強化スヘキヲ以テ本  
協定ノ締結ハ日獨兩國ニ於テ大イニ歡迎セラルル所ナリ。

編注 本付記一および付記二は、昭和十四年十二月、外務省

作成「外務省公表集」第十八輯より抜粋。

(付記二)

日獨貿易協定假調印ニ關スル情報部長談

(七月二十九日)

日獨貿易協定交渉カ伯林ニ於テ帝國大使館ト獨逸政府當局  
トノ間ニ開始セラレタノハ一昨年秋頃テアル其ノ主眼トス  
ル所ハ日獨防共關係強化ノ裏打チトシテ經濟關係ヲ緊密化  
スルト言フコトノ外ニ本邦ニトリ不利ナル貿易尻ヲ出來得  
ル丈ケ改善スルト同時ニ我國ニトツテ必要ナル物資ノ供給  
ヲ確保スルト云フコトテアル日獨間貿易ハ何分ニモ其ノ額

カ相當大ナルノミナラス其ノ品目ハ輸出共ニ數百種ニ及  
ンテ居ル爲ニ具體的交渉ニ於テハ豫見シナカツタ種々ノ技  
術的ノ困難カアリ兩國代表間ノ熱心ナ交渉ニモ拘ハラス折  
衝ニハ意外ニ時日ヲ要シタルカ此程漸ク兩者間ノ意  
見ノ一致ヲ見、協定草案カ出來上ツタノテ、我カ駐獨大島  
大使ト獨逸側交渉委員長タル「ウールタート」氏トノ間ニ  
本二十九日伯林ニ於テ假調印カ行ハレタノテアル。

日獨兩國政府ハ右假調印ヲ了シタ草案ニ基イテ各々必要ナ  
ル國內手續ヲ執リ、ソレカ完了次第兩國代表者間ニ正式調  
印ヲ爲ス運ヒトナル次第ナル、正式調印ノ時期ハ未タ確  
言出來ナイカ政府トシテハ成ルヘク早く各般ノ準備ヲ進メ  
度イト思ツテ居ル。

協定ノ内容ハ正式調印カ行ハレル迄ハ發表出來ナイカ此ノ  
協定ノ結果單ニ日獨兩國間ノ貿易額カ増大スルト云フノミ  
テナク兩國間ノ經濟關係ハ更ニ一段ト其ノ相互依存性ヲ増  
加シ我國トシテハ戰時平時ヲ通シテ必要ナル資材ヲ獨逸カ  
ラ一層多量ニ供給ヲ仰キ我國ノ生産力擴充ニ拍車ヲ掛ケ國  
力ノ充實ニ寄與スルコトヲ得ルト同時ニ我國カラハ獨逸ニ  
對シ水産物、農産物其他ノ重要ナ物資ヲ豊富ニ供給シ盟邦

ノ經濟計畫ニ有力ナル援助ヲ與フルニ至ル次第ナル。

本協定ハ防共盟邦トノ經濟關係ヲ緊密ニスルコトニ於テ重  
要ナル意義ヲ有スルノミナラス多岐多樣ニ亘ル兩國間ノ輸  
出入關係ヲ包括シテ一定ノ計畫性ヲ與ヘタルモノテ言ハハ  
計畫經濟的ナ貿易協定テアルコトニ於テ正ニ我國トシテハ  
對外貿易協定ノ一起源ヲ劃スルモノテアル。

昨年成立シタ日滿伊貿易協定ト云ヒ今回ノ日獨貿易協定ト  
云ヒ何レモ盟邦相互間ノ經濟依存關係ヲ高調スルモノテ防  
共樞軸カ經濟的部面ニ於テモ漸次強化セラレテ行クコトハ  
寔ニ慶賀ニ堪エヌ所テアル。



449 昭和14年7月31日 在独国大島大使より  
有田外務大臣宛(電報)

### ドイツ帝国銀行との特別勘定設定に関する取 極め等への仮調印について

ベルリン 7月31日後発  
本 省 8月1日前着

第七六八號(極秘)

貴電第四七三號ニ關シ

三十一日午後北村ニ於テ(一)「ライヒスバンク」トノ間ノ特別勘定設定ニ關スル取極及(二)銀行團トノ間ノ「クレヂット」取極ニ假調印スルト共ニ(三)八月十五日以後ノ特別貿易品目ノ假拂及基本協定不成立ノ場合ニ於ケル八月十五日以降發効ノ條約規定ニ依ル輸入許可ニ基ク支拂ノ精算方法ニ關スル文書竝ニ(四)十月一日以後ニ於ケル外貨拂手形ノ精算ニ關スル文書ニ署名セル趣ナリ

~~~~~

450

昭和14年7月31日 在米国堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

日独貿易協定仮調印に関する米国紙論調報告

ワシントン 7月31日後發
本 省 8月1日後着

第七三九號

主要紙ハ日獨通商協定ノ成立ヲ報シ且右ハ日本カ米國ノ通商條約廢棄通告ニ依リテ受ケタル痛手ヲ國民ニ對シ輕ク見セ付ケンカ爲逸早ク調印シタルモノナリト報シ居ル處二十九日「モニター」華府通信ハ本件ニ關シ要旨左ノ如ク報道セリ

日獨通商協定成立ノ結果兩國間ノ「パートナー」貿易ハ増加ヲ豫想セラルル由ナルカ東京ヨリハ日本ハ通商條約失効ニ至ル六箇月間ヲ利用シテ米國ヨリ出來ル丈ケ多量ノ軍需品ヲ購入センコトヲ企テ居ルヤノ情報アリ又商務省發表ノ北支報告ハ日本ノ支那占領地域ヨリノ資源獲得量カ益々増加シ殊ニ今年上期四箇月ニ於ケル羊毛、石炭、小麥、大豆、豌豆、皮革、木材、油粕等ノ產出量ハ昨年同期ニ比ヘ著増ノ跡ヲ示シタリトコトナルニ付此ノ際米國ノ對極東政策ノ硬化ハ重大ナル意義ヲ有スルモノト言フヘク假令日本ノ獨逸ヨリノ軍需品買付増加モ武器ニ限ラレ到底對獨貿易ハ對米貿易ニ代リ得ストスルモ將又茲六箇月間ニ於ケル日本ノ米ヨリノ軍需品買溜モ財源ノ點ヨリ制限ヲ受クヘク前記北支ニ於ケル資源獲得量モ米國ノ對日禁輸ノ脅威ヲ除クニハ足ラサルニモセヨ商務長官ノ爲シタル政治上竝ニ通商上ノ障害除去セラレサレハ現下世界通商ノ落調傾向ハ益々米國竝ニ其ノ他諸國ノ國內經濟回復ヲ妨クルコトナルヘシトノ警告モアリ旁米國力對日禁輸ヲ行フ時ハ日本ハ支那ヨリ米國ノ通商權益ヲ全ク驅逐シ或ハ米國ノ棉花業其ノ他輸出產業ノ利益ヲ害スルノ方法ニ依リ報復ヲ企ツヘキ處國務

長官ハ右ノ外對日禁輸ニ依リテ其ノ互惠通商政策ニ重大ナル障害ノ加ヘラルルヲ極端ニ躊躇シ居ル次第モアリ長官カ對日禁輸ヲ行フハ支那ニ於ケル事態ニ依リ或ハ大統領及議會ノ壓迫ニ依リ已ムヲ得サル場合ノミナルヘク而モ厭々々々之ヲ行フニ至ルヘキコトハ斷言シテ差支ナカルヘシ云々

451

昭和14年8月(1)日

在ジュネーブ柳井(恒夫) 国際會議事務局長代理兼総領事より
有田外務大臣宛(電報)

日独貿易協定仮調印に関するスイス紙論調報告

ジュネーブ 發

本 省 8月1日後着

特情壽府第二五號

卅日ノ「ラ、スイス」紙ハ日獨通商協定成立ノ東京電報ヲ大キク報スルト共ニ米國ノ日米通商條約廢棄通告ニ言及シ右米國政府ノ措置ニ付餘リ之ヲ重大視スルノハ誤ナリト斷シタ後日本ノ各種重工業ノ發展及棉花、石油等ニ關スル原料政策ニ付數字ヲ擧ケテ日本工業ノ躍進ヲ説キ對日經濟制裁ノ不可能ナル所以ヲ強調シテ居ル要旨左ノ通り
米國政府カ今回日米通商條約ヲ廢棄スルノ措置ニ出テタコ

トニ付餘リ之ヲ重大視スルコトハ誤テアル世人ハ最近數年間ニ於ケル日本工業ノ躍進振ニ付全然認識ヲ缺イテ居ル日本カ海外ヨリ輸入スルモノノ内最も重要ナルモノノ一ハ工作機械テアルカ米國カ萬一對日輸出ヲ行ハナイコトトナレハ喜フノハ獨逸デアラウ日本ハ今迄米國ニ送ツタ金ト外貨ヲ獨逸ニ送ル丈ケノコトテアル又滿洲國成立以來米國ノ對滿輸出カ一九三二年ノ二千萬圓カラ一九三七年ニハ五千七百萬圓ニ激増シタ事實ヲ忘レテハナラヌ通商上ノ門戶開放主義ハ日本ト共同シテノミ維持スルコトカ出來ルノタ英紙「サンデー、タイムス」モ述ヘタ如ク「日本カ支那ニ於ケル宿命的保護者テアル」コトハ好ムト好マサルトニ拘ラス現實ノ極東ノ事態テアル好嫌ノ感情論ハ東亞ノ事態ヲ判斷スル上ニ何ノ役ニモ立タヌ吾人ハ須ク現實ノ事態ヲ直視スヘキテアル

452

昭和14年9月1日

阿部外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

日独貿易協定と独ソ不可侵条約との關係につき独国側の説明を要求方訓令

第五五三號(館長符號扱)

貴電第八四五號二關シ

本省 9月1日後9時発

我方ニ於テハ大体日獨貿易協定ハ純經濟的ノ國際約束ナルヲ以テ歐州情勢ノ變化及今後ノ我對歐政策ノ如何ニ拘ハラス正式調印ヲ爲シ差支ナカルベシトノ意嚮ニテ目下關係各廳トモ連絡シ慎重考慮中ナル處同協定調印方御裁可奏請ノ場合ニハ樞密院ニ於テ同協定ト獨蘇不侵略條約トノ關係ハ當然問題トナルヘキヲ以テ貴大使ハ直接獨逸側責任者ニ對シ(イ)右不侵略條約ノ條項ヲ嚴格ニ解スルトキハ日獨貿易協定ノ實施ト兩立セサルカ如キ事態發生ノ虞アリヤニ認メラルル處獨逸側ハ對蘇不侵略條約ノ締結ニモ拘ハラス貿易協定ヲ誠實ニ實行スル確タル意思ヲ有スルヤ及(ロ)不侵略條約(殊ニ第二條及第三條)ノ規定ト貿易協定ノ實施トノ關係ヲ如何ニ考ヘ居ルヤ等ニ付其ノ責任アル言明ヲ求メラレ結果至急電報アリ度

453

昭和14年9月4日

在独国大島大使より
阿部外務大臣宛(電報)

日獨貿易協定の正式調印見合わせ方具申

ベルリン 9月4日後発

本省 9月5日後着

第九三六號(極秘、館長符號扱)

貴電第五五三號二關シ(日獨貿易交渉二關スル件)

獨波戰爭ノ開始及英佛ノ參戰ニ依リ歐洲ニ於テハ茲暫ク大規模ノ戰爭狀態繼續セラルヘシト認メラルル處其ノ結果日獨貿易關係モ必然的ニ大影響ヲ蒙ルヘク貿易協定ノ如キモ假令之カ正式調印ヲ爲ストモ獨逸ノ生産力及輸送ノ關係ヨリ見テ之カ完全ナル實施ハ恐ラク不可能ナルニアラスヤト存シ居レリ又假ニ右戰爭狀態ニモ拘ラス日獨間ニ貿易行ハレ得ルカ如キ場合アリトセハ其ノ際ハ兩國貿易關係ハ新事態ニ即スヘキ從來トハ異レル新ナル基礎ノ下ニ考慮セラルヘキモノト思考ス

就テハ此ノ際貿易協定ニ付テハ折角國內手續御進捗中トハ存セラルルモ差當リ暫ク之カ調印ヲ見合セ事態ノ推移ヲ見タル上考慮スルコトトシテハ如何カト存ス

右御考慮ノ上何分ノ儀御電示請フ

454

昭和14年9月5日

阿部外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

日独貿易協定の正式調印延期を独国側へ申入
れ方訓令

本省 9月5日後5時発

第五五八號(館長符號扱、極祕)

往電第五五三號ニ關シ

貿易協定ハ獨乙側ノ事情、海上ノ危険、金融ノ困難等ニ鑑
ミ十月一日以前ニ正式調印ヲ了シ實施ニ入ルコトハ事實上
不可能ト認メラルルノミナラズカル實施ノ見透シツカサ
ルモノニ付キ御裁可ヲ奏請スルコトヲ得サルニ依リ我方ト
シテハ此際(實施可能ノ見透シツク迄)當分正式調印ヲ延期
シ度キ希望ナルニ付右ノ旨獨乙側ニ申入レ結果回電アリ度
尙ソノ際我方ハ貿易協定ソノモノヲ中止又ハ廢止セントス
ルモノニハ非ズ唯目下ノ情勢ニテハ實施不可能ナルヲ以テ
正式調印ヲ延期セントスルモノナル旨充分獨乙側ニ説明置
相成度

455

昭和14年9月9日

阿部外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

日独貿易協定を予定通り正式調印することが
不可能な理由につき在本邦独国大使館員へ説
明について

付記 昭和十四年九月七日

正式調印延期に関する口上書

本省 9月9日後5時発

第五五六號(極祕、館長符號扱)

往電第五五八號ニ關シ

(編注)

ハ、昨七日別電第五六七號ノ通ノ口上書ヲ在京獨乙大使館ニ
手交シ置キタル處八日「テシ」商務官松島局長來訪
「オット」大使ハ開戦後僅々一週間ノ今日斯カル申出ニ
接スルハ獨乙政府ニ無用ノ誤解ヲ抱カシムル惧アリ又第
三國ニ對スル關係上ヨリモ面白カラサルニ付本國政府ニ
取繼ギ方躊躇シ居リ實施期日ヲ確定セスシテ正式調印ヲ
行フ等便法ナキヤ

ト申出タルヲ以テ局長ヨリ

(イ)十月一日前ニ正式調印スル爲ニハ今直チニ御裁可ヲ奏

(付記)

編注 別電は見当らない。本文書付記を参照。

- 請スル必要アル處今日ノ現實ノ事態ガ到底十月一日ヨリノ實施可能ノ見透シヲ許サザルコト明白ニシテ
- (ロ)斯カル實施ノ見透シツカサル協定ニツキ御裁可ヲ奏請スルコトハ日本ノ憲法上許サレス
- (ハ)ソノ故ニコソ正式調印ノ延期ヲ希望スルモノニテ他ノ政治の考慮ハ全然入り居ラズ本點ヲ明ラカニシ誤解ヲ防クコト必要ナレバコソ特ニ態々在京獨乙大使館ニモ口上書ヲ出シ又口上書中ニ態々實施可能トナリ次第調印手續ヲトルヘキ旨ヲ「ガランティー」セル次第ナリ
- (ニ)尙我方トシテハ在京獨大使ヨリ右ノ申出アリタル事實ハ在獨大使ニ電報シ獨乙政府ニ傳達セシメ特ニ誤解ヲ生セシメサル様致スヘシト説明シ置キタリ
- ニ、後刻「オット」大使ハ通商局長ニ電話ヲ以テ右説明ニテ満足シタルニ付早速伯林ニ電報スベキ旨申越タル趣ナリ
- 三、就テハ右「ノ(ロ)點特ニ獨側ニ明ニシ置カレ度爲念

覺書

帝國外務省ハ獨逸大使館ニ對シ左ノ通り本國政府ニ轉達セラレムコトヲ申入ルルノ光榮ヲ有ス

本年七月廿八日伯林ニ於テ假調印ヲ了シタル日獨貿易協定ハ同日附ノ書翰交換ニ基キ十月一日以前ニ於テ正式調印ヲ行ヒ十月一日ヨリ實施ニ入ル豫定ナリシニ付帝國政府ハ協定實施ノ意圖ヲ以テ着々ソノ準備ヲ進メ現ニ八月十五日以降ニ於テハ協定實施ノ爲ノ準備行爲トシテ一部ノ輸入許可ヲ發給シ來レリ

然ルニ其後歐羅巴ニ於テ戰爭勃發セル結果歐羅巴ニ於ケル現實ノ事態ハ遺憾乍ラ帝國政府ノ右ノ如キ意圖ニ拘ラス豫定ノ如ク十月一日ヨリ協定ノ實施ヲ開始スルコトヲ不可能トナラシムルニ到リタルモノト認ムルノ已ムヲ得サルニ到レリ

右ノ結果トシテ帝國政府ハ日獨貿易協定正式調印ヲ客觀の事態ノ展開カ協定ノ實施ヲ可能トスルニ到レリトノ見透シヲ着クルヲ得ルニ到ル迄延期スルコトヲ希望スルノ不得已ニ到レリ

但帝國政府ノ右ノ希望ハ歐羅巴ノ現實ノ事態カ協定實施ヲ

可能トスルモノニ非ストノ認識ニ基キ生シタルモノニシテ
其ノ他ノ如何ナル考慮ニモ基クモノニ非ス現實ノ事態カ協
定ノ圓滑ナル實施ヲ可能ナラシムルニ到ラバ帝國政府ハ直
チニ正式調印ノ手續ヲ採ル用意アルモノナリ

(欄外記入)

九月七日午後三時十五分獨乙大使館「テシー」書記官ニ説明ノ
上手交スミ

~~~~~

456

昭和14年9月9日 在独国大島大使より  
阿部外務大臣宛(電報)

### 正式調印の延期を独国側へ申入れについて

ベルリン 9月9日後発

本省 9月9日夜着

第九五三號(極秘、館長符號扱)

貴電第五五八號ニ關シ(日獨貿易協定交渉ニ關スル件)

八日宇佐美「ウオルタート」ヲ往訪シ御訓令ノ趣旨ヲ篤ト  
申入レタル處「ウ」ハ之ヲ諒承シタル上正式調印延期ノコ  
トニ關シテハ七月二十八日附「プロトコール」トノ關係モ

アリ一應右趣旨ヲ書面ニ認メ置クコトト致度ク又右ト關聯  
シ八月十五日ヨリ實行シ居ル一部假實施ノ問題ヲ如何ニ處  
置スルヤノ點ヲモ研究ヲ要スルニ付之等ノ點ニ付テハ更ニ  
考究ノ上追テ回答スヘシト述ヘタル趣ナリ

~~~~~

457

昭和14年9月9日 在独国大島大使より
阿部外務大臣宛(電報)

日本に対する工作機械等の輸送路確保の問題 に関するヴォールタート見解について

ベルリン 9月9日前発

本省 9月9日後着

第九五五號(館長符號扱)

往電第九五三號ニ關シ

右會談ニ於テ「ウオルタート」ハ宇佐美ノ問ニ對シ獨逸側
ニ於テハ日本ニ對スル工作機械其ノ他設備類ノ供給ニ付テ
ハ英國其ノ他交戰國向ノ契約履行不必要トナリタル等ノ事
情モアリ餘リ憂慮シ居ラサルモ問題ハ結局輸送ノ點ニシテ
之ハ英國ノ封鎖ノ程度ニモ依ルヘキモ最モ困難ナル問題ト
思考ス尤モ自分トシテハ伊太利カ中立ヲ維持シ居ル限り伊

太利經由ノ輸入路ハ日本トノ交易路トシテ最モ經濟的ナルモノナルヘク又品物ニ依リテハ多分西比利亞經由ノ途アルヘシ(遠カラス波蘭經由ノ途モ開カルヘシ)米國及「スカンデナビヤ」經由ノ經路モ使用シ得ヘキモ途中ノ積替多ク輸送費嵩ムコトカ缺點ナルヘシト語リタル趣ナリ

~~~~~

458

昭和14年9月15日 阿部外務大臣より  
在独国大島大使宛(電報)

# 正式調印延期に関するわが方申入れに同意する旨独国側回答について

本省 9月15日後10時0分發

第五八二號(極秘)

貴電第九九一號ニ關シ

「本日在京獨乙大使館ヨリ(イ)獨乙政府モ往電第五六七號當方口上書ノ通告ニ同意ナル旨(ロ)七月廿八日附「プロトコール」ノ假實施ニ關スル申合セハ直チニ停止スル旨(ハ)既ニ許可濟ノ支拂ハ右「プロトコール」三ノ正金「ライヒスバンク」間書翰交換ニ依リ處理スルコト竝ニ(ニ)今後トモ兩國間貿易ノ可能性研究ノ上出來ル丈貿易ヲ行ヒ度日

本政府ノ協力ヲ望ム旨口上書ヲ以テ申入アリタリ

(二) 右(ハ)ノ點ニ付キ獨側口上書ノ所謂「既ニ許可濟ノ支拂」(die bisher genehmigten Zahlungen)ガ若シ許可發給行ハレタルノミニテ右許可ニ基ク信用狀取組若クハ輸出手形買取行ハレ居ラザルモノヲモ含ムヤ否ヤ明ナラサル處我方ハ(イ)既ニ發給セル協定ニ依リ我方輸入許可(約六百萬圓内譯平常約二百萬特別(已號表分ノミ)約四百萬圓)ニ基キ既ニ在本邦正金ニ於テ信用狀ヲ發給セルモノ(僅カハ〇〇馬克)及在本邦正金各店ニテ獨側許可(金額不明至急問合セノ上回電アリ度)ニ基ク輸出手形ヲ買取リタルモノ(約二萬磅)ニ付テハ金額モ小且既ニ實際上取引進行中ノモノナレバ之ヲ正金「ライヒスバンク」間交換公文ニ依リ處理スルコトニ異議ナキモ(ロ)前記ノ如キ許可發給セラレタルノミニテ信用狀取組若クハ輸出手形買取ヲ了セサルモノノ處理ハ

(イ)右許可ヲ全部撤回スルカ

(ロ)許可ソノモノハ撤回セスシテ之等許可ニ基ク取引ノ決濟ヲ爲替ヲ以テ行フコトニ新ニ申合セヲ爲スコト

ノ何レカニ依リ度ク后者ノ場合ニハ許可ノ期日ノ關係及

輸送ノ事實上ノ困難ノ爲處理永引クヘキヲ以テ成ル可ク  
(イ)ニ依リ度希望ナリ(本點獨側ト御交渉ノ上回電アリ度)  
三、尙我方ハ歐洲向送金許可ハ一般ニ停止シ居ルモ往電第五  
六八號ノ如キモノハ例外トシテ殘金ノ外貨送金ヲ行フ意  
嚮ナリ又今后ノ對獨輸出ニ關シテハ假ニ何等カノ便法ニ  
依リ實行シ得ル場合ニモ之ガ決済ハ清算等ニ依リ行フコ  
ト不可能ナルヘク結局全額外貨送金ニ依ル以外ナカルヘ  
シト思考ス

三、本邦側ニテ既ニ手附金等支拂濟ニシテ引渡シノ見込付カ  
サルモノ一千七、八百萬圓ニ上ル見込ニテ之ヲ如何ニ活  
用スルヤノ問題ハ目下考慮中追テ電報ス

~~~~~

459 昭和16年2月11日 在独国来栖大使より
松岡外務大臣宛(電報)

日独貿易協定締結に関する協議のためヴオー ルタート来日の予定について

ベルリン 2月11日前発
本省 2月11日夜着

第二〇七號(極秘)

往電第二六號ニ關シ

十日「ウオルタート」本使ヲ來訪ノ際獨側「クーリエ」携
行ノ書類ヲ基礎トシ本日ヨリ關係省間ノ協議ヲ始ムルコト
トナリタルカ技術協力ノ内容ノ大部分ハ「ゲーリング」ノ
關係ニテ昨年十月日本側ヨリ協定締結方申出アリタル際獨
側トシテハ大體此ノコトヲ豫想シ「ゲ」ノ直系タル自分ヲ
委員長トシテ渡日セシムルコトトシタル次第二テ之等ハ自
然他國委員ノ出席スヘキ三國條約ノ混合委員會ニ持出スヘ
キニアラスシテ日獨間ニ於テ話合フヘキモノナリト思考ス
尙日獨經濟提携上重要ナルハ日本側御申出ノ通り輸送ノ問
題ナルニ付自分ハ渡日ノ途次莫斯科ニ於テ蘇側トモ充分話
合フ積リニテ右ニ關シテハ鐵道専門家等日本側ノ協力ヲモ
得タク西比利亞輸送ハ大體現在ヨリ倍加シ得ヘキ見込ナリ
ト述ヘタリ

~~~~~

蘇ヘ轉電セリ

460 昭和16年3月21日 在独国大島大使より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

### 貿易協定交渉に関する独国側の意向について

ベルリン 3月21日後発  
本 省 3月22日後着

第二九五號

(1) 二十日「ラルトート」ヲ招キ松島ヲ含ム當館擔任者三名ト會食ノ際獨側ノ對日通商交渉順序進捗振リヲ質シタル處「ヲ」ハ當初ハ原則的協定ノミヲ行フ意向ナリシモ其ノ後審議ノ結果ニ昨年纏メ上ケタル協定草案ニ品目上ノ修正ヲ施セハ可ナルヘク一切ハ歸郷後ノ狀況ニ依ルコト乍ラ成立ニ左程長日子ヲ要スルトモ思ハレサルニ付出來得ル限り細目ヲモ了シタキ所存ナリト言ヘルニ付右ニ御承知置キ相成度ク尙「ヲ」ノ話中注意スヘキ諸點左ノ通りナリ

一、日滿支ハ各地域ニ依リ價格ノ相違アルニ付今後ノ經濟變動ニ處スル爲ニモ之ヲ通シテ一單位トスルコトナク各ヲ一單位トシテ別個ノ協定ヲ作ルヲ適當トス

二、北支ヲ除キ日滿對獨ノ貿易額ヲ一對トスルニ異存ナシ

三、北支ハ其ノ特種地位ニモ鑑ミ政府間ノ協定トスルコトナク例ヘハ正金支店長若クハ聯銀總裁ト獨實業代表者間ニ求償協定ヲ作ルコト適當ト認ム尤モ現地ニテ更ニ適當ナル形式ヲ考慮シタキ考ナリ

四、(2) 日滿ヲ夫々單位トスル結果滿洲國ニ與ヘタル「クレジツト」ヲ日本ニ融通スルコト不可能トナルカ如キハ面白カラサルニ付之ヲ一定ノ條件ノ下ニ融通シ得ル様考ヘタシ

五、支那ニ於ケル日本ノ勢力範圍内ニアル獨商人モ今後商賣ヲナシ得ル如キ仕組ヲ希望ス

六、右勢力範圍ニ於テ(滿ヲ含ム)日獨企業(「パブリック、ユ一テイリテイ」ヲ含ム)協力ニ關スル協定ヲ作り獨カ此ノ點ニ關シ他國ニ優先シ得ルコトヲ希望ス

七、日獨間ニ弗使用不可能トナリタル場合ニ於ケル使用通貨ノ件モ考慮シ居レリ

八、今次協定ニ於ケル支拂方法ハ清算ニ依ラス銀行ノ特別勸定ヲ利用スルコト一昨年纏メタル方法ト同一ニ依リタシ

九、協定額カ幾何ノ重量ニ達スルカ詳カニセサレトモ現下西比利亞鐵道ノ年輸送力六〇萬噸(片道)ト見少クトモ此ノ程度ノ輸送力ハ協定期間中蘇側カ保證スル様莫斯科滞在約一週間中ニ蘇聯當局ト話合ヲ了シタキ所存ナリ

蘇ヘ轉電セリ

~~~~~

昭和16年3月25日

近衛臨時外務大臣事務管理より
在独国大島大使宛(電報)

貿易協定交渉に関するわが方意向を独国側へ

説示方訓令

本省 3月25日後9時発

第二五八號

貴電第二九五號ニ關シ

左記諸點御含ミノ上「ウオルター」ヲシテ帝國政府ノ意嚮
特ニ、ノ點篤ト諒解セシメ置カレタシ

貴電、ニ關シ帝國政府ハ既ニ日滿支ヲ一經濟單位ト看做シ
物動其ノ他ノ計畫ヲ進メ居ル際之カ分離スルノ案ハ考慮シ
得ス又獨逸側力從來常套手段トシテ日滿支ヲ各單位ニ分立
セシメ相互ヲ巧ニ操縦スルコトニヨリ利益ヲ收メ來リタル
實例ニ徴スルモ今回ノ獨逸側ノ分離案ハ承諾シ得サルモノ
ニシテ我我トシテハ獨逸側力飽迄我主張ヲ容レサル際ハ國內
事情モアリ交渉決裂モ止ムヲ得スト迄考ヘ居レリ尙先方ノ
理由トシ居ル日滿支ノ價格差ノ問題ハ條約適用ノ爲ノ特別
ノ爲替率ヲ設クルカ又ハ北支主要產品ノ對獨輸出價格ヲ豫
メ決定シ置クコトニカリ避ケ得ヘシ

二、ニ關シ我方ハ日滿支對獨間ニ於テ一ヲ主張ス
三、ニ關シ全然考慮シ得ス

五、ニ關シ獨逸側力、ニ關スル我主張ヲ容認スルニ於テハ考慮
スヘシ

六、ニ關シ獨逸側力、ニ關スル我主張ヲ容認シ且我對支政策ニ
積極的ニ努力スルニ於テハ考慮ノ餘地アルヘシ

四、七、八、九、ニ關シ異議ナシ

~~~~~

昭和16年4月3日

在独国大島大使より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

## 対独注文を統合調節する国内機関の設置方意

## 見具申

ベルリン 4月3日後発

本省 4月4日後着

## 第三六四號(部外祕)

本使出發前各筋ヨリスル對獨註文ノ無統制ナル趣ヲ聞キ居  
タルカ松島公使來着セルニ付同官ヲシテ其ノ現狀ヲ具ニ觀  
察セシメタルニ陸、海、民夫々ノ希望購入品總額ハ少クト  
モ十數億圓ヲ下ラサルカ如ク而モ其ノ品目ニ至リテハ(一)原

料生産用(採鑛等)又ハ半製品製産用(製鐵用「プレス」等)機械又ハ完成品(飛行機戰車等ノ部分品又ハ大砲等)等區々ナル上(二)「パテント」ニ至リテハ陸海各々式ヲ異ニスルモノヲ欲シ(石炭液化裝置ノ如キ)(三)更ニ陸海民ノ三者カ同一品ノ入手ヲ各別ニ競争シ(工作機械ニ於テ特ニ著シク其ノ爲却テ何レモ入手ニ困難ヲ見ツツアリ)(四)加フルニ現下ノ我國ニ急速必要ナリトモ思ハレサル「パテント」ノ入手ニ焦リ(人造護謄ノ如シ)居ルカ如キ狀況ナリ惟フニ是等ノ註文品ニ對シ假ニ獨逸側カ引受ケタリトスルモ果シテ我方ニ此ノ莫大ナル支拂能力アリトモ思ハレス又支拂得トスルモ果シテ輸送ノ途アリヤ而モ三者別ノ註文又ハ照會ニ依リ價格ヲ異常ニ鈎上ケツツアリ

右ハ内地ニ於ケル三者間ニ聯絡調整無キニ依ル可ク要ハ限局セラレタル購入資金ト現下ノ國際情勢ヨリシテ何ヲ緊切必要トスルヤト引渡ヲ受ケ得ル時期ト輸送力トノ四點ヨリ註文品目及其ノ緩急ヲ考査統制シ以テ同一ノ「チャンネル」ヲ通シ發註スルニアラサレハ第一ニハ對獨註文品ヲ基礎トスル全計畫ニ齟齬ヲ生スヘキコト明瞭ナリ第二ニハ當地ニ於ケル經濟委員會カ今後活動スルニ至ルモ其ノ寄與シ

得ヘキ所微少ナラサルヲ得サル可ク第三ニハ日獨新通商協定成立セルモ其ノ本來ノ趣旨ハ忘却セラルヘク依テ此ノ際内地ニ於テ對獨註文ヲ統合調節スルノ機關ヲ設ケラレ一切ノ註文ハ之ヲ通スルノ制度ヲ速ニ確立セラルルコト緊切ト存ス

~~~~~

463

昭和16年4月5日

在独国大島大使より
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

欧州大戦において独国側が獲得した發明等の
わが方への内示融通方希望に対しヒトラ―承
諾について

ベルリン 4月5日後発

本 省 4月6日前着

第三六九號

松岡大臣ヨリ

四日午後求メニ應シ「ヒ」總統ヲ往訪本大臣ヨリ「ムソリニ」「チアノ」法王等トノ會談要旨ヲ披露シタル上時餘ニ亘リ極メテ率直ニシテ隔意ナキ意見交換ヲ行ヒタルカ其ノ際偶々談話ノ序テヲ以テ總統ニ對シ現下ノ日獨關係ニモ鑑ミ

獨逸カ今次戰爭ノ體驗ニ依リ獲得セル結果乃至發明等ヲ一切我方ニ内示融通サレ度ク其ノ爲必要ナル訓令ヲ發出セラレタシト申出テタル處總統ハ早速右様取計フヘシト快諾セリ參考迄

伊、蘇、米へ轉電セリ蘇ヨリ英へ轉電アリタシ

~~~~~

464

昭和16年4月5日  
在独国大島大使より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

### 中国における独国商人の利益擁護問題等につ

### きヴォールタートと応酬について

ベルリン 4月5日後發

本省 4月6日前着

### 第三七二號

貴第二五八號ニ關シ(日滿支對獨貿易協定ニ關スル件)

通商局長へ松島ヨリ

(一)「ウオ」ニハ其ノ後數回會談ノ機會アリ右電ノ趣旨ヲ繰返シ主張シ置キタルカ「ウオ」ハ着京ノ上兎モ角モ實質問題ノ審議ニ入り單位ノ問題ハ其ノ上ノコトニシタシト  
言ヒタリ

(二)更ニ四月三日「ウオ」ヨリ申出アリタルニ付其ノ事務所

ニテ會談シタルカ貴電第二八二號ヲ傳ヘタルニ同人ハ東京ニ於ケル滿洲國側代表ハ獨代表ト商議シ得ル全權ヲ有シ居ルヤト訊ネタルニ付商議上ノ手續資格等ハ東京ニテ話サルルヲ可トスト答ヘ置ケリ次ニ「ウオ」ハ日本側支那占領地ニ於ケル獨逸商人カ過去三年以上ニ亘リ通常貿易ニ從事スルコトヲ得ス窮境ニ在リ之カ救済ノ見地ヨリ日本側ノ考慮ヲ促シタキ所存ナリト種々例ヲ引ケルニ付日本軍行動地域ニ於テ平常通りノ商賣ヲ實行センハ無理ナリ廣大ナル獨逸軍占領地内ニ於ケル日本ノ貿易ハ皆無ナリ在住日本人ハ全部引揚ヲ餘儀ナクセラレ居ルヲ見ハ明瞭ナルヘシ而モ在支獨商人中ニハ重慶ト通シ居ル者アリ此ノ種商人ニハ何等ノ考慮ヲ拂ヒ得ス只善良ナル者ニハ從來我カ官憲ニ於テ常ニ考慮ヲ拂ヒ居レルハ在支獨官憲ノ承知シ居ル筈ナリト答ヘ置ケリ

次ニ「ウオ」ハ對滿「クレヂツト」ハ自分カ銀行側ヲ説キ成立セシメタルカ三千萬元ノ「クレヂツト」ハ大豆ノ供給ナキ爲同轉セス今回ハ大豆ノ入手ヲ確保シタキ所存ナリト述ヘタリ

惟フニ「ウオ」ハ今回支那系獨商人側ノ在支利益擁護策ヲ講スル意圖ヲ有シ對滿「クレヂツト」ニ對シ遲着大豆ノ取付方ヲ確保スルニ重キヲ置カントスルカ如シ(因ニ過般獨支間ノ貿易ハ在支既存獨商人ノ手ヲ經サレハ許可セサル旨ヲ定メタル獨逸政府内規ヲ内密入手セリ)

465

昭和16年4月26日  
松岡外務大臣より  
在独国大島大使宛(電報)

日滿支對独注文機械および特許統制委員會の  
設置方針決定について

本省 4月26日後8時發

第三五三號  
貴電第三六四號ニ關シ  
今般日滿支ノ對獨註文ヲ統制調合スル目的ヲ以テ不取敢企畫院ニ日滿支對獨註文機械及特許統制委員會設置セラルルコトニ方針決定ヲ見タリ其ノ運用方針及構成等ニ付テハ詳細決定次第追報スヘキモ本件促進ノ必要上貴電ノ軍部民間ノ對獨註文十數億圓ノ内容貴方ニテ判明スル限リ至急御査報アリ度

466

昭和16年5月30日  
松岡外務大臣より  
在独国大島大使宛(電報)

貿易協定問題をめぐる協議状況について

本省 5月30日後7時發

第四六三號(極秘)

往電合第九八六號ニ關シ

「其ノ後主トシテ滿獨協定延長問題ニ關シ商議中ナリシ處二十七日同協定ノ實質問題及條文案等一應妥結シタルニ付三十一日新京ニ於テ右調印(「ウオ」ハ之カ爲二十八日新京ニ向ケ出發セリ)ノコトニ決定セリ同協定ノ要旨別電在滿大使宛往電第三〇三號ノ通ナリ

「右問題ノ審議意外ニ暇取リタル爲日獨間ノ問題ニ付テハ左ノ程度迄話合ヲ進メタルニ過キサルモ討議ハ大體順調ニ進ミツツアリ(支那ニ關スル討議ハ未タ正式ニ開始シ居ラス)

(イ)我對獨輸出入品ニ付テハ曩ニ在京獨大使館ヲ通シ申入レ置キタル我方希望品目表ヲ基礎トシテ一口ノ品目ニ付彼我事務當局間ニ商議セルカ双方ノ意見ニハ大ナル懸隔ナク我方ノ重視スル特殊鋼、機械類ノ供給ニ付テ

モ大ナル支障ナカルヘキコト判明セリ尤モ未タ意見ノ  
合致セサルモノモアル處右ニ付テハ目下獨側ニ於テ本  
國政府ニ請訓中ナリ

(ロ)技術協力協定ニ付テハ獨側ニ於テモ原則トシテ日本ニ  
協力スルノ用意アルコトヲ再三聲明シ右同様曩ニ我方  
ヨリ提示セル品目表ニ付彼我事務當局(我關係省ヲ含  
ム)間ニ協議ヲ重ネタル結果獨側ノ供給シ得ヘキ品目  
ニ付大體ノ見當ツキタルモ獨側トシテハ今後速ニ貴地  
ニ於テモ獨側(陸海空軍及外務、經濟兩省當局)ト日本  
側(貴館及陸海軍)トノ混合協議會ヲ開キ同會議ニ於テ  
本件技術協定ニ依ル日本側希望ノ詳細ヲ聽取シタル上  
其可能ナルモノヨリ着々業者間ノ契約ヲモ締結セシム  
ルコト可然シ(獨逸トシテハ明年度ノ產業計畫樹立ノ  
關係モアリ早目ニ日本側ノ具體的要求ヲ知ルニ非サレ  
ハ協定成立スルトモ日本必需品ノ製作ニ着手シ得サル  
惧アリ)トノ意見ナリ仍テ我方トシテモ直ニ關係省ニ  
於テ品目表ノ内容ヲ再檢討シ整理ノ上在貴地關係ノ向  
ニ夫々現地交渉方訓令ノコトニ決定セリ從テ當地交渉  
ニ於テハ滿側ト「オットウオルフ」トノ協定ニ類スル

「フレームワーク」ヲ作ルニ止ムル所存ナリ

尙獨側ハ特定必需品ノ供給技師ノ交換等ニ關スル兩政  
府間ノ諒解ニ付テハ技術協定附屬書トシテ交換公文ヲ  
ナスコトニモ異議ナキ趣ナリ

(ハ)又獨側ヨリ獨逸ト極東、南洋及中南米間貿易品ノ本邦  
通過邦船積取及買付方法等ニ關スル日獨提携問題ニ付  
提案アリタル處本件ハ日本ノ必要トスル原料品確保及  
英側ニ依ル邦船積載貨物差押問題等トモ關聯シ我方ニ  
取りテハ極メテ重大ナル問題ナルニ付之カ取扱方ニ付  
目下慎重考究中ナリ

## 編 注

太平洋戦争開戦後の經濟協力をめぐる日独交渉につい  
ては、『日本文献』 太平洋戦争』第一冊の「Ⅲ

対独伊關係 一 戦争協力をめぐる対独伊施策」を参

照。

~~~~~